

令和 7 年度

シラバス

学校法人 福岡医療学院
福岡医療専門学校

鍼灸科

令和 7 年度 福岡医療専門学校 鍼灸科 シラバス 目次

教 育 理 念		P 1
育 成 人 材 像		P 1
教育課程編成・実施の方針		P 1
科目及び授業時間数		P 2
基 礎 分 野		P 3
専門基礎分野		P13
専 門 分 野		P42

教育理念

親が子に残せる唯一の財産は教育である。

育成人材像

多様な患者ニーズに対し、東洋医学と西洋医学の両面からアプローチできる専門的な知識、技能、コミュニケーション能力および豊かな人間性を持った鍼灸師を育成する。

教育課程編成・実施の方針

1. 人間と社会の仕組みを幅広く理解し、コミュニケーション力を高める能力を養う「基礎分野」の科目を設置する。
2. 人体の構造と機能、疾病の成り立ちと回復の促進、社会保障制度および職業倫理を理解する能力を養う「専門基礎分野」の科目を設置する。
3. 東洋医学と西洋医学の両面から疾病を理解し、安全にはり・きゅうを実践できる能力や探求心を養う「専門分野」の科目を設置する。

鍼灸科 科目及び授業時間数

令和7年度 入学生				単位数	時間数	1年		2年		3年		
分野	教育内容	科目名	科目略語			単位数	時間数	単位数	時間数	単位数	時間数	
基礎分野	科学的思考の基盤人間と生活	心理学	心理	2	30	2	30					
		表現法Ⅰ	表現Ⅰ	2	30	2	30					
		表現法Ⅱ	表現Ⅱ	2	30			2	30			
		社会学	社会	2	30	2	30					
		生物	生物	1	15	1	15					
		保健体育	保体	1	30	1	30					
		外国語Ⅰ	外国Ⅰ	2	30	2	30					
		外国語Ⅱ	外国Ⅱ	2	30			2	30			
		小 計		14	225	10	165	4	60			
専門基礎分野	人体の構造と機能	解剖学Ⅰ	解剖Ⅰ	2	60	2	60					
		解剖学Ⅱ	解剖Ⅱ	2	60	2	60					
		解剖学Ⅲ	解剖Ⅲ	2	60					2	60	
		生理学Ⅰ	生理Ⅰ	2	60	2	60					
		生理学Ⅱ	生理Ⅱ	2	60	2	60					
		生理学Ⅲ	生理Ⅲ	2	60					2	60	
		運動学	運動	1	30			1	30			
		小 計		13	390	8	240	1	30	4	120	
	疾病の成り立ち、その予防及び回復の促進	病理学概論	病理	2	60			2	60			
		臨床医学総論	臨総	2	60			2	60			
		臨床医学各論Ⅰ	臨各Ⅰ	2	60			2	60			
		臨床医学各論Ⅱ	臨各Ⅱ	2	60					2	60	
		衛生学・公衆衛生学	衛生	2	60	2	60					
		リハビリテーション医学	リハ	2	60			2	60			
		小 計		12	360	2	60	8	240	2	60	
	保健医療福祉とはり、きゅうの理念	医療概論	医概	1	30	1	30					
		関係法規Ⅰ	法規Ⅰ	1	30	1	30					
		関係法規Ⅱ	法規Ⅱ	1	30					1	30	
		小 計		3	90	2	60			1	30	
	専門分野	基礎はり学・きゅう学	東洋医学概論Ⅰ	東概Ⅰ	2	60	2	60				
			東洋医学概論Ⅱ	東概Ⅱ	2	60			2	60		
			経絡経穴概論Ⅰ	経穴Ⅰ	2	60	2	60				
			経絡経穴概論Ⅱ	経穴Ⅱ	2	60			2	60		
			経絡経穴概論Ⅲ	経穴Ⅲ	1	30					1	30
			小 計		9	270	4	120	4	120	1	30
		臨床はり学・きゅう学	臨床生体学	生体	1	30	1	30				
			鍼灸理論Ⅰ	はき理Ⅰ	3	90			3	90		
鍼灸理論Ⅱ			はき理Ⅱ	1	30					1	30	
病態生理学			病態	2	30			2	30			
東洋医学臨床論Ⅰ			東臨Ⅰ	2	60			2	60			
東洋医学臨床論Ⅱ			東臨Ⅱ	2	60			2	60			
東洋医学臨床論Ⅲ			東臨Ⅲ	2	60					2	60	
小 計				13	360	1	30	9	240	3	90	
社会はり学・きゅう学		社会鍼灸学Ⅰ	社はきⅠ	1	30			1	30			
		社会鍼灸学Ⅱ	社はきⅡ	1	30					1	30	
		小 計		2	60			1	30	1	30	
実習		鍼灸実技Ⅰ	実技Ⅰ	2	60	2	60					
		鍼灸実技Ⅱ	実技Ⅱ	2	60	2	60					
		鍼灸実技Ⅲ	実技Ⅲ	1	30	1	30					
		鍼灸実技Ⅳ	実技Ⅳ	1	30	1	30					
		鍼灸実技Ⅴ	実技Ⅴ	2	60			2	60			
		鍼灸実技Ⅵ	実技Ⅵ	2	60			2	60			
		鍼灸実技Ⅶ	実技Ⅶ	1	30			1	30			
		鍼灸実技Ⅷ	実技Ⅷ	2	60					2	60	
		鍼灸実技Ⅸ	実技Ⅸ	2	60					2	60	
		小 計		15	450	6	180	5	150	4	120	
臨床実習		臨床実習Ⅰ	臨床Ⅰ	1	45	1	45					
		臨床実習Ⅱ	臨床Ⅱ	1	45			1	45			
		臨床実習Ⅲ	臨床Ⅲ	1	45					1	45	
		臨床実習Ⅳ	臨床Ⅳ	1	45					1	45	
		小 計		4	180	1	45	1	45	2	90	
総合領域		総合領域	総領<解剖>	10	6					0.2	6	
			総領<生理>		6					0.2	6	
			総領<病理>		36					1.2	36	
			総領<臨総>		36					1.2	36	
			総領<臨各>		30					1.0	30	
			総領<衛生>		21					0.7	21	
			総領<リハ>		42					1.4	42	
			総領<法規>		3					0.1	3	
			総領<はき理>		6					0.2	6	
			総領<東概>		66					2.2	66	
			総領<経穴>		36					1.2	36	
			総領<東臨>		12					0.4	12	
		小 計			10	300					10.0	300
	合 計				95	2685	34	900	33	915	28	870

科目名	心理学				鍼灸科 I 部			
学年	1 年	学期	2 学期		時間数	30 時間	単位数	2 単位
科目 責任者	井上 哲雄			科目 担当者	井上 哲雄			
科目 概要	心理学の基礎的なことから近年、関心の高い臨床心理学や脳の働きなどを学習する。また、発達障害、認知症、動機づけ、情動、学習、脳科学について事例や日常的な出来事の詳細を通して詳しく学習する。							
到達 目標	人間の心理と行動を理解することにより、自己コントロール能力を高める 専門的仕事においての患者への正確な理解能力を高める。							
回数	単元項目		授業内容				形態	担当教員
1	心理学とは		心理学とは、心理学の歴史、研究方法				講義	井上
2	心の進化		心の進化、ヒトのユニークさ				講義	井上
3	心の発達		乳幼児期の心理				講義	井上
4	ライフサイクル		生涯発達、青年期、高齢者				講義	井上
5	動機づけと情動		動機づけの種類、情動				講義	井上
6	性格		類型論と特性論、性格検査				講義	井上
7	知能		知能とは、知能検査				講義	井上
8	ストレスとメンタルヘルス		ストレスと対処行動				講義	井上
9	カウンセリングと心理療法		心理療法の諸流派				講義	井上
10	感覚、知覚		感覚、形の知覚、奥行き知覚				講義	井上
11	記憶		短期記憶、長期記憶				講義	井上
12	学習、言語		学習とは、条件づけ、社会的学習				講義	井上
13	脳と心		脳の機能、大脳辺縁系、新皮質				講義	井上
14	脳損傷と心の働き		失認、失語				講義	井上
15	社会の中の人		社会的促進、集団、同調、他者認知				講義	井上
評価方法								
評価指標		小テスト	-	-	-	-	-	合計
評価割合 (%)		100	-	-	-	-	-	100
教科書	はじめて出会う心理学 長谷川一寿・東條正城・大島尚・丹野義彦・廣中直行 有斐閣 ¥2,000＋税							
教材・参考図書		適宜紹介する。						
オフィスアワー		講義時に適宜確認すること。						
履修上の 注意点		授業の復習を充分に行うこと。						

科目名	表現法 I				鍼灸科 I 部		
学年	1 年	学期	1～3 学期	時間数	30 時間	単位数	2 単位
科目 責任者	竹下 政雄			科目 担当者	竹下 政雄		
科目 概要	円滑な人間関係の構築を実現するための基盤としてのコミュニケーション力(主 として、話す力・聞く力・書く力)を育成する。						
到達 目標	音声言語による聴聞及び伝達に関する基礎的な知識・技能を深め、活用できる。 文字言語による表現力に関する基礎的な知識・技能を深め、相手や目的に応じて文章を作成できる。						
回数	単元項目		授業内容			形態	担当教員
1	オリエンテーション、返信用はがき		学習目標、学習内容及び履修上の注意点等 返信用はがきの作成と留意点			講義 演習	竹下
2	敬語(1)		5 種類の敬語と相互の関連、体的な語の収集			演習	竹下
3	敬語(2)		尊敬語、謙譲語の基本形の把握 敬語の誤った使い方の理解			演習	竹下
4	敬語(3)、日常語句		敬語使用上の留意点(レポート) おかしな日本語(誤って使われている語句)			講義 演習	竹下
5	解説文(1)		語句と敬語の誤使用の解説文の理解、構想			講義 演習	竹下
6	解説文(2)、私文書(1)		語句と敬語誤使用の解説文作成(レポート) 手紙文の書式の理解			講義 演習	竹下
7	私文書(2)		近況報告文の作成のための集材・選材 近況報告文の作成(レポート)			講義 演習	竹下
8	公文書(1)		公文書の書式の理解 履歴書の送り状作成 公文書(実例)の検討			講義	竹下
9	公文書(2)、小論文 A(1)		講演会の案内状作成(レポート) 例文の理解(内容、構成等作成上の注意等)			講義 演習	竹下
10	小論文 A(2)		小論文(課題 私の長所)集材・選材・構想、下書き			演習	竹下
11	小論文 A(3)		小論文(課題 私の長所)完成			演習	竹下
12	信頼関係構築		非言語的内容から生まれる信頼関係 言語的内容から生まれる信頼関係			講義	竹下
13	小論文 B(1)		小論文(課題 私の信頼関係構築術)構想、下書き			演習	竹下
14	小論文 B(2)		小論文(課題 私の信頼関係構築術)完成			演習	竹下
15	表現法学習の総括		一学年学習内容の総括			講義	竹下
評価方法							
評価指標		私文書	公文書	レポート	小論文	プレゼンテーション	合計
評価割合(%)		20	20	20	30	10	100
教科書	適宜、プリントを配布する。						
教材・参考図書		適宜、プリントを配布する。					
オフィスアワー		講義時に適宜確認すること。					
履修上の 注意点		演習では各時間の中でレポート課題を課すため必ず提出すること。					

科目名	表現法Ⅱ				鍼灸科Ⅰ部			
学年	2 年	学期	1～3 学期	時間数	30 時間	単位数	2 単位	
科目 責任者	山本 恵里子			科目 担当者	山本 恵里子			
科目 概要	円滑な人間関係の構築を実現する基盤としてのコミュニケーションの力（話す力・聴く力・読む力・書く力）を育成する。講師作成の教材に基づく講義や演習を通して、場面に応じた応対ができるよう、実践的な力を養成する。							
到達 目標	①考える力、話し聴く力、読み書く力の基礎となる日本語に対する感性を養う。 ②目的と相手に応じた文書（履歴書、送り状など）が作成できるようになる。 ③場面と相手に応じた応対（説明、医療面接など）が適切にできるようになる。							
回数	単元項目		授業内容			形態	担当教員	
1	オリエンテーション		授業内容の概要説明、新聞について、5W1H			講義	山本	
2	自分新聞をつくろう(1)		材料集め、構成、新聞づくり			演習	山本	
3	自分新聞をつくろう(2)		新聞づくり→相互評価			演習	山本	
4	聴く力・話す力の基礎		聴くことの留意点、話の構成の仕方、傾聴			講義	山本	
5	スピーチ・敬語(1)		スピーチの評価・敬語の必要性、敬語の種類			演習	山本	
6	スピーチ・敬語(2)		スピーチの評価・敬語の種類とその使い方			演習	山本	
7	短い文章の作成		新聞記事を利用し、短い文章を書く			演習	山本	
8	スピーチ・敬語まとめ		スピーチの評価・敬語まとめテスト			演習	山本	
9	スピーチ・読解問題		スピーチの評価・読解力養成問題とその解説			演習	山本	
10	読解力の養成(1)		読解力養成問題とその解説			演習	山本	
11	読解力の養成(2)		読解力養成問題とその解説			演習	山本	
12	短い文章の作成		テーマ「私の出会った神対応」 構想と構成			演習	山本	
13	履歴書の作成		履歴書作成上の留意点、履歴書作成			講義	山本	
14	就職のための面接		面接の作法、模擬面接			演習	山本	
15	まとめ		コミュニケーションの基本について再確認			講義	山本	
評価方法								
評価指標		提出プリント	自分新聞	履歴書	スピーチ等	短文章	小テスト	合計
評価割合(%)		40	15	10	15	10	10	100
教科書	適宜、プリントを配布する。							
教材・参考図書		適宜、プリントを配布する。						
オフィスアワー		講義時に適宜確認すること。						
履修上の 注意点		講義をしっかりと聞いて、演習に臨むこと。また、課題の提出期日に遅れず提出すること。						

科目名	社会学				鍼灸科Ⅰ部		
学年	1 年	学期	1 学期	時間数	30 時間	単位数	2 単位
科目 責任者	田頭 洋一			科目 担当者	田頭 洋一		
科目 概要	現代社会における様々な問題を発見し、考察することで社会への興味・関心を高め、医療人として必要な社会的基礎知識を身につける。またグループワークを通して傾聴性・協調性等、様々な能力を育成する。						
到達 目標	現代社会に起こる様々な現象がどのような原因で起こり、どんな結果をもたらすかを解明し、医療現場での社会的役割に活かせる判断力や態度を身につける。						
回数	単元項目		授業内容			形態	担当教員
1	社会学とは		人間の営み			講義	田頭
2	個人と社会		集団と組織			講義	田頭
3	文化とは何か		伝統と歴史			講義	田頭
4	家族とは何か		恋愛・結婚そして家族の個人化について			講義	田頭
5	国家がある意味とは		単一民族と多民族、ガンディーの姿勢			講義	田頭
6	失業や貧困問題を克服できるか		市場経済と計画経済			講義	田頭
7	世界と日本(1)		世界と日本			講義	田頭
8	人間関係を考える		ブログ・ライン・SNS について			講義	田頭
9	脳死と臓器移植		生命倫理について			講義	田頭
10	子育てや介護を他人に任せてもいいのか		福祉を通して現在・未来を考える			講義	田頭
11	自殺する自由はあるのか		身体は自分だけのものか			講義	田頭
12	代理母で子供を持つことはいいのか		養子縁組や母・父として			講義	田頭
13	ギャンブル依存症とドーピング、死刑について		身体と精神の健全性、有罪と無罪			講義	田頭
14	世界と日本(2)		世界と日本			講義	田頭
15	世界の環境と人類の将来		自然・人口・災害・復興			講義	田頭
評価方法							
評価指標		レポート	-	-	-	-	合計
評価割合 (%)		100	-	-	-	-	100
教科書	なし						
教材・参考図書		適宜紹介する。					
オフィスアワー		講義時に適宜確認すること。					
履修上の 注意点	常に新聞記事を読み、時事問題に関心をもつことが必要である。講義中に板書した内容はノート記入すること。板書の内容が試験として出題されるので、ノートを中心に復習すること。						

科目名	生物				鍼灸科Ⅰ部		
学年	1 年	学期	1 学期	時間数	15 時間	単位数	1 単位
科目 責任者	田淵 弘太郎			科目 担当者	田淵 弘太郎		
科目 概要	生理学は、人体の機能を明らかにし、その機能がどのような機序で現れるかを追求する学問である。本科目は、主として生理学を学ぶ上で必要となる基礎知識を学習する。						
到達 目標	人体を構成するのに必要な栄養素を、原子やイオンの観点を踏まえ理解し説明することができる。						
回数	単元項目		授業内容			形態	担当教員
1	生物の要素		人体を構成する要素(組織・器官)			講義	田淵
2	体内環境		ホメオスタシス			講義	田淵
3	生体の物質(1)		原子の構造、イオンと同位体			講義	田淵
4	生体の物質(2)		分子と化学結合、栄養素の種類(5 大栄養素)			講義	田淵
5	生体の物質(3)		糖質の種類と構成元素、蛋白質の種類と構成元素			演習	田淵
6	生体の物質(4)		蛋白質の機能、脂質の種類と構成元素、栄養素の代謝			講義	田淵
7	評価		1～6 回の評価			演習	田淵
8	総括		生物の総括			講義	田淵
評価方法							
評価指標		定期試験	小テスト	－	－	－	合計
評価割合(%)		90	10	－	－	－	100
教科書	公益社団法人東洋療法学校協会編 生理学第 3 版 医歯薬出版株式会社 4,800 円＋税						
教材・参考図書		適宜紹介する。					
オフィスアワー		講義時に適宜確認すること。					
履修上の 注意点		この講義では板書を主体に行う。各講義は、重要なポイントについて説明する。人体の機能を理解するうえで必須となる内容となるため、安易に覚えるのではなく考え方を理解することが必要である。また、復習を中心に自宅学習を行うこと。					

科目名	保健体育				鍼灸科Ⅰ部			
学年	1 年	学期	2 学期	時間数	30 時間	単位数	1 単位	
科目 責任者	田中 七郎			科目 担当者	田中 七郎、當眞 裕樹			
科目 概要	本講義では、生涯にわたりスポーツを楽しみ、体力及び健康の保持増進を図る目的で、主に生涯スポーツ種目を配置している。また、実技を伴う講義をとおして、集団の中での個の役割を自覚すること、他者との関わりから社会性を育むことを主眼とする。							
到達 目標	健全な心身を育成し、礼節をわきまえた人格を形成する。							
回数	単元項目		授業内容			形態	担当教員	
1	オリエンテーション 体力づくり		授業を行うにあたっての心構え 生活に必要な基礎体力を養う			実技	田中、當眞	
2	ラジオ体操 1		ラジオ体操 1～13 の内容を理解し、各グループに分かれて練習する			実技	田中、當眞	
3	ラジオ体操 2		ラジオ体操 1～13 の内容を理解し、各グループに分かれて練習する			実技	田中、當眞	
4	ラジオ体操 3		グループ発表			実技	田中、當眞	
5	ラジオ体操 4		前回のグループ発表時の課題修正			実技	田中、當眞	
6	実技評価		実技評価			実技	田中、當眞	
7	シッティング バレーボール 1		ルールの理解。基本技能（パス・アタック・ブロック・サーブ等）を各チームで練習し、習得する			実技	田中、當眞	
8	シッティング バレーボール 2		リーグ戦。ゲームを通じて、勝敗を競う課程や結果を求める楽しさ、喜びを味わう/ルールの理解を深めるため、学生主体でゲームを進める			実技	田中、當眞	
9	シッティング バレーボール 3		トーナメント。ルールの理解を深めるため、学生主体でゲームを進める			実技	田中、當眞	
10	実技評価		実技評価			実技	田中、當眞	
11	ファミリーバドミントン 1		ルールの理解。基本技能（サーブ、ラリー等）を各チームで練習し、習得する			実技	田中、當眞	
12	ファミリーバドミントン 2		リーグ戦。ゲームを通じて、勝敗を競う課程や結果を求める楽しさ、喜びを味わう/ルールの理解を深めるため、学生主体でゲームを進める			実技	田中、當眞	
13	ファミリーバドミントン 3		トーナメント。ルールの理解を深めるため、学生主体でゲームを進める			実技	田中、當眞	
14	総括		筆記評価			演習	田中、當眞	
15	実技評価		実技評価			実技	田中、當眞	
評価方法								
評価指標		実技	筆記	-	-	-	合計	
評価割合 (%)		50	50	-	-	-	100	
教科書	なし							
教材・参考図書		適宜紹介する。						
オフィスアワー		講義時に適宜確認すること。						
履修上の 注意点		団体行動を基本とするため、協調性を持って積極的に取り組むこと。 その他注意事項は、初回授業時に説明をする。						

科目名	外国語 I				鍼灸科 I 部			
学年	1 年	学期	1～3 学期	時間数	30 時間	単位数	2 単位	
科目 責任者	井原 恒治			科目 担当者	井原 恒治			
科目 概要	テキスト鍼灸マッサージ師のための英会話ハンドブックに沿って、医療に関係する基本的な英語を学習していく。窓口、電話での応対、主訴を聞く等の基本的な Speaking、Listening、Reading、Writing を行う。							
到達 目標	英語で基本的な受付応対、主訴の聞き取り、検査等を行うことができる。その他、教養英語についても理解できる。							
回数	単元項目		授業内容			形態	担当教員	
1	Introduction ・		Self-introduction ・			講義	井原	
2	【第 3 章 Situation1】 受付		【第 3 章 Situation1】(Speaking・Writing ・Practice)			講義	井原	
3	【第 3 章 Situation1】 受付		【第 3 章 Situation1】(Speaking・Writing ・Practice)			講義	井原	
4	【第 3 章 Situation1.2】 受付・電話の対応		【第 3 章 Situation1.2】(Speaking・Writing ・Practice)			講義	井原	
5	【第 3 章 Situation1.2】 受付・電話の対応		【第 3 章 Situation1.2】(Speaking・Writing ・Practice)			講義	井原	
6	Speaking ・ Writing		Speaking ・ Writing			講義	井原	
7	【第 3 章 Situation2】 電話の対応		【第 3 章 Situation2】(Speaking・Writing ・Practice)			講義	井原	
8	【第 3 章 Situation2】 電話の対応		【第 3 章 Situation2】(Speaking・Writing ・Practice)			演習	井原	
9	Speaking ・ Writing		Speaking ・ Writing			講義	井原	
10	【第 3 章 Situation3】 新しい患者さんとの治療前 のやりとり		【第 3 章 Situation3】(Speaking・Writing ・Practice)			講義	井原	
11	【第 3 章 Situation3】 新しい患者さんとの治療前 のやりとり		【第 3 章 Situation3】(Speaking・Writing ・Practice)			演習	井原	
12	Speaking ・ Writing		Speaking ・ Writing			講義	井原	
13	【第 3 章 Situation3.4】 新しい患者さんとの治療前 のやりとり・問診		【第 3 章 Situation3.4】(Speaking・Writing ・Practice)			講義	井原	
14	【第 3 章 Situation3.4】 新しい患者さんとの治療前 のやりとり・問診		【第 3 章 Situation3.4】(Speaking・Writing ・Practice)			講義	井原	
15	Speaking ・ Writing		Speaking ・ Writing			講義	井原	
評価方法								
評価指標		Speaking	Writing	Attitude	－	－	合計	
評価割合 (%)		40	30	30	－	－	100	
教科書	鍼灸マッサージ師のための英会話ハンドブック 株式会社医道の日本社 2,500 円＋税							
教材・参考図書		適宜紹介する。						

オフィスアワー	講義時に適宜確認すること。
履修上の 注意点	授業の復習を充分に行うこと。

科目名	外国語Ⅱ				鍼灸科Ⅰ部			
学年	2 年	学期	1～3 学期		時間数	30 時間	単位数	2 単位
科目 責任者	井原 恒治			科目 担当者	井原 恒治			
科目 概要	テキスト鍼灸マッサージ師のための英会話ハンドブックに沿って、医療に関係する基本的な英語を学習していく。主訴を聞く事、施術の注意事項等の基本的な Speaking、Listening、Reading、Writing を行う。							
到達 目標	英語で基本的な主訴の聞き取り、施術の案内等を行うことができる。 その他、教養英語についても理解できる。							
回数	単元項目		授業内容			形態	担当教員	
1	Introduction・		Self-introduction・			講義	井原	
2	【第3章 Situation4】 問診		【第3章 Situation4】(Speaking・Writing・Practice)			講義	井原	
3	【第3章 Situation4】 問診		【第3章 Situation4】(Speaking・Writing・Practice)			演習	井原	
4	【第3章 Situation5】 検査		【第3章 Situation5】(Speaking・Writing・Practice)			講義	井原	
5	【第3章 Situation5】 検査		【第3章 Situation5】(Speaking・Writing・Practice)			講義	井原	
6	Speaking・Writing		Speaking・Writing			講義	井原	
7	【第3章 Situation5.6】 検査・鍼灸施術		【第3章 Situation5.6】(Speaking・Writing・Practice)			演習	井原	
8	【第3章 Situation5.6】 検査・鍼灸施術		【第3章 Situation5.6】(Speaking・Writing・Practice)			講義	井原	
9	Speaking・Writing		Speaking・Writing			講義	井原	
10	【第3章 Situation6】 鍼灸施術		【第3章 Situation6】(Speaking・Writing・Practice)			演習	井原	
11	【第3章 Situation6】 鍼灸施術		【第3章 Situation6】(Speaking・Writing・Practice)			講義	井原	
12	Speaking・Writing		Speaking・Writing			講義	井原	
13	【第3章 Situation7】 あん摩マッサージ指圧施術		【第3章 Situation7】(Speaking・Writing・Practice)			講義	井原	
14	【第3章 Situation7】 あん摩マッサージ指圧施術		【第3章 Situation7】(Speaking・Writing・Practice)			講義	井原	
15	Speaking・Writing		Speaking・Writing			演習	井原	
評価方法								
評価指標		Speaking	Writing	Attitude	－	－	－	合計
評価割合(%)		40	30	30	－	－	－	100
教科書	鍼灸マッサージ師のための英会話ハンドブック 株式会社医道の日本社 2,500 円＋税							
教材・参考図書		適宜紹介する。						
オフィスアワー		講義時に適宜確認すること。						
履修上の 注意点	授業の復習を充分に行うこと。							

科目名	解剖学Ⅰ				鍼灸科Ⅰ部		
学年	1 年	学期	1～3 学期	時間数	60 時間	単位数	2 単位
科目 責任者	本郷 裕美			科目 担当者	本郷 裕美		
科目 概要	解剖学では人体の構造を学ぶ。医学の基礎となる人体の構造を知らなければ病気を理解することができず、当然治療することもできない。この科目では、その基礎となる人体の正常な構造を知るために、まずは細胞や組織から始まり、脈管系、運動器系(骨格系、筋系、体表解剖)について学習する。						
到達 目標	細胞の種類や働きを理解する。血液の働きを理解し、循環ルートを説明できる。骨と筋の構造や作用を学ぶことで、関節運動がどのように行われているか説明できる。実際に身体に触れて、その部位の名称を答えられる。正常な構造を学び、何が異常なのかを理解する。						
回数	単元項目		授業内容			形態	担当教員
1	人体の構成(1)		細胞膜、細胞小器官			講義	本郷
2	人体の構成(2)		細胞骨格、細胞核、細胞分裂、遺伝子			講義	本郷
3	人体の構成(3)		上皮組織、結合組織			講義	本郷
4	人体の構成(4)		筋組織、神経組織			講義	本郷
5	人体の構成(5)		体表構造、人体の区分と方向			講義	本郷
6	運動器系(1)		総論(骨格系)、骨の形状、骨の連結			講義	本郷
7	評価(1)		1～6 回の評価			演習	本郷
8	運動器系(2)		関節の種類、全身の骨格			講義	本郷
9	運動器系(3)		脊柱の構成、各部の椎骨、脊柱の弯曲			講義	本郷
10	運動器系(4)		胸郭、上肢の骨格、上肢帯の骨、自由上肢の骨、上肢の関節			講義	本郷
11	運動器系(5)		下肢の骨格、下肢帯の骨、自由下肢の骨、下肢の関節			講義	本郷
12	運動器系(6)		頭蓋骨の成り立ち、脳頭蓋をつくる骨、顔面頭蓋をつくる骨、頭部の関節、顎関節			講義	本郷
13	運動器系(7)		総論(筋系)体幹の筋、胸筋			講義	本郷
14	評価(2)		8～13 回の評価			演習	本郷
15	運動器系(8)		腹筋、会陰筋、背筋、体幹の運動、体幹の局所解剖			講義	本郷
16	運動器系(9)		上肢帯の筋、上腕の筋			講義	本郷
17	運動器系(10)		前腕の筋、手の筋、上肢の運動、上肢の局所解剖			講義	本郷
18	運動器系(11)		下肢帯の筋、大腿の筋、下腿の筋、足の筋			講義	本郷
19	運動器系(12)		下肢の運動、下肢の局所解剖、頭頸部の筋、頭頸部の体表および局所解剖			講義	本郷
20	脈管系(1)		血管系、体循環と肺循環、血管の構造			講義	本郷
21	脈管系(2)		吻合、門脈、心臓			講義	本郷
22	評価(3)		15～21 回の評価			演習	本郷
23	脈管系(3)		動脈系、肺循環の動脈系、大動脈、上行大動脈および大動脈弓とその枝			講義	本郷
24	脈管系(4)		胸大動脈とその枝、腹大動脈とその枝、総腸骨動脈・内			講義	本郷

		腸骨動脈とその枝					
25	脈管系(5)	体幹の脈管(動脈)、上肢の脈管(動脈)、下肢の脈管(動脈)				講義	本郷
26	脈管系(6)	脳の血管、頭頸部の脈管(動脈)肺循環の静脈系、上大静脈に注ぐ枝、門脈				講義	本郷
27	脈管系(7)	骨盤内臓の静脈、体幹の脈管(静脈)、上肢の脈管(静脈)、下肢の脈管(静脈)、頭頸部の脈管(静脈)				講義	本郷
28	脈管系(8)	胎児循環、リンパ系の全体像、走行、本幹、リンパ系器官、体幹のリンパ、上肢のリンパ、下肢のリンパ、頭頸部のリンパ				講義	本郷
29	評価(4)	23～28 回の評価				演習	本郷
30	総括	解剖学Ⅰの総括				講義	本郷
評価方法							
評価指標		定期試験	－	－	－	－	合計
評価割合(%)		100	－	－	－	－	100
教科書	公益社団法人東洋療法学校協会編 解剖学第 2 版 医歯薬出版株式会社 5,900 円＋税						
教材・参考図書		適宜紹介する。					
オフィスアワー		講義時に適宜確認すること。					
履修上の 注意点		解剖学で学ぶ知識は膨大な量があるので、確実に身につけていくためには予習・復習が欠かせない。最低限、各 1 時間の予習・復習を徹底して行うこと。また、授業における板書では図を多用するので、色分けができるよう、ノートと 4 色以上のボールペン、もしくは色鉛筆を必ず準備すること。					

科目名	解剖学Ⅱ				鍼灸科Ⅰ部		
学年	1 年	学期	1～3 学期	時間数	60 時間	単位数	2 単位
科目 責任者	新井 文用			科目 担当者	新井 文用		
科目 概要	解剖学では人体の構造を学ぶ。医学の基礎となる人体の構造を知らなければ病気を理解することができず、当然治療することもできない。医療を志す者にとっては最も重要で基本的な科目となる。この科目では呼吸器系、消化器系、泌尿器系、生殖器系、内分泌系、神経系、感覚器系について学習する。						
到達 目標	内臓系の位置と構造を三次元的にイメージし、その基本的な働きを理解する。神経系と内分泌系の構造を理解し、他の組織とのつながりを説明できる。感覚器系の構造と働きを理解する。						
回数	単元項目		授業内容			形態	担当教員
1	呼吸器系(1)		鼻腔、副鼻腔、咽頭、喉頭			講義	新井
2	呼吸器系(2)		気管と気管支、肺			講義	新井
3	消化器(1)		消化管の基本構造、口腔			講義	新井
4	消化器(2)		咽頭、食道、胃			講義	新井
5	消化器(3)		小腸、大腸、肝臓			講義	新井
6	消化器(4)		胆嚢、膵臓、腹膜			講義	新井
7	評価(1)		1～6 回の評価			演習	新井
8	泌尿器系(1)		腎臓の構造			講義	新井
9	泌尿器系(2)		尿管、膀胱、尿道			講義	新井
10	生殖器系(1)		男性生殖器			講義	新井
11	生殖器系(2)		女性生殖器			講義	新井
12	生殖器系(3)		受精と発生			講義	新井
13	内分泌系(1)		下垂体、松果体、甲状腺、上皮小体			講義	新井
14	評価(2)		8～13 回の評価			演習	新井
15	内分泌系(2)		副腎、膵臓、性腺			講義	新井
16	神経系(1)		神経系の構成、中枢神経、脊髄、延髄と橋			講義	新井
17	神経系(2)		中脳、小脳、間脳			講義	新井
18	神経系(3)		大脳、脳室系			講義	新井
19	神経系(4)		伝導路、脳脊髄液			講義	新井
20	神経系(5)		脳神経(1)			講義	新井
21	神経系(6)		脳神経(2)			講義	新井
22	評価(3)		15～21 回の評価			演習	新井
23	神経系(7)		脊髄神経			講義	新井
24	神経系(8)		自律神経、体幹の神経			講義	新井
25	神経系(9)		上肢の神経、下肢の神経			講義	新井
26	神経系(10)		頭頸部の末梢神経			講義	新井

27	感覚器(1)	視覚器	講義	新井
28	感覚器(2)	平衡聴覚器、味覚器、嗅覚器	講義	新井
29	評価(4)	22～28 回の評価	演習	新井
30	総括	解剖学Ⅱの総括	講義	新井
評価方法				
評価指標	定期試験	－	－	－
評価割合(%)	100	－	－	－
教科書	公益社団法人東洋療法学校協会編 解剖学第 2 版 医歯薬出版株式会社 5,900 円＋税			
教材・参考図書	適宜紹介する。			
オフィスアワー	講義時に適宜確認すること。			
履修上の 注意点	解剖学で学ぶ知識は膨大な量があるので、確実に身につけていくためには予習・復習が欠かせない。最低限、各 1 時間の予習・復習を徹底して行うこと。また、授業における板書では図を多用するので、色分けができるよう、ノートと 4 色以上のボールペン、もしくは色鉛筆を必ず準備すること。			

科目名	解剖学Ⅲ				鍼灸科Ⅰ部		
学年	3 年	学期	1～2 学期	時間数	60 時間	単位数	2 単位
科目 責任者	長門 俊一			科目 担当者	長門 俊一		
科目 概要	1 年次において履修した解剖学Ⅰ、解剖学Ⅱをもとに応用能力を養う。1 年次に獲得した知識を更に深化させ、疾病の理解に活用することができる応用力を身につける。						
到達 目標	人体の細胞および組織、各種系統の名称、働きを説明できる。						
回数	単元項目		授業内容			形態	担当教員
1	人体解剖学概説		人体各部の名称など解剖学的用語			講義	長門
2	細胞および組織(1)		細胞内小器官			講義	長門
3	細胞および組織(2)		細胞周期と細胞分裂			講義	長門
4	細胞および組織(3)		組織の分類と特性			講義	長門
5	細胞および組織(4)		人体の発生			講義	長門
6	脈管系(1)		血管系、心臓			講義	長門
7	脈管系(2)		動脈系、肺循環の動脈、体循環の動脈			講義	長門
8	脈管系(3)		静脈系、肺循環の静脈、体循環の静脈			講義	長門
9	脈管系(4)		体幹、上肢の脈管			講義	長門
10	脈管系(5)		下肢の脈管、頭頸部の脈管			講義	長門
11	脈管系(6)		胎児循環、リンパ系			講義	長門
12	運動器系(1)		総論、脊柱、胸郭、上肢の骨格			講義	長門
13	運動器系(2)		下肢の骨格、頭蓋骨、体幹の筋			講義	長門
14	運動器系(3)		上肢の筋、下肢の筋			講義	長門
15	運動器系(4)		頭頸部の筋、頭頸部の体表および局所解剖			講義	長門
16	呼吸器系(1)		鼻腔・副鼻腔、咽頭・喉頭、気管と気管支			講義	長門
17	呼吸器系(2)、消化器系(1)		肺、消化管の基本構造、口腔			講義	長門
18	消化器系(2)		咽頭、食道、胃			講義	長門
19	消化器系(3)		小腸、大腸、肝臓			講義	長門
20	消化器系(4)		胆嚢、膵臓、腹膜			講義	長門
21	泌尿器系		腎臓、尿路			講義	長門
22	生殖器系(1)		男性生殖器、女性生殖器			講義	長門
23	生殖器系(2)		受精と発生			講義	長門
24	内分泌系(1)		下垂体、松果体、甲状腺、上皮小体、副腎			講義	長門
25	内分泌系(2)、神経系(1)		膵臓、性腺、神経系の構造、脊髄、延髄と橋			講義	長門
26	神経系(2)		中脳、小脳、間脳、大脳			講義	長門
27	神経系(3)		脳室系、髄膜、脳脊髄液、脳の血管			講義	長門

28	神経系(4)	末梢神経系	講義	長門
29	感覚器系(1)	視覚器、平衡感覚器	講義	長門
30	感覚器系(2)	味覚器、嗅覚器	講義	長門
評価方法				
評価指標	定期試験	-	-	合計
評価割合(%)	100	-	-	100
教科書	公益社団法人東洋療法学校協会編 解剖学第2版 医歯薬出版株式会社 5,900円＋税			
教材・参考図書	適宜紹介する。			
オフィスアワー	講義時に適宜確認すること。			
履修上の 注意点	解剖学で学ぶ知識は膨大な量がある。よって、確実に身につけていくためには予習・復習が欠かせない。最低限、各1時間の予習・復習を徹底して行っておくこと。また、授業における板書では図を多用するので、色分けができるよう、ノートと蛍光ペン、もしくは色鉛筆を必ず準備すること。			

科目名	生理学 I				鍼灸科 I 部		
学年	1 年	学期	1～2 学期	時間数	60 時間	単位数	2 単位
科目 責任者	鍛冶屋 浩			科目 担当者	鍛冶屋 浩		
科目 概要	生理学は人体の機能を明らかにし、その機能がどのような機序で現れるかを追求する学問である。現在の生理学は、解剖学的知識や実験などにより得られた科学的証拠に基づき構築されている。その成果は臨床医学の領域で病気の治療に不可欠な知識を提供している。 この科目では、西洋医学において必須となる基礎知識について詳しく学習する。						
到達 目標	細胞、循環、生体の防御機構、呼吸、消化と吸収、代謝、排泄、生殖・成長と老化の役割と働きを理解し、人体の恒常性について説明することができる。						
回数	単元項目		授業内容			形態	担当教員
1	生理学の基礎 (1)		生理機能の特徴、細胞の構造と機能 (1)			講義	鍛冶屋
2	生理学の基礎 (2)		細胞の構造と機能 (2)、物質代謝			講義	鍛冶屋
3	生理学の基礎 (3)		体液の組成と働き、物質移動			講義	鍛冶屋
4	循環 (1)		血液の組成と働き (1)			講義	鍛冶屋
5	循環 (2)		血液の組成と働き (2)			講義	鍛冶屋
6	生体の防御機構 (1)		生体の防御機構			講義	鍛冶屋
7	評価 (1)		1～6 回の評価			演習	鍛冶屋
8	生体の防御機構 (2)		免疫反応			講義	鍛冶屋
9	循環 (3)		止血、線維素溶解、血液型			講義	鍛冶屋
10	循環 (4)		心臓血管系、心臓の構造と働き			講義	鍛冶屋
11	循環 (5)		血液循環			講義	鍛冶屋
12	循環 (6)		循環調節、リンパ系			講義	鍛冶屋
13	呼吸 (1)		呼吸器、換気とガス交換 (1)			講義	鍛冶屋
14	評価 (2)		8～13 回の評価			演習	鍛冶屋
15	呼吸 (2)		換気とガス交換 (2)			講義	鍛冶屋
16	呼吸 (3)		呼吸運動とその調節			講義	鍛冶屋
17	消化と吸収 (1)		消化と吸収、消化管の運動 (1)			講義	鍛冶屋
18	消化と吸収 (2)		消化管の運動 (2)、消化液 (1)			講義	鍛冶屋
19	消化と吸収 (3)		消化液 (2)			講義	鍛冶屋
20	消化と吸収 (4)		吸収、肝臓の働き、摂食の調節			講義	鍛冶屋
21	代謝 (1)		食品と栄養素、代謝			講義	鍛冶屋
22	評価 (3)		15～21 回の評価			演習	鍛冶屋
23	代謝 (2)		各栄養素の働きと代謝 (1)			講義	鍛冶屋
24	代謝 (3)		各栄養素の働きと代謝 (2)			講義	鍛冶屋
25	排泄 (1)		腎臓の働き、腎循環			講義	鍛冶屋
26	排泄 (2)		尿生成			講義	鍛冶屋

27	排泄(3)	腎臓と体液の調節、畜尿と排尿	講義	鍛冶屋			
28	生殖・成長と老化(1)	生殖、妊娠と出産、成長、老化	講義	鍛冶屋			
29	評価(4)	23～28 回の評価	演習	鍛冶屋			
30	総括	生理学Ⅰの総括	講義	鍛冶屋			
評価方法							
評価指標	定期試験		－	－	－	－	合計
評価割合(%)	100		－	－	－	－	100
教科書	公益社団法人東洋療法学校協会編 生理学第 3 版 医歯薬出版株式会社 4,800 円＋税						
教材・参考図書	適宜紹介する。						
オフィスアワー	講義時に適宜確認すること。						
履修上の 注意点	この講義ではこれまで生理学になじんでこなかった学生を対象としている。基本から解説していく。各講義中に重要なポイントを伝えるが、内容を暗記するのではなく、考え方を理解することが必要である。生理学は国家試験に関連する重要科目であるため、臨床医学の礎となるよう真摯に受講し十分に学習すること。						

科目名	生理学Ⅱ				鍼灸科Ⅰ部		
学年	1 年	学期	1～3 学期	時間数	60 時間	単位数	2 単位
科目 責任者	岡本 順子			科目 担当者	岡本 順子		
科目 概要	生理学は人体の機能を明らかにし、その機能がどのような機序で現れるかを追求する学問である。現在の生理学は、解剖学的知識や実験などにより得られた科学的証拠に基づき構築されている。その成果は臨床医学の領域で病気の治療に不可欠な知識を提供している。 この科目では、西洋医学において必須となる基礎知識について詳しく学習する。						
到達 目標	内分泌、体温、身体活動の協調、神経、筋、運動、感覚の役割と働きを理解し、人体の恒常性について説明することができる。						
回数	単元項目		授業内容			形態	担当教員
1	内分泌(1)		ホルモンの特徴			講義	岡本
2	内分泌(2)		ホルモンの種類とその働き(1)			講義	岡本
3	内分泌(3)		ホルモンの種類とその働き(2)			講義	岡本
4	内分泌(4)		ホルモンの種類とその働き(3)			講義	岡本
5	体温(1)		体温調節、体熱の産生と放散			講義	岡本
6	体温(2)		発汗とその調節、体温調節の障害			講義	岡本
7	評価(1)		1～6 回の評価			演習	岡本
8	身体活動の協調		生体の適応、恒常性維持、バイオリズム			講義	岡本
9	神経(1)		ニューロンの構造と働き			講義	岡本
10	神経(2)		神経線維の興奮伝導			講義	岡本
11	神経(3)		シナプス伝達、中枢神経系の分類と機能			講義	岡本
12	神経(4)		反射、脊髄			講義	岡本
13	神経(5)		脳幹、小脳、視床、視床下部			講義	岡本
14	評価(2)		8～13 回の評価			演習	岡本
15	神経(6)		大脳			講義	岡本
16	神経(7)		脳脊髄液、末梢神経系			講義	岡本
17	神経(8)		自律神経系(1)			講義	岡本
18	神経(9)		自律神経系(2)			講義	岡本
19	神経(10)		自律神経系(3)			講義	岡本
20	筋(1)		骨格筋の構造と働き、筋の収縮の仕組み			講義	岡本
21	筋(2)		筋のエネルギー供給の仕組み、心筋と平滑筋			講義	岡本
22	評価(3)		15～21 回の評価			演習	岡本
23	運動(1)		骨格筋の神経支配			講義	岡本
24	運動(2)		運動の調節(1)			講義	岡本
25	運動(3)		運動の調節(2)、錐体路系と錐体外路系、発声と言語			講義	岡本
26	感覚(1)		感覚の分類と一般的性質、体性感覚			講義	岡本

27	感覚(2)	内臓感覚、痛覚	講義	岡本			
28	感覚(3)	味覚と嗅覚、聴覚、平衡感覚、視覚	講義	岡本			
29	評価(4)	23～28 回の評価	演習	岡本			
30	総括	生理学Ⅱの総括	講義	岡本			
評価方法							
評価指標	定期試験		－	－	－	－	合計
評価割合(%)	100		－	－	－	－	100
教科書	公益社団法人東洋療法学校協会編 生理学第 3 版 医歯薬出版株式会社 4,800 円＋税						
教材・参考図書	適宜紹介する。						
オフィスアワー	講義時に適宜確認すること。						
履修上の 注意点	この講義ではこれまで生理学になじんでこなかった学生を対象としている。基本から解説していく。各講義中に重要なポイントを伝えるが、内容を暗記するのではなく、考え方を理解することが必要である。生理学は国家試験に関連する重要科目であるため、臨床医学の礎となるよう真摯に受講し十分に学習すること。						

科目名	生理学Ⅲ				鍼灸科Ⅰ部		
学年	3年	学期	1～2学期	時間数	60時間	単位数	2単位
科目 責任者	加藤 健一			科目 担当者	加藤 健一		
科目 概要	1年次において履修した生理学Ⅰ、Ⅱで獲得した知識をもとに、その知識を疾病の理解に活用することができる応用力を身につける。また、生理学を知識として理解するだけにとどめず、他者に対してわかりやすく伝えることができる技術を身につける。						
到達 目標	各臓器や組織の役割と働きを理解し、人体の恒常性とその維持機能について説明することができる。基本的事項から外傷・障害の治療への応用に至るまでを理解し、説明することができる。						
回数	単元項目		授業内容			形態	担当教員
1	生理学の基礎(1)		生理機能の特徴、細胞			講義	加藤
2	生理学の基礎(2)		物質代謝、体液、物質移動			講義	加藤
3	神経(1)		ニューロンの構造と働き			講義	加藤
4	神経(2)		神経線維の興奮伝導、シナプス伝達			講義	加藤
5	神経(3)		中枢神経系の分類と機能			講義	加藤
6	神経(4)		反射、末梢神経系			講義	加藤
7	神経(5)		自律神経系			講義	加藤
8	感覚(1)		体性感覚、内臓感覚			講義	加藤
9	感覚(2)		痛覚、味覚と嗅覚			講義	加藤
10	感覚(3)		聴覚、平衡感覚、視覚			講義	加藤
11	循環(1)		血液			講義	加藤
12	循環(2)		心臓、血液循環			講義	加藤
13	循環(3)		循環調節、リンパ系			講義	加藤
14	呼吸(1)		呼吸器、換気とガス交換			講義	加藤
15	呼吸(2)		呼吸運動とその調節			講義	加藤
16	消化と吸収(1)		消化管運動、消化液			講義	加藤
17	消化と吸収(2)		吸収、肝臓の働き、摂食調節			講義	加藤
18	代謝		栄養素の働きと代謝			講義	加藤
19	体温		体温調節、体温調節障害			講義	加藤
20	排泄(1)		腎臓の働き、腎循環			講義	加藤
21	排泄(2)		尿生成、体液の調節、畜尿と排尿			講義	加藤
22	内分泌(1)		ホルモンの特徴と種類			講義	加藤
23	内分泌(2)		ホルモンの働き			講義	加藤
24	生殖・成長と老化(1)		生殖、妊娠と出産			講義	加藤
25	生殖・成長と老化(2)		成長、老化			講義	加藤
26	筋		筋収縮の仕組み			講義	加藤

27	運動(1)	骨格筋の神経支配、運動調節					講義	加藤
28	運動(2)	錐体路系と錐体外路系					講義	加藤
29	生体の防御機構	生体の防御機構、免疫反応					講義	加藤
30	身体活動の協調	生体の適応、恒常性維持、バイオリズム					講義	加藤
評価方法								
評価指標		定期試験	-	-	-	-	-	合計
評価割合(%)		100	-	-	-	-	-	100
教科書	公益社団法人東洋療法学校協会編 生理学第 3 版 医歯薬出版株式会社 4,800 円＋税							
教材・参考図書		適宜紹介する。						
オフィスアワー		講義時に適宜確認すること。						
履修上の 注意点		1 年生の時より授業進度が速いので、授業で分からなかったことは、理解できるまで必ず自分で調べ、考え、質問し、解決する癖を身につけること。						

科目名	運動学				鍼灸科Ⅰ部			
学年	2 年	学期	1～2 学期		時間数	30 時間	単位数	1 単位
科目 責任者	木下 圭介			科目 担当者	木下 圭介			
科目 概要	1 年次の解剖学を基礎とし、人間の正常な身体運動を科学的に学習する。実際の患者は異常な状態で来院する事から考え、正常な状態を理解することで臨床能力が上昇する。 この科目では臨床で役立てる事ができる人体の運動を学んでいく。							
到達 目標	人体の正常な身体運動を理解し、説明することができる。							
回数	単元項目		授業内容			形態	担当教員	
1	バイオメカニクス(1)		運動学、運動力学、てこと関節運動			講義	木下	
2	バイオメカニクス(2)		筋力・モーメント・関節反力の関係			講義	木下	
3	機能解剖学(1)		関節、関節運動、筋張力と収縮様態			講義	木下	
4	機能解剖学(2)		脊柱・体幹の機能解剖			講義	木下	
5	機能解剖学(3)		上肢帯・上肢の機能解剖(1)			講義	木下	
6	機能解剖学(4)		上肢帯・上肢の機能解剖(2)			講義	木下	
7	評価(1)		1～6 回の評価			演習	木下	
8	機能解剖学(5)		下肢帯・下肢の機能解剖(1)			講義	木下	
9	機能解剖学(6)		下肢帯・下肢の機能解剖(2)			講義	木下	
10	運動発達、姿勢制御		運動発達、姿勢制御			講義	木下	
11	歩行		歩行周期の概念、正常歩行で観察される特徴的な運動			講義	木下	
12	運動学習(1)		運動学習、記憶の分類、学習とは、運動学習			講義	木下	
13	運動学習(2)		運動学習の段階、運動学習の判定、運動学習の臨床応用			講義	木下	
14	評価(2)		7～13 回の評価			演習	木下	
15	総括		運動学の総括			講義	木下	
評価方法								
評価指標		定期試験	—	—	—	—	合計	
評価割合(%)		100	—	—	—	—	100	
教科書	公益社団法人東洋療法学校協会編 新版リハビリテーション医学 文光堂株式会社 4,900 円＋税 公益社団法人東洋療法学校協会編 解剖学第 2 版 医歯薬出版株式会社 5,900 円＋税							
教材・参考図書		適宜紹介する。						
オフィスアワー		講義時に適宜確認すること。						
履修上の 注意点	運動学は骨、関節、筋肉を主体とした学習となる。筋肉の起始、停止、支配神経、作用は必ず予習して講義を聞くようにすること。							

科目名	病理学概論				鍼灸科Ⅰ部		
学年	2 年	学期	1～2 学期	時間数	60 時間	単位数	2 単位
科目 責任者	大野 純			科目 担当者	大野 純		
科目 概要	世界には風邪のような感染症からガンといった悪性腫瘍まで多種多様な病気が存在する。そのような病気の原因と成り立ちを明らかにする学問が病理学である。病気の原因を解明することで、病気を治療する方法が発見でき、さらには病気の発生を予防することも可能となる。 この科目では医療従事者にとって必要な病理学の一般について詳しく学習する。						
到達 目標	正常な状態と病的な状態の違い、病的な状態の原因となる病因、病的な状態となっている組織の状態について理解し説明できる。						
回数	単元項目		授業内容			形態	担当教員
1	病理学の概要		病理学とはどのような学問か			講義	大野
2	疾病の概要		疾病についての基本的な考え方			講義	大野
3	病因(1)		病因の一般、内因(素因と体質、遺伝、内分泌)			講義	大野
4	病因(2)		内因(免疫、心因性疾患)、外因(栄養素)			講義	大野
5	病因(3)		外因(物理的病因、化学的病因)			講義	大野
6	病因(4)		外因(生物学的病因)、小児疾患			講義	大野
7	評価(1)		1～6 回の評価			演習	大野
8	循環障害(1)		ヒトの循環系、充血・うっ血			講義	大野
9	循環障害(2)		貧血・虚血、出血			講義	大野
10	循環障害(3)		血栓症、塞栓症、梗塞			講義	大野
11	循環障害(4)		水腫・浮腫・脱水症、ショック			講義	大野
12	退行性病変(1)		萎縮、変性(概念、分類)			講義	大野
13	退行性病変(2)		変性(加齢と老化、生活習慣病)、壊死と死			講義	大野
14	評価(2)		8～13 回の評価			演習	大野
15	進行性病変(1)		肥大と増殖、再生、化生			講義	大野
16	進行性病変(2)		移植、創傷治癒・組織内異物の処理			講義	大野
17	炎症(1)		炎症の一般			講義	大野
18	炎症(2)		炎症の分類(変質性炎、滲出性炎)			講義	大野
19	炎症(3)		炎症の分類(増殖性炎、特異性炎)			講義	大野
20	免疫機構・アレルギー(1)		液性免疫と細胞性免疫、アレルギー			講義	大野
21	免疫機構・アレルギー(2)		免疫不全、自己免疫異常			講義	大野
22	評価(3)		15～21 回の評価			演習	大野
23	腫瘍(1)		概要、形態と構造、腫瘍細胞の特色			講義	大野
24	腫瘍(2)		腫瘍の組織学、腫瘍の分類			講義	大野
25	腫瘍(3)		腫瘍の発生の諸段階、腫瘍の生体に及ぼす影響			講義	大野
26	腫瘍(4)		腫瘍の発生原因、治療と再発			講義	大野

27	腫瘍(5)	良性腫瘍、悪性腫瘍					講義	大野
28	先天性異常	代謝異常、奇形、遺伝性疾患、染色体異常					講義	大野
29	評価(4)	23～28 回の評価					演習	大野
30	総括	病理学概論の総括					講義	大野
評価方法								
評価指標		定期試験	－	－	－	－	－	合計
評価割合(%)		100	－	－	－	－	－	100
教科書	公益社団法人東洋療法学校協会編 病理学概論第 2 版 医歯薬出版株式会社 3,100 円＋税							
教材・参考図書		適宜紹介する。						
オフィスアワー		講義時に適宜確認すること。						
履修上の 注意点		病理学の理解には正常な人体の構造と機能についての知識となる解剖学及び生理学の理解が不可欠である。毎回、講義終了前に次回講義の予告と解剖学・生理学との関連について伝えるので、解剖学・生理学の理解が不十分であればその範囲の学習をしておく、講義内容の理解がスムーズとなる。 また、病理学の理解は臨床医学総論・各論で取り上げられる疾患の病態の理解に不可欠である。科目間のつながりを意識して行くと、疾患についてより興味を持つことができる。						

科目名	臨床医学総論				鍼灸科Ⅰ部		
学年	2年	学期	1～2学期	時間数	60時間	単位数	2単位
科目 責任者	小野 広貴			科目 担当者	小野 広貴		
科目 概要	現代の医療ではチーム医療の重要性が叫ばれている。医療は西洋医学を中心とした医師によって実施されることが多いが、西洋医学による治療だけでなく東洋医学による治療が有効な疾患も少なくない。そのような状況の中で鍼灸師がチーム医療の一翼を担うためには、鍼灸師であっても西洋医学的な診察を理解し、実践できることが必要となる。 この科目では鍼灸師にとって必要な西洋医学的な診察法について学習する。						
到達 目標	鍼灸師にとって必要な西洋医学的診察法について理解し実践できる。一般的な臨床検査、治療学、臨床心理について理解し説明できる。						
回数	単元項目		授業内容			形態	担当教員
1	生命徴候(バイタルサイン)の診察		体温、脈拍、血圧、呼吸			講義	小野
2	全身の診察(1)		顔貌、精神状態、言語			講義	小野
3	全身の診察(2)		身体計測、体型・体格			講義	小野
4	全身の診察(3)		栄養状態、姿勢と体位、歩行			講義	小野
5	全身の診察(4)		皮膚・粘膜・皮下組織			講義	小野
6	全身の診察(5)		爪、リンパ節、その他の一般的状態			講義	小野
7	評価(1)		1～6回の評価			演習	小野
8	局所の診察(1)		頭部、顔面、眼、鼻、耳、口腔			講義	小野
9	局所の診察(2)		頸部、胸部、乳房、肺・胸郭			講義	小野
10	局所の診察(3)		心臓、腹部			講義	小野
11	局所の診察(4)		背部			講義	小野
12	局所の診察(5)		四肢			講義	小野
13	神経系の診察(1)		感覚検査法			講義	小野
14	神経系の診察(2)		反射検査			講義	小野
15	評価(2)		8～14回の評価			演習	小野
16	神経系の診察(3)		脳神経の検査、髄膜刺激症状検査			講義	小野
17	運動機能検査(1)		運動麻痺、筋肉の異常			講義	小野
18	運動機能検査(2)		不随意運動、協調運動、起立と歩行			講義	小野
19	その他の診察		救急時の診察、女性の診察、小児の診察、高齢者の診察			講義	小野
20	臨床検査法(1)		一般検査、血液生化学検査			講義	小野
21	臨床検査法(2)		生理学的検査、画像診断			講義	小野
22	評価(3)		16～21回の評価			演習	小野
23	おもな症状の診察法(1)		動悸、ショック、出血傾向、易感染性			講義	小野
24	おもな症状の診察法(2)		貧血、眼振、口渇、嚥下障害			講義	小野

25	おもな症状の診察法(3)	血痰・喀血、胸水、吐血・下血	講義	小野			
26	治療学(1)	概要、薬物療法、食事療法	講義	小野			
27	治療学(2)	理学療法、その他の療法	講義	小野			
28	臨床心理	患者の心理、心理学的検査、カウンセリング、その他の療法	講義	小野			
29	評価(4)	23～28 回の評価	演習	小野			
30	総括	臨床医学総論の総括	講義	小野			
評価方法							
評価指標	定期試験		－	－	－	－	合計
評価割合(%)	100		－	－	－	－	100
教科書	公益社団法人東洋療法学校協会編 臨床医学総論第 2 版 医歯薬出版株式会社 4,500 円＋税						
教材・参考図書	適宜紹介する。						
オフィスアワー	講義時に適宜確認すること。						
履修上の 注意点	臨床医学総論では疾病を抱える患者への接し方、診察の方法について学習する。そのため、ただ授業内容を理解するのではなく、実践できることが重要である。講義で学習した内容を意識し、いろいろな人を診る習慣をつけること。						

科目名	臨床医学各論Ⅰ				鍼灸科Ⅰ部		
学年	2 年	学期	1～3 学期	時間数	60 時間	単位数	2 単位
科目 責任者	天野 雅文			科目 担当者	天野 雅文		
科目 概要	今日の医学・医療は西洋医学が中心である。ただ、少子高齢化社会、社会構造の複雑化、生活習慣病の増加などに伴う疾病構造の変化は、医療に対するニーズの多様化を招いている。すなわち、西洋医学に頼るだけでなく、東洋医学を含めた多角的な全人的医療が求められている。このような状況の中で鍼灸師が他の医療職と連携して活躍するためには、西洋医学に対するより高度な知識・技術の習得が求められる。 この科目では西洋医学の視点から臨床医学を学習する。						
到達 目標	西洋医学的視点から各疾患の概要、疫学、成因、症状、診断、治療、経過と予後について理解し説明できる。						
回数	単元項目		授業内容			形態	担当教員
1	感染症(1)		細菌感染症			講義	天野
2	感染症(2)		ウイルス感染症、性感染症			講義	天野
3	消化器疾患(1)		口腔疾患、食道疾患			講義	天野
4	消化器疾患(2)		胃・十二指腸疾患			講義	天野
5	消化器疾患(3)		腸疾患、腹膜疾患			講義	天野
6	肝・胆・膵疾患(1)		肝臓疾患			講義	天野
7	評価(1)		1～6 回の評価			演習	天野
8	肝・胆・膵疾患(2)		胆道疾患、膵臓疾患			講義	天野
9	呼吸器疾患(1)		感染性呼吸器疾患			講義	天野
10	呼吸器疾患(2)		閉塞性呼吸器疾患、拘束性呼吸器疾患			講義	天野
11	呼吸器疾患(3)		気胸、その他の呼吸器疾患			講義	天野
12	腎・尿器疾患(1)		原発性糸球体腎炎、腎不全症			講義	天野
13	腎・尿器疾患(2)		感染症、腫瘍性疾患、結石症、前立腺疾患			講義	天野
14	評価(2)		8～13 回の評価			演習	天野
15	内分泌疾患(1)		下垂体疾患、甲状腺疾患			講義	天野
16	内分泌疾患(2)		甲状腺疾患			講義	天野
17	内分泌疾患(3)		副腎疾患			講義	天野
18	代謝・栄養疾患(1)		糖代謝異常、脂質代謝異常			講義	天野
19	代謝・栄養疾患(2)		尿酸代謝異常、その他の代謝異常症			講義	天野
20	循環器疾患(1)		心不全、心臓弁膜症			講義	天野
21	循環器疾患(2)		不整脈、代表的な先天性心疾患、冠動脈疾患			講義	天野
22	評価(3)		15～21 回の評価			演習	天野
23	循環器疾患(3)		動脈疾患、血圧異常			講義	天野
24	神経系疾患(1)		脳血管障害			講義	天野
25	神経系疾患(2)		感染性疾患、脊髄脳腫瘍			講義	天野

26	神経系疾患(3)	基底核疾患、その他の変性疾患					講義	天野
27	神経系疾患(4)	認知症性疾患、筋疾患					講義	天野
28	神経系疾患(5)	運動ニューロン、末梢神経疾患、神経痛、機能性疾患					講義	天野
29	評価(4)	23～28 回の評価					演習	天野
30	総括	臨床医学各論Ⅰの総括					講義	天野
評価方法								
評価指標		定期試験	-	-	-	-	-	合計
評価割合(%)		100	-	-	-	-	-	100
教科書	公益社団法人東洋療法学校協会編 臨床医学各論第 2 版 医歯薬出版株式会社 5, 500 円＋税							
教材・参考図書		適宜紹介する。						
オフィスアワー		講義時に適宜確認すること。						
履修上の 注意点		臨床医学各論では様々な疾病によって身体にどのような変化がみられるかを学習する。病的変化を理解するためには、正常な状態の理解が不可欠である。単元ごとに次回の講義内容とそれに関する解剖学、生理学の範囲を伝えるので必ず復習しておくこと。病気を知るためには教科書の内容の理解も必要であるが、実際の患者にふれることで、よりイメージしやすくなる。身近に疾病を抱える者があれば、その様子に興味関心を持つことも重要である。また、講義の内容は補習で補足する。						

科目名	臨床医学各論Ⅱ				鍼灸科Ⅰ部		
学年	3 年	学期	1～2 学期	時間数	60 時間	単位数	2 単位
科目 責任者	柿木 邦友			科目 担当者	柿木 邦友		
科目 概要	2 年次において履修した臨床医学各論Ⅰをもとに応用力を養う。2 年次で獲得した知識を更に深化させ、回復の促進等に活用することができる応用力を身につける。						
到達 目標	西洋医学的視点から各疾患の概要、疫学、成因、症状、診断、治療、経過と予後について理解し、第三者に分かりやすく説明ができる。						
回数	単元項目		授業内容			形態	担当教員
1	感染症(1)		細菌感染症、ウイルス感染症			講義	柿木
2	感染症(2)、消化器疾患(1)		性感染症、口腔疾患、食道疾患			講義	柿木
3	消化器疾患(2)		胃・十二指腸疾患			講義	柿木
4	消化器疾患(3)		腸疾患、腹膜疾患			講義	柿木
5	肝・胆・膵疾患(1)		肝臓疾患			講義	柿木
6	肝・胆・膵疾患(2)		胆道疾患、膵臓疾患			講義	柿木
7	呼吸器疾患(1)		感染性呼吸器疾患、閉塞性呼吸器疾患			講義	柿木
8	呼吸器疾患(2)		拘束性呼吸器疾患、気胸			講義	柿木
9	呼吸器疾患(3)		肺癌、気管支拡張症			講義	柿木
10	腎・尿器疾患(1)		原発性糸球体腎炎、腎不全症			講義	柿木
11	腎・尿器疾患(2)		感染症、腫瘍性疾患、結石症、前立腺疾患			講義	柿木
12	内分泌疾患(1)		下垂体疾患、甲状腺機能亢進症			講義	柿木
13	内分泌疾患(2)		甲状腺機能低下症、副腎疾患			講義	柿木
14	代謝・栄養疾患		糖代謝異常、脂質代謝異常、尿酸代謝異常			講義	柿木
15	整形外科疾患(1)		総論、関節疾患、骨代謝性疾患・骨腫瘍、			講義	柿木
16	整形外科疾患(2)		筋・腱疾患、形態異常、脊椎疾患			講義	柿木
17	整形外科疾患(3)		脊髄損傷、外傷、その他の整形外科疾患			講義	柿木
18	循環器疾患(1)		心不全、心臓弁膜症、不整脈、代表的な先天性心疾患			講義	柿木
19	循環器疾患(2)		冠動脈疾患、動脈疾患、血圧異常			講義	柿木
20	血液・造血器疾患(1)		赤血球疾患、急性骨髄性白血病			講義	柿木
21	血液・造血器疾患(2)		リンパ網内系疾患、出血性素因			講義	柿木
22	神経疾患(1)		脳血管疾患			講義	柿木
23	神経疾患(2)		感染性疾患、脳・脊髄腫瘍			講義	柿木
24	神経疾患(3)		基底核疾患、その他の変性疾患			講義	柿木
25	神経疾患(4)		認知症性疾患、筋疾患			講義	柿木
26	神経疾患(5)		運動ニューロン疾患、末梢神経性疾患、神経痛			講義	柿木
27	リウマチ疾患・膠原病(1)		リウマチ性疾患、全身性エリテマトーデス			講義	柿木

28	リウマチ疾患・膠原病(2)	ベーチェット病、その他の膠原病疾患					講義	柿木
29	その他の領域(1)	小児疾患、一般外傷、麻酔科、婦人科系疾患、皮膚科疾患					講義	柿木
30	その他の領域(2)	眼科疾患、耳鼻科疾患、精神科疾患、心療内科、加齢に伴う病態					講義	柿木
評価方法								
評価指標		定期試験	-	-	-	-	-	合計
評価割合(%)		100	-	-	-	-	-	100
教科書	公益社団法人東洋療法学校協会編 臨床医学各論第2版 医歯薬出版株式会社 5,500 円＋税							
教材・参考図書		適宜紹介する。						
オフィスアワー		講義時に適宜確認すること。						
履修上の 注意点		講義前に2年次に臨床医学各論Ⅰで学習した内容を復習しておくこと。						

科目名	衛生学・公衆衛生学				鍼灸科Ⅰ部		
学年	1 年	学期	1・3 学期	時間数	60 時間	単位数	2 単位
科目 責任者	西野 達也			科目 担当者	西野 達也、岩倉 宏典		
科目 概要	衛生学・公衆衛生学は、疾病予防と健康の保持・増進のための科学であり、活動である。この科目では家庭・学校・職場・地域社会において、生活環境、食事と栄養、活動と休養、精神的健康や、またそのための法律・制度と施設・機関などについて学習し、関連職種や多職種を理解する。						
到達 目標	衛生学・公衆衛生学の意義を理解し、健康について環境、衛生行政、医療制度・医療保障などを理解する。そのために、食品から生活環境、産業保健、精神保健、母子保健、成人・高齢者保健、感染症、消毒法、疫学調査方法、保健統計等を理解し、説明できる。						
回数	単元項目		授業内容			形態	担当教員
1	衛生学・公衆衛生学の意義		はじめに、衛生・公衆衛生学の範囲			講義	西野
2	健康(1)		健康の概要			講義	西野
3	健康(2)		健康管理			講義	西野
4	ライフスタイルと健康(1)		栄養・健康増進			講義	西野
5	ライフスタイルと健康(2)		食品と疾病			講義	西野
6	ライフスタイルと健康(3)		添加物			講義	西野
7	評価(1)		1～6 回の評価			演習	西野
8	ライフスタイルと健康(4)		食中毒			講義	西野
9	ライフスタイルと健康(5)		運動と健康			講義	西野
10	環境と健康(1)		環境とは、物理学的環境要因			講義	西野
11	環境と健康(2)		化学的環境要因			講義	西野
12	環境と健康(3)		生物学的環境要因			講義	西野
13	環境問題(1)		公害			講義	西野
14	評価(2)		7～13 回の評価			演習	西野
15	環境問題(2)		地球環境問題			講義	西野
16	産業保健(1)		労働衛生行政、労働環境と健康			講義	岩倉
17	産業保健(2)		業務上疾病とその対策			講義	岩倉
18	精神保健		精神障害の現状と分類			講義	岩倉
19	母子保健		妊産婦保健、乳幼児保健			講義	岩倉
20	成人・高齢者保健		生活習慣病の特徴と対策、高齢者の保健福祉対策			講義	岩倉
21	感染症とその対策(1)		感染症の種類			講義	岩倉
22	評価(3)		13～21 回の評価			演習	岩倉
23	感染症とその対策(2)		発生要因			講義	岩倉
24	感染症とその対策(3)		感染症予防原則、免疫			講義	岩倉
25	消毒法(1)		消毒の定義、種類			講義	岩倉
26	消毒法(2)		消毒の実際、医療廃棄物			講義	岩倉

27	疫学	疫学の概念と意義、疫学調査研究の段階と実例					講義	岩倉
28	保健統計	主な保健統計とその意義、主要な保健統計指標					講義	岩倉
29	評価(4)	22～28 回の評価					演習	岩倉
30	総括	衛生学・公衆衛生学の総括					講義	岩倉
評価方法								
評価指標		定期試験		－	－	－	－	合計
評価割合(%)		100		－	－	－	－	100
教科書	公益社団法人東洋療法学校協会編 衛生学・公衆衛生学第2版 医歯薬出版株式会社 4,500 円＋税 鍼灸安全対策マニュアル 医歯薬出版株式会社 4,200 円＋税							
教材・参考図書		適宜紹介する。						
オフィスアワー		講義時に適宜確認すること。						
履修上の 注意点		衛生学・公衆衛生学を学ぶ上で、様々な環境要因が私たちの生活に大きく影響しているかを知り、私たちの健康の保持・増進をどのように行っていけばよいかを考え理解する。そのためには単元ごとにまとめを行ない、日々の生活で衛生や公衆衛生について考え、また実践してもらいたい。						

科目名	リハビリテーション医学				鍼灸科Ⅰ部		
学年	2 年	学期	1～2 学期	時間数	60 時間	単位数	2 単位
科目 責任者	仲濱 毅			科目 担当者	仲濱 毅		
科目 概要	リハビリテーション医学は、運動機能障害を評価・治療し、社会復帰と日常生活における障害を軽減することが目的である。リハビリテーションに関わる知識を理解し鍼灸治療で活用できるように学習する。						
到達 目標	鍼灸師に必要なリハビリテーションについて理解し、臨床の場でリハビリテーションの知識を活用することができる。						
回数	単元項目		授業内容			形態	担当教員
1	リハビリテーション医学・医療(1)		理念・目的、期限・歴史、生活機能分類			講義	仲濱
2	リハビリテーション医学・医療(2)		リハビリテーションの分野、医療、医療チーム、地域リハビリテーション			講義	仲濱
3	診断・評価学(1)		診断・評価とは、リハビリテーション診療の流れ			講義	仲濱
4	診断・評価学(2)		検査・測定(1)			講義	仲濱
5	診断・評価学(3)		検査・測定(2)			講義	仲濱
6	治療学(1)		運動療法、物理療法			講義	仲濱
7	評価(1)		1～6 回の評価			演習	仲濱
8	治療学(2)		作業療法、言語聴覚療法			講義	仲濱
9	治療学(3)		補装具、自助具			講義	仲濱
10	整形外科疾患(1)		腱板損傷、肩関節周囲炎			講義	仲濱
11	整形外科疾患(2)		上腕骨近位部骨折、橈骨遠位端骨折			講義	仲濱
12	整形外科疾患(3)		変形性股関節症、大腿骨近位部骨折、変形性膝関節症			講義	仲濱
13	整形外科疾患(4)		靱帯損傷、半月板損傷、足関節靱帯損傷、アキレス腱断裂			講義	仲濱
14	評価(2)		8～13 回の評価			演習	仲濱
15	整形外科疾患(5)		頸椎症性脊髄症、腰部脊柱管狭窄症			講義	仲濱
16	整形外科疾患(6)		椎間板ヘルニア、脊椎椎体骨折			講義	仲濱
17	整形外科疾患(7)		脊髄損傷			講義	仲濱
18	整形外科疾患(8)		切断、関節リウマチ、スポーツ傷害			講義	仲濱
19	神経疾患(1)		脳血管障害			講義	仲濱
20	神経疾患(2)		パーキンソン病、脊髄小脳変性症・多系統萎縮症			講義	仲濱
21	神経疾患(3)		筋萎縮性側索硬化症、末梢神経障害、ポリオ			講義	仲濱
22	評価(3)		15～21 回の評価			演習	仲濱
23	内部障害(1)		虚血性心疾患、呼吸器疾患			講義	仲濱
24	内部障害(2)		糖尿病、腎・尿路疾患			講義	仲濱
25	がん(1)		基礎知識、治療、リハビリテーション治療の要点(1)			講義	仲濱
26	がん(2)		リハビリテーション治療の要点(2)、リスク管理			講義	仲濱

27	高齢者に多くみられる疾患	骨粗鬆症、廃用症候群、認知症	講義	仲濱
28	小児疾患	脳性麻痺、筋ジストロフィー症、二分脊椎	講義	仲濱
29	評価(4)	23～28回の評価	演習	仲濱
30	総括	リハビリテーション医学の総括	講義	仲濱
評価方法				
評価指標	定期試験	—	—	—
評価割合(%)	100	—	—	—
教科書	公益社団法人東洋療法学校協会編 新版リハビリテーション医学 文光堂 4900円＋税			
教材・参考図書	適宜紹介する。			
オフィスアワー	講義時に適宜確認すること。			
履修上の 注意点	本講義で学習する内容は1年次の解剖学Ⅰ、解剖学Ⅱや生理学Ⅰ、生理学Ⅱ、2年次学習する臨床医学総論と臨床医学各論の知識が不可欠となる。それぞれの科目とのつながりを考え、各科目の内容を自学しながら本講義を受講することを望む。			

科目名	医療概論				鍼灸科Ⅰ部		
学年	1 年	学期	1・3 学期	時間数	30 時間	単位数	1 単位
科目 責任者	梅井 直人			科目 担当者	梅井 直人		
科目 概要	病、医療、医学の定義を学び、西洋医学、東洋医学の変遷を認識・理解することにより、現代医学の課題、医療制度、医療倫理について理解を深める。						
到達 目標	保険医療福祉制度の中におけるはり師、きゅう師の位置付けや職業倫理について理解し説明できる。						
回数	単元項目		授業内容			形態	担当教員
1	医学史序説		病とはなにか、医学・医療とはなにか			講義	梅井
2	古代の医学		エジプト医学、バビロニア医学、新大陸の医学、古代ギリシアの医学、ヒポクラテスの医学、ローマ医学、ガレノスの血液運行の説			講義	梅井
3	中世～18 世紀の医学		中世前・後期の医学、ルネッサンスの医学、顕微鏡解剖学、種痘法			講義	梅井
4	19～20 世紀の医学		臨床医学の発達、細菌学の誕生、外科学の発展、精神医学の発展、X 線の発見、栄養学とビタミンの発見、抗生物質			講義	梅井
5	古代インドの医学		アーユルヴェーダ			講義	梅井
6	古代中国医学		中医学理論体系の形成、中西医結合、アルマ・アタ宣言			講義	梅井
7	日本の医学と医療の歴史		古代の医学、奈良・平安時代の医学、僧医、僧医から医師へ			講義	梅井
8	近世の医学、現代の医学と医療		曲直瀬道三、御菌意斎、杉山和一の管針法、脚気をめぐる論争、コッホの 3 原則、生活習慣病、先端医療、東洋医学			講義	梅井
9	現代の医療制度(1)		医療従事者と医療施設、国民医療費の変遷および内訳			講義	梅井
10	現代の医療制度(2)		医療保険のしくみ、公的医療負担、介護サービス行政			講義	梅井
11	医療倫理(1)		倫理とは、ヒポクラテスの誓い			講義	梅井
12	医療倫理(2)		患者の権利宣言、インフォームド・コンセント、バイオエシックス、SOT と QOL			講義	梅井
13	医療倫理(3)		ヒポクラテスの誓いとジュネーブ宣言、患者の権利宣言とリスボン宣言、人体実験とヘルシンキ宣言			講義	梅井
14	施術者としての倫理		援助者としての医療者			講義	梅井
15	評価		9～14 回の評価			演習	梅井
評価方法							
評価指標		レポート	定期試験	-	-	-	合計
評価割合(%)		50	50	-	-	-	100
教科書	公益社団法人東洋療法学校協会編 医療概論第 1 版 医歯薬出版株式会社 2,500 円＋税						
教材・参考図書		適宜紹介する。					
オフィスアワー		講義時に適宜確認すること。					
履修上の 注意点		医療の歴史を通して、その時々々の医療がどのような社会環境で、また理論に基づいて行われていたか理解する。現在の医療制度や医療従事者の倫理は医療の歴史の実践の中から生まれてきていることを理解し、日常生活の中の医療や鍼灸のありようを考えてもらいたい。					

科目名	関係法規Ⅰ				鍼灸科Ⅰ部		
学年	1 年	学期	1 学期	時間数	30 時間	単位数	1 単位
科目 責任者	滝沢 哲也			科目 担当者	滝沢 哲也		
科目 概要	あん摩マッサージ指圧師、はり師、きゅう師等に関する法律、並びに医事法規と医療制度を学ぶ。また、他医療職種の法律を理解し、多職種連携を図るための基礎知識を学ぶ。						
到達 目標	保険医療福祉制度におけるはり師、きゅう師の位置付けや職業倫理を理解し、説明できる。 施術所管理者として、必要な社会規範の基礎を学び、自律した社会生活をおくることができる。						
回数	単元項目		授業内容			形態	担当教員
1	免許と試験		あはき法制定の目的、免許の資格要件、免許に関する事務等			講義	滝沢
2	業務(1)		業務の独占と業務の範囲、施術に関する注意、施術所などに関する規則			講義	滝沢
3	業務(2)		施術所の名称と制限及び広告の制限、開設届、広告の作成について			講義	滝沢
4	業務(3)		開設届、広告の作成について、業務の停止、無免許営業の取締り、医療類似行為			講義	滝沢
5	罰則(1)		施術者、施術所に関する罰則			講義	滝沢
6	罰則(2)		その他の罰則、両罰規程について			講義	滝沢
7	医事法規と医療制度		あはき法のまとめ			演習	滝沢
8	医療法		医事法規、わが国の医療制度、病院、診療所、地域医療支援病院、特定機能病院、助産所			講義	滝沢
9	医師法		免許、業務			講義	滝沢
10	その他の医療従事者に関する法律		保健師助産師看護刺法、理学療法士及び作業療法士、柔道整復師法、診療放射線技師法、歯科衛生士法、救急救命士法など			講義	滝沢
11	薬事法規(1)		医薬品、医療機器等の品質の有効性及び安全性の確保に関する法律、			講義	滝沢
12	薬事法規(2)		薬剤師法、麻薬及び向精神薬取締法			講義	滝沢
13	衛生関係法規		保健一般に関する法律、地域保健法等 予防衛生に関する法律、環境衛生関係の法律			講義	滝沢
14	法の体系と医療過誤・リスクマネジメント		成文法と不文法、成文法の種類、医療事故と医療過誤、医療におけるリスクマネジメント、インフォームド・コンセント			講義	滝沢
15	鍼灸マッサージ医療過誤		賠償制度、鍼灸マッサージ師に課せられた注意義務等、まとめ			演習	滝沢
評価方法							
評価指標		定期試験	課題	-	-	-	合計
評価割合(%)		60	40	-	-	-	100
教科書	公益社団法人東洋療法学校協会編 関係法規第7版 医歯薬出版株式会社 3,200 円＋税						
教材・参考図書		適宜紹介する。					
オフィスアワー		講義時に適宜確認すること。					
履修上の 注意点		課題の提出が必修である。講義においては積極的な参加が求められる。将来、施術管理者として活躍する上で必要な社会規範の基礎を、自ら進んで身に付けようとする姿勢が求められる。					

科目名	関係法規Ⅱ				鍼灸科Ⅰ部		
学年	3 年	学期	1～2 学期	時間数	30 時間	単位数	1 単位
科目 責任者	滝沢 哲也			科目 担当者	滝沢 哲也		
科目 概要	あん摩マッサージ指圧師、はり師、きゅう師に関する法律、医事法規、医療制度の変更・追加点等を紹介する。また、社会における医療問題を紹介し、社会と鍼灸のつながりを理解する。						
到達 目標	あん摩マッサージ指圧師、はり師、きゅう師に関する法律、医事法規、医療制度の理解を深める。 社会における主な医療問題を理解し、社会における鍼灸の必要性を理解できる。						
回数	単元項目		授業内容			形態	担当教員
1	免許と試験		免許の資格要件、免許に関する事務など、施術者の身分の消滅と復活、試験			講義	滝沢
2	第1回グループ討議、業務(1)		免許や施術者の身分について、業務の独占と業務の範囲、施術に関する注意			演習	滝沢
3	業務(2)		施術所などに関する規則、施術所の名称と制限及び広告の制限、業務の停止、無免許営業の取締り、医療類似行為			講義	滝沢
4	罰則、第2回グループ討議		施術者、施術所に関する罰則、両罰規程、施術所開設の問題点			演習	滝沢
5	医事法規と医療制度、医療法		医事法規、わが国の医療制度、病院、診療所、地域医療支援病院、特定機能病院、助産所			講義	滝沢
6	医師法、その他の医療従事者に関する法律(1)		免許、業務、保健師助産師看護刺法、理学療法士及び作業療法士、柔道整復師法			講義	滝沢
7	その他の医療従事者に関する法律(2)、第3回グループ討議		診療放射線技師法、歯科衛生士法、救急救命士法、わが国の医療制度について			演習	滝沢
8	薬事法規、衛生関係法規(1)		医薬品医療機器等法、薬剤師法、麻薬及び向精神薬取締法、保健一般に関する法律、予防衛生に関する法律			講義	滝沢
9	第4回グループ討議、衛生関係法規(2)		薬剤の問題、予防衛生に関して、環境衛生関係の法律			演習	滝沢
10	第5回グループ討議、社会福祉関係法規		環境衛生について、社会福祉法、生活保護法、老人福祉法			演習	滝沢
11	社会保険関係法規(1)、第6回グループ討議		社会保険各法規、社会保険の問題点について			演習	滝沢
12	社会保険関係法規(2)、その他の関係法規		医療保障制度、個人情報の保護に関する法律			講義	滝沢
13	開業シミュレーション		免許から施術所開設まで、医療法に関する病院等の施設			講義	滝沢
14	第7回グループ討議、チーム医療(1)		個人情報の保護に関して、医療従事者から衛生関係法規まで			演習	滝沢
15	チーム医療(2)、総まとめ		社会福祉から社会保険まで、あん摩マッサージ指圧師、はり師、きゅう師に関する法律			講義	滝沢
評価方法							
評価指標		定期試験	-	-	-	-	合計
評価割合(%)		100	-	-	-	-	100
教科書	公益社団法人東洋療法学校協会編 関係法規第7版 医歯薬出版株式会社 3,200 円＋税						

教材・参考図書	適宜紹介する。
オフィスアワー	講義時に適宜確認すること。
履修上の 注意点	参加型の授業を展開するので、発言や挙手等の積極的な授業参加を求める。

科目名	東洋医学概論 I				鍼灸科 I 部		
学年	1 年	学期	1～3 学期	時間数	60 時間	単位数	2 単位
科目 責任者	實松 沙織			科目 担当者	實松 沙織		
科目 概要	東洋医学の基本となる陰陽、気血津液、五臓、六腑、病因について学ぶ。陰陽、気血津液、五臓六腑の生理作用、病理変化と進んでいく。どのような病態が鍼灸治療に適しているかを理解し、鍼灸師として東洋医学を学び続けていく基礎を構築する。						
到達 目標	陰陽、気血津液、五臓、六腑の生理、病理、病因病機を理解する。						
回数	単元項目		授業内容			形態	担当教員
1	東洋医学の特徴		東洋医学の沿革			講義	實松
2	人体の見方		天人合一思想、陰陽学説、五行学説			講義	實松
3	虚実と標本		虚、実、標、本			講義	實松
4	生理事質の生理(1)		精、気、血、津液、神			講義	實松
5	生理事質の生理(2)		精の生理・作用、気の生理・作用、気の分類			講義	實松
6	生理事質の生理(3)		血の生理・作用、津液の生理・作用			講義	實松
7	評価(1)		1～6 回の評価			演習	實松
8	生理事質の病理(1)		精の病理(腎精不足)			講義	實松
9	生理事質の病理(2)		気の病理(気虚、気陷、気脱、気鬱、気滞、気逆)			講義	實松
10	生理事質の病理(3)		血の病理(血虚、血瘀、血熱)			講義	實松
11	生理事質の病理(4)		津液の病理(津液不足、津液停滞)			講義	實松
12	生理事質の相互関係		精と気、血、津液、気と血、津液、血と津液			講義	實松
13	神		神の概念、五神、五志、七情、神の病理			講義	實松
14	評価(2)		7～13 回の評価			演習	實松
15	陰陽		陰陽の生理、陰の病証(陰虚、陰盛)、陽の病証(陽虚、陽盛)			講義	實松
16	蔵象学説		五臓、六腑、奇恒の腑			講義	實松
17	肝・胆		肝の生理と病証、胆の生理と病理、肝と女子胞			講義	實松
18	心・小腸		心の生理と病証、小腸の生理と病証、心と血脈			講義	實松
19	脾・胃		脾の生理と病証、胃の生理と病証			講義	實松
20	肺・大腸		肺の生理と病証、大腸の生理と病証			講義	實松
21	腎		腎の生理と病証			講義	實松
22	評価(3)		13～21 回の評価			演習	實松
23	膀胱・三焦		膀胱の生理と病証、三焦の生理と病証			講義	實松
24	病因(1)		外感病因、内傷病因、その他、内生五邪			講義	實松
25	病因(2)		六淫(風邪、寒邪)			講義	實松
26	病因(3)		六淫(湿邪、燥邪)			講義	實松

27	病因(4)	六淫(熱邪、火邪)、疫癘	講義	實松		
28	五臓相互関係、全身の気機	五臓の相互関係、関連領域の気機	講義	實松		
29	評価(4)	22～28 回の評価	演習	實松		
30	総括	東洋医学概論Ⅰの総括	講義	實松		
評価方法						
評価指標	定期試験	－	－	－	－	合計
評価割合(%)	100	－	－	－	－	100
教科書	公益社団法人東洋療法学校協会編 新版東洋医学概論第 1 版 医道の日本社 5,200 円＋税					
教材・参考図書	適宜紹介する。					
オフィスアワー	講義時に適宜確認すること。					
履修上の 注意点	2 年次で学習する東洋医学臨床論の土台となる部分なので、陰陽、気血津液、五臓の生理作用と病理変化について、しっかり理解することが大事である。					

科目名	東洋医学概論Ⅱ				鍼灸科Ⅰ部		
学年	2 年	学期	1～2 学期	時間数	60 時間	単位数	2 単位
科目 責任者	岩倉 宏典			科目 担当者	岩倉 宏典		
科目 概要	東洋医学的な診断論(四診法)について学ぶ。また望診、聞診、問診、切診から総合的に判断して、治療を組み立て、鍼や灸の補瀉手技についての治療論を学ぶ。また、さまざまな治療論があること理解し、鍼灸師として東洋医学の診察、治療を学び続けていく基礎を構築する。						
到達 目標	東洋医学的な診断と治療の組み立てを理解する。						
回数	単元項目		授業内容			形態	担当教員
1	診断の種類、望診(1)		四診の種類、望診について			講義	岩倉
2	望診(2)		舌診(舌質)			講義	岩倉
3	望診(3)		舌診(舌苔)			講義	岩倉
4	望診(4)、聞診(1)		虎口三関の脈、呼吸音と声音を聞く			講義	岩倉
5	聞診(2)		発声と発語を診る、異常音、五臭、五声、五音			講義	岩倉
6	問診(1)		寒熱を問う			講義	岩倉
7	評価(1)		1～6 回の評価			演習	岩倉
8	問診(2)		汗を問う、飲食を問う			講義	岩倉
9	問診(3)		二便を問う、疼痛を問う			講義	岩倉
10	問診(4)		月経について問う			講義	岩倉
11	問診(5)		睡眠について問う			講義	岩倉
12	問診(6)		五主、五液、五労、五季、五悪、五情			講義	岩倉
13	切診(1)		脈状診、祖脈、八要の脈、七情の脈			講義	岩倉
14	評価(2)		8～13 回の評価			演習	岩倉
15	切診(2)		比較脈診			講義	岩倉
16	切診(3)		六部定位脈診(1)			講義	岩倉
17	切診(4)		六部定位脈診(2)			講義	岩倉
18	切診(5)		腹診			講義	岩倉
19	切診(6)		特定腹証			講義	岩倉
20	切診(7)		切経			講義	岩倉
21	弁証論治(1)		八綱弁証、気血津液弁証、臓腑弁証			講義	岩倉
22	評価(3)		15～21 回の評価			演習	岩倉
23	弁証論治(2)		六経弁証、衛気営血弁証、三焦弁証			講義	岩倉
24	弁証論治(3)		標本と主客			講義	岩倉
25	弁証論治(4)		治法八法、治療法の概要			講義	岩倉
26	刺法(1)		五刺、九刺			講義	岩倉

27	刺法(2)	十二刺、三刺	講義	岩倉
28	弁証論治、経脈病証	外感病、内傷病、十二経脈病証、奇経八脈病証	講義	岩倉
29	評価(4)	23～28回の評価	演習	岩倉
30	総括	東洋医学概論Ⅱの総括	講義	岩倉
評価方法				
評価指標	定期試験	－	－	－
評価割合(%)	100	－	－	－
教科書	公益社団法人東洋療法学校協会編 新版東洋医学概論第1版 医道の日本社 5,200円＋税			
教材・参考図書	適宜紹介する。			
オフィスアワー	講義時に適宜確認すること。			
履修上の 注意点	東洋医学的な診断論(四診法)は、3年次に実施される臨床実習の基礎となる。望診、聞診、問診、切診でしっかり情報を得た上で、総合的に判断して、治療ができるよう知識を身につける。特に、舌診や脈診、腹診は、知識的な部分に加え、技術的な診方が重要になってくる。技術的には、鍼灸実技Ⅵで関連させながら進めていくので、知識と技術の両方が身に付くようにする。			

科目名	経絡経穴概論Ⅰ				鍼灸科Ⅰ部		
学年	1 年	学期	1～2 学期	時間数	60 時間	単位数	2 単位
科目 責任者	古川 理恵			科目 担当者	古川 理恵		
科目 概要	皮膚はさまざまな情報を脳に伝え反応を引き起こしている。このような皮膚の特異性は東洋医学の理論に大きな影響を与えた。また、体内と皮膚の関係に一定の法則があることを見だし、それを医学としてまとめたのが鍼灸学の基礎となる経絡経穴学説である。 この科目では、経絡・経穴についての基礎知識を学習し、鍼灸師として経穴学を理解することで東洋医学を学び続けていく基礎を構築する。						
到達 目標	経絡・経穴について正しく理解し説明することができる。経穴の位置を理解し、正確に取穴することができる。						
回数	単元項目		授業内容			形態	担当教員
1	経絡・経穴の基礎(1)		経絡・経穴の誕生、臓腑の概要			講義	古川
2	経絡・経穴の基礎(2)		経絡の概要、経穴の概要、経穴の取り方に必要な用語			講義	古川
3	経脈・経穴(1)		十四経脈とその経穴(手の太陰肺経)			講義	古川
4	経脈・経穴(2)		十四経脈とその経穴(手の陽明大腸経)			講義	古川
5	経脈・経穴(3)		手の太陰肺経の取穴、手の陽明大腸経の取穴			講義	古川
6	経脈・経穴(4)		十四経脈とその経穴(足の陽明胃経)、足の陽明胃経の取穴			講義	古川
7	評価(1)		1～6 回の評価			演習	古川
8	経脈・経穴(5)		十四経脈とその経穴(足の太陰脾経)			講義	古川
9	経脈・経穴(6)		足の太陰脾経の取穴			講義	古川
10	経脈・経穴(7)		十四経脈とその経穴(手の少陰心経)、取穴			講義	古川
11	経脈・経穴(8)		十四経脈とその経穴(手の太陽小腸経)			講義	古川
12	経脈・経穴(9)		手の太陽小腸経の取穴			講義	古川
13	経脈・経穴(10)		十四経脈とその経穴(足の太陽膀胱経)、足の太陽膀胱経の取穴			講義	古川
14	評価(2)		8～13 回の評価			演習	古川
15	経脈・経穴(12)		十四経脈とその経穴(足の少陰腎経)			講義	古川
16	経脈・経穴(14)		足の少陰腎経の取穴			講義	古川
17	経脈・経穴(15)		十四経脈とその経穴(手の厥陰心包経)、取穴			講義	古川
18	経脈・経穴(16)		十四経脈とその経穴(手の少陽三焦経)			講義	古川
19	経脈・経穴(17)		手の少陽三焦経の取穴			講義	古川
20	経脈・経穴(18)		十四経脈とその経穴(足の少陽胆経)			講義	古川
21	経脈・経穴(19)		足の少陽胆経の取穴、十四経脈とその経穴(足の厥陰肝経)			講義	古川
22	評価(3)		15～21 回の評価			演習	古川
23	経脈・経穴(21)		足の厥陰肝経の取穴			講義	古川
24	経脈・経穴(22)		十四経脈とその経穴(督脈)			講義	古川

25	経脈・経穴(23)	十四経脈とその経穴(任脈)	講義	古川			
26	経脈・経穴(24)	督脈と任脈の取穴	講義	古川			
27	経脈・経穴(25)	手の要穴(1)、手の要穴(2)	講義	古川			
28	経脈・経穴(26)	足の要穴(1)、足の要穴(2)	講義	古川			
29	評価(4)	23～28 回の評価	演習	古川			
30	総括	経絡経穴概論Ⅰの総括	講義	古川			
評価方法							
評価指標	定期試験	－	－	－	－	－	合計
評価割合(%)	100	－	－	－	－	－	100
教科書	公益社団法人東洋療法学校協会編 新版 経絡経穴概論第2版 医道の日本社 4,500 円＋税						
教材・参考図書	適宜紹介する。						
オフィスアワー	講義時に適宜確認すること。						
履修上の 注意点	経絡経穴概論は覚える内容が多い科目なので、日頃から少しずつ学習することが必要不可欠である。また、取穴の際は解剖学の知識が必要となるため、解剖学の理解が不十分であればその範囲の復習をしておくと、授業の理解がスムーズとなる。						

科目名	経絡経穴概論Ⅱ				鍼灸科Ⅰ部		
学年	2 年	学期	1～2 学期	時間数	60 時間	単位数	2 単位
科目 責任者	小早川 静泰			科目 担当者	小早川 静泰		
科目 概要	臨床上重要な作用を持つとされる経穴(要穴)の働きを学び、その要穴の特性から鍼灸治療にどのように使用されるのかその運用法を学ぶ。また、経絡経穴と骨、筋肉、神経、動脈等の解剖学的関係を学ぶ。						
到達 目標	要穴の作用、臨床上の使用方法など理解し修得できる。経穴と筋肉、骨、動脈や神経などの関係を理解する。						
回数	単元項目		授業内容			形態	担当教員
1	経絡概論		経絡の種類、経絡の作用			講義	小早川
2	経脈の構成(1)		十二正経、経別			講義	小早川
3	経脈の構成(2)		経別の六合関係、経別治療の配穴			講義	小早川
4	経脈の構成(3)		絡脈・経筋の概略			講義	小早川
5	経脈の構成(4)		十二経筋の起始、途中、終止			講義	小早川
6	経脈の構成(5)		皮部について、腧穴について			講義	小早川
7	評価(1)		1～6 回の評価			演習	小早川
8	要穴(1)		原穴について、絡穴について			講義	小早川
9	要穴(2)		郄穴・腧穴について			講義	小早川
10	要穴(3)		募穴について、腧募穴の診断価値・治療価値			講義	小早川
11	要穴(4)		四総穴、八会穴について			講義	小早川
12	要穴(5)、奇経(1)		下合穴について、奇経八脈について、奇穴			講義	小早川
13	奇経(2)		奇経八脈の流注と交会穴、主治作用			講義	小早川
14	評価(2)		8～13 回の評価			演習	小早川
15	種々の配穴法(1)		難経六十八難の主治、難経六十九難の治療原則			講義	小早川
16	種々の配穴法(2)		原絡配穴法、腧募配穴法、上下配穴法、効能配穴法、症状配穴法			講義	小早川
17	経穴と解剖学的関係(1)		前腕の経穴と解剖学的関係			講義	小早川
18	経穴と解剖学的関係(2)		前腕の経穴と解剖学的関係			講義	小早川
19	経穴と解剖学的関係(3)		下腿の経穴と解剖学的関係			講義	小早川
20	経穴と解剖学的関係(4)		下腿の経穴と解剖学的関係			講義	小早川
21	経穴と解剖学的関係(5)		前頸部の経穴と解剖学的関係			講義	小早川
22	評価(3)		15～21 回の評価			演習	小早川
23	経穴と解剖学的関係(6)		頭顔面部の経穴と解剖学的関係			講義	小早川
24	経穴と解剖学的関係(7)		頭顔面部の経穴と解剖学的関係			講義	小早川
25	経穴と解剖学的関係(8)		前胸部鎖骨周りの経穴と解剖学的関係			講義	小早川
26	経穴と解剖学的関係(9)		肩部・上腕部の経穴と解剖学的関係			講義	小早川
27	経穴と解剖学的関係(10)		肩部・上腕部の経穴と解剖学的関係			講義	小早川

28	経穴と解剖学的関係(11) 経絡・経穴の現代的研究	大腿部・殿部の穴と解剖学的関係 経絡現象、経穴現象	講義	小早川			
29	評価(4)	23～28 回の評価	演習	小早川			
30	総括	経絡経穴概論Ⅱの総括	講義	小早川			
評価方法							
評価指標	定期試験		－	－	－	－	合計
評価割合(%)	100		－	－	－	－	100
教科書	公益社団法人東洋療法学校協会編 新版経絡経穴概論第 2 版 医道の日本社 4,500 円＋税						
教材・参考図書	適宜紹介する。						
オフィスアワー	講義時に適宜確認すること。						
履修上の 注意点	本講義で学習する内容は 1 年次の経絡経穴概論Ⅰの知識はもちろん、解剖学での骨、筋、神経、動脈の拍動部の知識及び東洋医学概論の知識など様々な科目とのつながりがある。本講義での学習内容の理解には他の講義とのつながりを意識すること、さらには鍼灸臨床での応用を意識することが重要である。						

科目名	経絡経穴概論Ⅲ				鍼灸科Ⅰ部		
学年	3 年	学期	1 学期	時間数	30 時間	単位数	1 単位
科目 責任者	西野 達也			科目 担当者	西野 達也		
科目 概要	臨床上重要な作用を持つとされる経穴(要穴)の働きを学び、その要穴の特性から鍼灸治療にどのように使用されるのかその運用法を学ぶ。また、全身の経穴の取穴部位を系統別に整理し、解剖学的な知識との関連性や臨床的作用について学ぶ。						
到達 目標	要穴の作用、臨床上の使用方法など理解し修得する。全身の経穴の取穴部位を系統別に整理し、解剖学的な知識との関連性や臨床的作用について説明できる。						
回数	単元項目		授業内容			形態	担当教員
1	五要穴		五要穴の臨床的作用と運用法			講義	西野
2	五俞穴		五俞穴の臨床的作用と運用法			講義	西野
3	五行穴		五行穴の臨床的作用と運用法			講義	西野
4	四総穴、八総穴		四総穴、八総穴の臨床的作用と運用法			講義	西野
5	下合穴、八会穴		下合穴、八会穴の臨床的作用と運用法			講義	西野
6	体幹部の経穴		体幹部の経穴の臨床的作用と運用法			講義	西野
7	上腕部の経穴		上腕部の経穴の臨床的作用と運用法			講義	西野
8	大腿部の経穴		大腿部の経穴の臨床的作用と運用法			講義	西野
9	頭頸部の経穴		頭頸部の経穴の臨床的作用と運用法			講義	西野
10	奇穴		奇穴の臨床的作用と運用法			講義	西野
11	配穴法		原絡配穴、母子配穴、俞募配穴法、上下配穴法等			講義	西野
12	経穴と解剖学の関連性(1)		上肢帯の骨、筋、神経、血管と経穴との関連性			講義	西野
13	経穴と解剖学の関連性(2)		前腕の骨、筋、神経、血管と経穴との関連性			講義	西野
14	経穴と解剖学の関連性(3)		下肢の骨、筋、神経、血管と経穴との関連性			講義	西野
15	経穴と解剖学の関連性(4)		頭頸部の骨、筋、神経、血管と経穴との関連性			講義	西野
評価方法							
評価指標		定期試験	-	-	-	-	合計
評価割合(%)		100	-	-	-	-	100
教科書	公益社団法人東洋療法学校協会編 新版経絡経穴概論第2版 医道の日本社 4,500 円＋税						
教材・参考図書		適宜紹介する。					
オフィスアワー		講義時に適宜確認すること。					
履修上の 注意点		板書により経絡流注や要穴について説明するので、ノートを取り、復習をしてもらいたい。また、どのように経絡や経穴が臨床応用されているのか、要穴の使い方を学んでももらいたい。					

科目名	臨床生体学				鍼灸科Ⅰ部			
学年	1 年	学期	1・3 学期		時間数	30 時間	単位数	1 単位
科目 責任者	西野 達也			科目 担当者	西野 達也、古川 理恵			
科目 概要	鍼灸を学ぶことの意義と将来の可能性について学習する。 解剖学Ⅰ、解剖学Ⅱ及び生理学Ⅰ、生理学Ⅱ、東洋医学概論Ⅰで学ぶ知識を基に、生体における徴候の理解を深め、臨床医学総論の生命徴候(病態除く)に繋がる総合的な基礎について学習する。							
到達 目標	解剖学、生理学、東洋医学概論の知識が実際の生体観察においてどのように活用できるかを理解する。臨床で必要とされる身体診察の基本的知識を身につける。患者へのインフォームド・コンセント等の接遇について配慮することができる。							
回数	単元項目		授業内容			形態	担当教員	
1	学習指導(1)		鍼灸科で学ぶとは			講義	西野	
2	学習指導(2)		キャリアデザイン(1)			講義	西野	
3	学習指導(3)		キャリアデザイン(2)			講義	西野	
4	学習指導(4)		解剖学、生理学、東洋学概論を学ぶ意義、学び方			講義	西野	
5	学習指導(5)		解剖学の臨床応用			講義	西野	
6	学習指導(6)		生理学の臨床応用			講義	西野	
7	学習指導(7)		東洋医学概論の臨床応用			講義	西野	
8	学習指導(8)		鍼灸臨床の実際			講義	西野	
9	基礎医学と臨床医学(1)		臨床医学を学ぶ上で基礎医学を理解する意義			講義	古川	
10	基礎医学と臨床医学(2)		循環器			講義	古川	
11	基礎医学と臨床医学(3)		消化と吸収			講義	古川	
12	基礎医学と臨床医学(4)		内臓の調節(自律神経・内分泌)			講義	古川	
13	基礎医学と臨床医学(5)		神経系、体温・生殖			講義	古川	
14	評価		9～13 回の評価			演習	古川	
15	総括		臨床生体学の総括			講義	古川	
評価方法								
評価指標		レポート	小テスト	定期試験	－	－	－	合計
評価割合(%)		50	25	25	－	－	－	100
教科書	公益社団法人東洋療法学校協会編 解剖学第 2 版 医歯薬出版株式会社 5,900 円＋税 公益社団法人東洋療法学校協会編 生理学第 3 版 医歯薬出版株式会社 4,800 円＋税 公益社団法人東洋療法学校協会編 新版東洋医学概論第 1 版 医道の日本社 5,200 円＋税							
教材・参考図書		適宜紹介する。						
オフィスアワー		講義時に適宜確認すること。						
履修上の 注意点		授業で学習した範囲の解剖学、生理学、東洋医学概論を理解しているものとして講義を行うため、関連する内容を事前に確認しておくこと。						

科目名	鍼灸理論Ⅰ				鍼灸科Ⅰ部		
学年	2 年	学期	1～3 学期	時間数	90 時間	単位数	3 単位
科目 責任者	梅井 直人			科目 担当者	梅井 直人、木下 圭介		
科目 概要	東洋医学に対する一般的な印象は「神秘的な治療法であるが科学的根拠に乏しい」というものであろう。そのような状況の中で近年 EBM(科学的根拠に基づく医療)の考えに則った臨床的治療効果の検証が実施され始めている。本講義では科学的に検証された鍼灸治療の作用機序、鍼灸治療効果をはじめ、鍼灸の適応・不適用、鍼灸臨床で用いる道具、様々な鍼灸の技術、衛生的処置、鍼灸治療による過誤や副作用について学習する。また、治効理論を理解することで鍼灸師として学び続けていくための基礎を構築する。						
到達 目標	科学的に検証された鍼灸治療の作用機序、鍼灸治療効果を理解し説明できる。鍼灸臨床で用いる道具、様々な鍼灸の技術、衛生的処置、鍼灸治療による過誤や副作用について理解し説明できる。						
回数	単元項目		授業内容			形態	担当教員
1	概論		鍼灸施術の定義、鍼灸治療の特徴			講義	梅井
2	鍼の基礎知識		鍼と鍼管、古代九鍼			講義	梅井
3	刺鍼の方式と術式		刺鍼の方式と術式、刺鍼中の手技			講義	梅井
4	特殊鍼法		小児鍼、皮内鍼・円皮鍼、灸頭鍼、低周波鍼通電療法			講義	梅井
5	灸の基礎知識		艾の品質と種類、線香			講義	梅井
6	灸術の種類		有痕灸、無痕灸			講義	梅井
7	評価(1)		1～6 回の評価			演習	梅井
8	リスク管理(1)		関連用語の定義			講義	梅井
9	リスク管理(2)		施術上の一般注意事項			講義	梅井
10	リスク管理(3)		鍼灸施術の禁忌			講義	梅井
11	リスク管理(4)		感染対策			講義	梅井
12	リスク管理(5)		鍼施術の有害事象			講義	梅井
13	リスク管理(6)		灸施術の有害事象			講義	梅井
14	評価(2)		8～13 回の評価			演習	梅井
15	鍼灸治効の基礎知識(1)		概説			講義	梅井
16	鍼灸治効の基礎知識(2)		運動系の調節(1)			講義	梅井
17	鍼灸治効の基礎知識(3)		運動系の調節(2)			講義	梅井
18	鍼灸治効の基礎知識(4)		内臓系の調節(1)			講義	梅井
19	鍼灸治効の基礎知識(5)		内臓系の調節(2)			講義	梅井
20	鍼灸治効の基礎知識(6)		体性感覚(1)			講義	梅井
21	鍼灸治効の基礎知識(7)		体性感覚(2)			講義	梅井
22	評価(3)		15～21 回の評価			演習	梅井
23	鍼灸治効の基礎知識(8)		痛覚(1)			講義	梅井
24	鍼灸治効の基礎知識(9)		痛覚(2)			講義	梅井
25	鍼灸治効の基礎知識(10)		温度感覚			講義	梅井

26	鍼灸治効の基礎知識(11)	触覚・圧覚・振動覚	講義	梅井			
27	鍼灸治効の基礎知識(12)	内臓感覚	講義	梅井			
28	鍼灸治効の基礎知識(13)	熱傷、体表の反応	講義	梅井			
29	評価(4)	23～28 回の評価	演習	梅井			
30	鍼灸治効機序(1)	鍼鎮痛(1)	講義	梅井			
31	鍼灸治効機序(2)	鍼鎮痛(2)	講義	梅井			
32	鍼灸治効機序(3)	循環器系と鍼灸	講義	梅井			
33	鍼灸治効機序(4)	運動系と鍼、消化器系と鍼	講義	梅井			
34	鍼灸治効機序(5)	泌尿器系と鍼、リラクゼーションと鍼灸	講義	梅井			
35	鍼灸治効機序(6)	生体防御系と鍼灸	講義	梅井			
36	関連学説(1)	サイバネティックス、ホメオスターシス	講義	梅井			
37	関連学説(2)	汎適応症候群、過剰刺激症候群、圧発汗反射	講義	梅井			
38	鍼灸治効機序と臨床の接点(1)	刺激部位、刺激入力	講義	梅井			
39	鍼灸治効機序と臨床の接点(2)	女性特有の症候と鍼灸(1)	講義	木下			
40	鍼灸治効機序と臨床の接点(3)	女性特有の症候と鍼灸(2)	講義	木下			
41	鍼灸治効機序と臨床の接点(4)	小児特有の症候と鍼灸(1)	講義	木下			
42	鍼灸治効機序と臨床の接点(5)	小児特有の症候と鍼灸(2)	講義	木下			
43	鍼灸治効機序と臨床の接点(6)	老年特有の症候と鍼灸	講義	木下			
44	評価(5)	30～43 回の評価	演習	木下			
45	総括	鍼灸理論Ⅰの総括	講義	木下			
評価方法							
評価指標		定期試験	－	－	－	－	合計
評価割合(%)		100	－	－	－	－	100
教科書	公益社団法人東洋療法学校協会編 はりきゅう理論第3版 医道の日本社 3,200 円＋税 公益社団法人東洋療法学校協会編 新版東洋医学臨床論〈はりきゅう編〉南江堂 6,700 円＋税						
教材・参考図書		有馬義貴編集 はりきゅう基礎技術学 南江堂 3,200 円＋税					
オフィスアワー		講義時に適宜確認すること。					
履修上の 注意点	本講義で学習する内容は1年次の鍼灸実技Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳでの鍼灸の基礎知識及び基本操作、衛生学・公衆衛生学で学んだ消毒法や血液感染する感染症、生理学Ⅱで学んだ神経系・自律神経系の機能や免疫系の機能、2年次の病理学概論で学ぶ炎症反応など様々な科目とのつながりがある。本講義での学習内容の理解には他の講義とのつながりを意識すること、さらには鍼灸臨床での応用を意識することが重要である。						

科目名	鍼灸理論Ⅱ				鍼灸科Ⅰ部			
学年	3 年	学期	1～2 学期		時間数	30 時間	単位数	1 単位
科目 責任者	古川 理恵				科目 担当者	古川 理恵		
科目 概要	2 年次に履修した鍼灸理論Ⅰを基に、鍼灸の科学的治効理論や適応疾患の判断、鍼灸師として学び続ける基礎を構築し、臨床能力の向上を図る。							
到達 目標	鍼灸理論における知識の再理解と、それに伴い臨床現場を想定した授業内容の応用方法を理解できる。							
回数	単元項目		授業内容				形態	担当教員
1	鍼の基礎知識		鍼と鍼管、古代九鍼				講義	古川
2	刺鍼の方式と術式		刺鍼の方式と術式、刺鍼中の手技				講義	古川
3	特殊鍼法		小児鍼、皮内鍼・円皮鍼、灸頭鍼、低周波鍼通電療法				講義	古川
4	灸の基礎知識		艾の品質と種類、線香				講義	古川
5	灸術の種類		有痕灸、無痕灸				講義	古川
6	リスク管理(1)		関連用語の定義、施術上の一般注意事項、鍼灸施術の禁忌				講義	古川
7	リスク管理(2)		感染対策、鍼施術の有害事象、灸施術の有害事象				講義	古川
8	鍼灸治効の基礎知識(1)		運動系の調節、内臓系の調節				講義	古川
9	鍼灸治効の基礎知識(2)		体性感覚、内臓感覚				講義	古川
10	鍼灸治効の基礎知識(3)		熱傷、体表の反応				講義	古川
11	鍼灸治効機序(1)		鍼鎮痛				講義	古川
12	鍼灸治効機序(2)		循環器系と鍼灸、運動系と鍼、消化器系と鍼				講義	古川
13	鍼灸治効機序(3)		泌尿器系と鍼、リラクゼーションと鍼灸、生体防御系と鍼灸				講義	古川
14	鍼灸治効機序と臨床の接点		刺激部位、刺激入力				講義	古川
15	関連学説		サイバネティックス、ホメオスターシス、汎適応症候群、過剰刺激症候群、圧発汗反射				講義	古川
評価方法								
評価指標		定期試験	－	－	－	－	－	合計
評価割合(%)		100	－	－	－	－	－	100
教科書	公益社団法人東洋療法学校協会編 はりきゅう理論第3版 医道の日本社 3,200 円＋税							
教材・参考図書		適宜紹介する。						
オフィスアワー		講義時に適宜確認すること。						
履修上の 注意点		講義前に教科書や2 年次に板書した鍼灸理論Ⅰのノートを確認し復習すること。						

科目名	病態生理学					鍼灸科Ⅰ部		
学年	2 年	学期	3 学期		時間数	30 時間	単位数	2 単位
科目 責任者	小野 広貴				科目 担当者	小野 広貴		
科目 概要	病態生理学とは、人体の正常な機能の異常や、調節機能が破綻した病気の身体機能の状態とその原因を解き明かす学問である。各種疾患に共通して認められる器官・組織における形態と機能の変化を理解する。さらに、主要疾患の形態・機能の異常および疾患の成因を知るとともに、それぞれの発症および病態の進行過程を理解する。							
到達 目標	各種疾患に共通して認められる器官・組織の異常について理解し、説明ができる。また、主要疾患の病態生理の知識、考え方を理解し、発症、症状、経過、予後を説明することができる。							
回数	単元項目		授業内容				形態	担当教員
1	整形外科疾患(1)		総論、関節疾患				講義	小野
2	整形外科疾患(2)		骨代謝性疾患・骨腫瘍				講義	小野
3	整形外科疾患(3)		筋・腱疾患、形態異常				講義	小野
4	整形外科疾患(4)		脊椎疾患、外傷				講義	小野
5	整形外科疾患(5)		その他の整形外科疾患				講義	小野
6	血液・造血器疾患(1)		赤血球疾患、白血球疾患				講義	小野
7	血液・造血器疾患(2)		リンパ網内系疾患、出血性素因				講義	小野
8	リウマチ性疾患・膠原病(1)		リウマチ性疾患				講義	小野
9	リウマチ性疾患・膠原病(2)		膠原病（前半）				講義	小野
10	リウマチ性疾患・膠原病(3)		膠原病（後半）				講義	小野
11	その他の領域(1)		小児疾患、一般外科、麻酔科				講義	小野
12	その他の領域(2)		婦人科疾患、皮膚科疾患、眼科疾患				講義	小野
13	その他の領域(3)		耳鼻科疾患、精神科疾患、心療内科、加齢に伴う病態				講義	小野
14	評価		1～13 回の評価				演習	小野
15	総括		病態生理学の総括				講義	小野
評価方法								
評価指標		定期試験	－	－	－	－	－	合計
評価割合(%)		100	－	－	－	－	－	100
教科書	公益社団法人東洋療法学校協会編 臨床医学各論第 2 版 医歯薬出版株式会社 5,500 円＋税							
教材・参考図書		適宜紹介する。						
オフィスアワー		講義時に適宜確認すること。						
履修上の 注意点		病態生理学は病理学、生理学、臨床医学各論を結びつける重要な科目であり、発展科目である。各科目を理解した上での講義となるため、講義前に各教科書やノートを確認し、予習をして受講すること。						

科目名	東洋医学臨床論Ⅰ				鍼灸科Ⅰ部		
学年	2年	学期	1～2学期	時間数	60時間	単位数	2単位
科目 責任者	柿木 邦友			科目 担当者	柿木 邦友		
科目 概要	鍼灸臨床は患者の訴えを聴取し、病態を把握したうえで目的に合った鍼灸施術を行っていく。例えば頭痛を訴えているならばその原因は片頭痛や脳出血など多岐にわたる。この科目では現代医学的な疾患の鑑別と鍼灸適応疾患の判断基準、疾患に対する治療方針と治療配穴について学習し、鍼灸師として学び続ける上で必要な能力を養う基礎とする。						
到達 目標	症状と所見から現代医学的な病態把握ができる。鍼灸適応疾患と病院を紹介すべき危険な疾患の判断ができる。病態に対して治療方針を考察することができる。治療方針に見合った経穴を述べることができる。						
回数	単元項目		授業内容			形態	担当教員
1	総論		鍼灸臨床			講義	柿木
2	疼痛(1)		概説、頭痛			講義	柿木
3	疼痛(2)		顔面痛、関節痛			講義	柿木
4	疼痛(3)		胸痛、腹痛			講義	柿木
5	臓腑と関連する症候(1)		眼精疲労、気分障害			講義	柿木
6	臓腑と関連する症候(2)		めまい			講義	柿木
7	評価(1)		1～6回の評価			演習	柿木
8	臓腑と関連する症候(3)		動悸、息切れ、血圧異常、			講義	柿木
9	臓腑と関連する症候(4)		睡眠障害、食欲不振			講義	柿木
10	臓腑と関連する症候(5)		肥満、やせ			講義	柿木
11	臓腑と関連する症候(6)		悪心・嘔吐、便秘、			講義	柿木
12	臓腑と関連する症候(7)		下痢、歯痛			講義	柿木
13	臓腑と関連する症候(8)		咳嗽と喀痰、呼吸困難			講義	柿木
14	評価(2)		8～13回の評価			演習	柿木
15	臓腑と関連する症候(9)		鼻閉・鼻汁、脱毛症			講義	柿木
16	臓腑と関連する症候(10)		耳鳴り・難聴			講義	柿木
17	臓腑と関連する症候(11)		排尿障害			講義	柿木
18	臓腑と関連する症候(12)		ED			講義	柿木
19	全身の症候(1)		疲労と倦怠			講義	柿木
20	全身の症候(2)		発熱			講義	柿木
21	全身の症候(3)		冷え			講義	柿木
22	評価(3)		15～21回の評価			演習	柿木
23	全身の症候(4)		のぼせ			講義	柿木
24	全身の症候(5)		浮腫			講義	柿木
25	全身の症候(6)		掻痒感			講義	柿木
26	その他の症候(1)		顔面麻痺			講義	柿木

27	その他の症候(2)	歩行異常					講義	柿木
28	その他の症候(3)	口渇、出血傾向					講義	柿木
29	評価(4)	23～28 回の評価					演習	柿木
30	総括	東洋医学臨床論Ⅰの総括					講義	柿木
評価方法								
評価指標		定期試験	-	-	-	-	-	合計
評価割合(%)		100	-	-	-	-	-	100
教科書	公益社団法人東洋療法学校協会編 新版東洋医学臨床論〈はりきゅう編〉南江堂 6,700 円＋税							
教材・参考図書		適宜紹介する。						
オフィスアワー		講義時に適宜確認すること。						
履修上の 注意点		目次、第 2 章第 1 節Ⅴ. 頸肩腕痛～Ⅺ. 膝痛の内容については鍼灸実技Ⅴ、第 5 節女性特有の症候～第 7 節老年特有の症候については鍼灸理論Ⅰにて行う。この科目は解剖学、経絡経穴概論の知識を活用して授業が行われるので、予習では関連する解剖学と経穴(頭痛ならば頭部の骨、筋、神経、脈管等と頭部の経穴)を見返して理解し、臨床医学各論の関連する項目と合わせて行うこと。						

科目名	東洋医学臨床論Ⅱ				鍼灸科Ⅰ部		
学年	2 年	学期	2～3 学期	時間数	60 時間	単位数	2 単位
科目 責任者	小早川 静泰			科目 担当者	小早川 静泰		
科目 概要	鍼灸臨床上、遭遇しやすい症候・疾病に対して鍼灸治療の適不適を判断し、適切な鍼灸治療が行えるよう、その方法を学習する。具体的には、臓腑弁証、気血津液弁証などの東洋医学的診断法や経絡経穴の特性を詳しく学び、鍼灸適応疾患の判断基準、東洋医学的な鍼灸治療の実際を学習し、鍼灸師として学び続ける上で必要な能力を養う基礎とする。						
到達 目標	東洋医学概論で学習した疾病観、診断論、治療論を用いて弁証し、適切な経絡経穴を用い、弁証論治を行える。						
回数	単元項目		授業内容			形態	担当教員
1	治療総論		治療原則、治療計画、治療効果の評価			講義	小早川
2	疼痛(1)		概説、頭痛、顔面痛			講義	小早川
3	疼痛(2)		運動器痛(関節、頸肩腕、上肢、肩関節、腰下肢、膝)			講義	小早川
4	疼痛(3)		胸痛、腹痛			講義	小早川
5	肝系統(1)		眼精疲労、気分障害			講義	小早川
6	肝系統(2)		めまい			講義	小早川
7	評価(1)		1～6 回の評価			演習	小早川
8	心系統(1)		動悸・息切れ、血圧異常			講義	小早川
9	心系統(2)		睡眠障害			講義	小早川
10	脾系統(1)		食欲不振、肥満			講義	小早川
11	脾系統(2)		やせ、悪心・嘔吐			講義	小早川
12	脾系統(3)		便秘、下痢、歯痛			講義	小早川
13	肺系統(1)		咳嗽と喀痰、呼吸困難			講義	小早川
14	評価(2)		8～13 回の評価			演習	小早川
15	肺系統(2)		鼻閉・鼻汁			講義	小早川
16	腎系統(1)		脱毛症、耳鳴り・難聴			講義	小早川
17	腎系統(2)		排尿障害、ED			講義	小早川
18	全身の症候(1)		疲労と倦怠感、発熱、冷え			講義	小早川
19	全身の症候(2)		のぼせ、浮腫、掻痒感			講義	小早川
20	その他の症候(1)		顔面麻痺、歩行異常			講義	小早川
21	その他の症候(2)		口渇、出血傾向			講義	小早川
22	評価(3)		16～21 回の評価			演習	小早川
23	女性特有の症候(1)		概説、月経異常			講義	小早川
24	女性特有の症候(2)		性器出血、帯下			講義	小早川
25	女性特有の症候(3)		不妊症、つわり			講義	小早川
26	女性特有の症候(4)		骨盤位(逆子)、乳汁分泌不全			講義	小早川

27	小児特有の症候	概説、疳の虫、夜尿症、小児喘息					講義	小早川
28	老年特有の症候	概説、認知症					講義	小早川
29	評価(4)	23～28 回の評価					演習	小早川
30	総括	東洋医学臨床論Ⅱの総括					講義	小早川
評価方法								
評価指標		定期試験	－	－	－	－	－	合計
評価割合(%)		100	－	－	－	－	－	100
教科書	公益社団法人東洋療法学校協会編 新版東洋医学臨床論〈はりきゅう編〉南江堂 6,700 円＋税							
教材・参考図書		天津中医薬大学＋学校法人後藤学園著 鍼灸学[臨床編]初版 東洋学術出版社 7,000 円＋税						
オフィスアワー		講義時に適宜確認すること。						
履修上の 注意点		本講義で学ぶ内容は、頭痛や下痢など日常で体験する症状も多い。体調を崩したときは、その時の自分の状態をよく観察し、どのように発症して回復したかを記憶しておくで参考になる。また、東洋医学概論の気血津液の病証や臓腑の病証を復習しておくで、理解しやすい。						

科目名	東洋医学臨床論Ⅲ				鍼灸科Ⅰ部		
学年	3 年	学期	1～2 学期	時間数	60 時間	単位数	2 単位
科目 責任者	木下 圭介			科目 担当者	木下 圭介、岩倉 宏典		
科目 概要	2 年次に行われた東洋医学臨床論Ⅰ、東洋医学臨床論Ⅱの授業を応用して理解を深めていく。現代医学と東洋医学の双方の観点から患者の病態を把握し、治療方針が組み立てられるよう相互の違いと共通点に着目しながら学習する。						
到達 目標	症例に対して現代医学と東洋医学の双方の観点から情報を整理して病態を把握することができる。適切な治療方針を考察し、自ら治療配穴を組み立てることができる。						
回数	単元項目		授業内容			形態	担当教員
1	総論		鍼灸臨床			講義	木下、岩倉
2	疼痛(1)		概説、頭痛			講義	木下、岩倉
3	疼痛(2)		顔面痛、関節痛			講義	木下、岩倉
4	疼痛(3)		胸痛、腹痛			講義	木下、岩倉
5	臓腑と関連する症候(1)		眼精疲労、気分障害			講義	木下、岩倉
6	臓腑と関連する症候(2)		めまい			講義	木下、岩倉
7	臓腑と関連する症候(3)		動悸、息切れ、血圧異常、			講義	木下、岩倉
8	臓腑と関連する症候(4)		睡眠障害、食欲不振			講義	木下、岩倉
9	臓腑と関連する症候(5)		肥満、やせ			講義	木下、岩倉
10	臓腑と関連する症候(6)		悪心・嘔吐、便秘、			講義	木下、岩倉
11	臓腑と関連する症候(7)		下痢、歯痛			講義	木下、岩倉
12	臓腑と関連する症候(8)		咳嗽と喀痰、呼吸困難			講義	木下、岩倉
13	臓腑と関連する症候(9)		鼻閉・鼻汁、脱毛症			講義	木下、岩倉
14	臓腑と関連する症候(10)		耳鳴り・難聴			講義	木下、岩倉
15	臓腑と関連する症候(11)		排尿障害、ED			講義	木下、岩倉
16	全身の症候(1)		疲労と倦怠、発熱			講義	木下、岩倉
17	全身の症候(2)		冷え、のぼせ			講義	木下、岩倉
18	全身の症候(3)		浮腫、掻痒感			講義	木下、岩倉
19	その他の症候(1)		顔面麻痺、歩行異常			講義	木下、岩倉
20	その他の症候(2)		口渇、出血傾向			講義	木下、岩倉
21	女性特有の症候(1)		概説、月経異常、性器出血			講義	木下、岩倉
22	女性特有の症候(2)		帯下、不妊症			講義	木下、岩倉
23	女性特有の症候(3)		つわり、骨盤位（逆子）、乳汁分泌不全			講義	木下、岩倉
24	小児特有の症候(1)		概説、疳の虫			講義	木下、岩倉
25	小児特有の症候(2)		夜尿症、小児喘息			講義	木下、岩倉
26	老年特有の症候		概説、認知症			講義	木下、岩倉

27	総合応用(1)	問題演習及び解説				講義	木下、岩倉
28	総合応用(2)	問題演習及び解説				講義	木下、岩倉
29	総合応用(3)	問題演習及び解説				講義	木下、岩倉
30	総合応用(4)	問題演習及び解説				講義	木下、岩倉
評価方法							
評価指標		定期試験	－	－	－	－	合計
評価割合(%)		100	－	－	－	－	100
教科書	公益社団法人東洋療法学校協会編 新版東洋医学臨床論〈はりきゅう編〉南江堂 6,700 円＋税						
教材・参考図書		適宜紹介する。					
オフィスアワー		講義時に適宜確認すること。					
履修上の 注意点		総合的に病態を把握するためには、他の全ての科目の基本的知識が必要となる。特に解剖学、生理学、病理学、臨床医学各論、東洋医学概論、経絡経穴概論は必須である。事前に関連する内容を学習してから授業を受けること。					

科目名	社会鍼灸学Ⅰ				鍼灸科Ⅰ部		
学年	2年	学期	3学期	時間数	30時間	単位数	1単位
科目 責任者	梅井 直人			科目 担当者	梅井 直人、西野 達也、柿木 邦友 實松 沙織、木下 圭介、岩倉 宏典 古川 理恵、小野 広貴		
科目 概要	社会鍼灸学は社会の健康課題に対し鍼灸をはじめとする東洋療法を活用し、いかに貢献すべきかを学ぶ。						
到達 目標	施術者として社会的ニーズの多様化に適切に対応できる能力を身につける。						
回数	単元項目		授業内容			形態	回数
1	スポーツと鍼灸(1)		スポーツ現場における鍼灸師の役割、各種資格			講義	木下
2	女性と鍼灸		婦人科疾患、産前産後ケア			講義	實松
3	高齢者と鍼灸		地域包括ケア、介護施設への往診			講義	岩倉
4	音楽と鍼灸		歌手や演奏家を支える鍼灸師と治療の実際			講義	西野
5	小児と鍼灸		小児鍼の概要と実際			講義	柿木
6	漢方・養生と鍼灸		漢方薬の概要と医薬品の分類			講義	古川
7	自律神経と鍼灸		鍼灸治療による自律神経の変化を視覚化			講義	小野
8	世界と鍼灸		世界での鍼灸の普及状況、世界での鍼灸資格			講義	梅井
9	スポーツと鍼灸(2)		スポーツ現場で実際に行われている治療			講義	木下
10	皮膚と鍼灸		美容、アトピー性皮膚炎			講義	實松
11	障害者と鍼灸		障害者への鍼灸治療、専門施設や取り組みの現状			講義	岩倉
12	開業・経営と鍼灸		開業鍼灸師の実例と事業計画の手法			講義	西野
13	災害と鍼灸		被災地でのボランティア活動			講義	柿木
14	舞台と鍼灸		舞台における鍼灸トレーナーの実際			講義	古川
15	鍼灸接骨院と鍼灸		鍼灸接骨院での鍼灸治療、各種保険			講義	小野
評価方法							
評価指標		レポート	-	-	-	-	合計
評価割合(%)		100	-	-	-	-	100
教科書	適宜紹介する。						
教材・参考図書		適宜紹介する。					
オフィスアワー		講義時に適宜確認すること。					
履修上の 注意点		本講義は鍼灸師として必要な治療に関する知識や技術と共に社会との関わり方を勉強する。普段から新聞やニュース等社会情勢に目を向け、日本及び国際社会の中での医療の動向を意識すること。					

科目名	社会鍼灸学Ⅱ				鍼灸科Ⅰ部		
学年	3 年	学期	2 学期	時間数	30 時間	単位数	1 単位
科目 責任者	岩倉 宏典			科目 担当者	岩倉 宏典		
科目 概要	2 年次に行われた東洋医学臨床論Ⅰの授業を応用して、社会的に鍼灸がどのような領域で用いられるか理解を深めていく。現代医学の観点から患者の病態を把握し、治療方針が組み立てられるよう学習する。						
到達 目標	社会と鍼灸のつながりを理解することができる。症例に対して現代医学の観点から情報を整理して病態を把握することができる。適切な治療方針を考察し、自ら治療配穴を組み立てることができる。						
回数	単元項目		授業内容			形態	担当教員
1	全身の症候(1)		疲労と倦怠、発熱			講義	岩倉
2	全身の症候(2)		冷え、のぼせ			講義	岩倉
3	全身の症候(3)		浮腫、掻痒感			講義	岩倉
4	その他の症候(2)		口渇、出血傾向			講義	岩倉
5	女性特有の症候(1)		概説、月経異常、性器出血			講義	岩倉
6	女性特有の症候(2)		帯下、不妊症			講義	岩倉
7	女性特有の症候(3)		つわり、骨盤位（逆子）、乳汁分泌不全			講義	岩倉
8	小児特有の症候(1)		概説、疳の虫			講義	岩倉
9	小児特有の症候(2)		夜尿症、小児喘息			講義	岩倉
10	老年特有の症候		概説、認知症			講義	岩倉
11	総合応用(1)		問題演習及び解説			講義	岩倉
12	総合応用(2)		問題演習及び解説			講義	岩倉
13	総合応用(3)		問題演習及び解説			講義	岩倉
14	総合応用(4)		問題演習及び解説			講義	岩倉
15	総合応用(5)		問題演習及び解説			講義	岩倉
評価方法							
評価指標		定期試験		－	－	－	合計
評価割合(%)		100		－	－	－	100
教科書	公益社団法人東洋療法学校協会編 新版東洋医学臨床論〈はりきゅう編〉南江堂 6,700 円＋税						
教材・参考図書		適宜紹介する。					
オフィスアワー		講義時に適宜確認すること。					
履修上の 注意点		総合的に病態を把握するためには、他の全ての科目の基本的知識が必要となる。特に解剖学、生理学、病理学、臨床医学各論、経絡経穴概論は必須である。事前に関連する内容を学習してから授業を受けること。					

科目名	鍼灸実技Ⅰ				鍼灸科Ⅰ部		
学年	1 年	学期	1～2 学期	時間数	60 時間	単位数	2 単位
科目 責任者	西野 達也			科目 担当者	西野 達也、實松 沙織		
科目 概要	鍼灸師は人体に対して鍼を刺し、皮膚の上で火を燃やす。知識・技術を持たずに行えばただの傷害行為となる。鍼灸治療を行うに当たって安全性は最も重要である。この科目ではクラスメイトを患者役とし、鍼施術の基本的な技術を身に付け、人体に対して安全に鍼施術を行える技術を身に付けていく。						
到達 目標	基本的な鍼施術の技術を身につける。患者役に対して適切なコミュニケーションをとり、安全面に配慮することができる。医療従事者として信頼性の高い態度、容姿を実践することができる。						
回数	単元項目		授業内容			形態	担当教員
1	実技の準備(1)		実技室の使い方、手の洗い方、鍼基本動作			実技	西野、實松
2	実技の準備(2)		鍼道具の準備、片手挿管			実技	西野、實松
3	鍼の基本知識(1)		鍼の部位名称、押手、刺手			実技	西野、實松
4	鍼の基本知識(2)		刺鍼の流れ			実技	西野、實松
5	鍼の基本知識(3)		練習器に刺鍼(ディスポ鍼)			実技	西野、實松
6	鍼の基本知識(4)		練習器に刺鍼(銀鍼寸3、寸6)			実技	西野、實松
7	評価(1)		1～6 回の評価			演習	西野、實松
8	鍼実技(1)		ディスポ鍼、過誤、鍼の衛生操作、自分に刺鍼			実技	西野、實松
9	鍼実技(2)		自分に刺鍼(胃経)			実技	西野、實松
10	鍼実技(3)		自分に刺鍼(脾経)			実技	西野、實松
11	鍼実技(4)		自分に刺鍼(腎経)			実技	西野、實松
12	鍼実技(5)		自分に刺鍼(胆経)			実技	西野、實松
13	鍼実技(6)		自分に刺鍼(肝経)			実技	西野、實松
14	評価(2)		8～13 回の評価			演習	西野、實松
15	感染リスクと予防		血液を介する感染症、感染経路とその予防対策			実技	西野、實松
16	鍼実技(7)		自分に刺鍼、相手の腕に刺鍼			実技	西野、實松
17	鍼実技(8)		相手の腕に刺鍼、インフォームド・コンセント、接遇			実技	西野、實松
18	鍼実技(9)		相手の足に刺鍼、施術野の確保			実技	西野、實松
19	鍼実技(10)		相手の足に刺鍼、患者の姿勢(胸当て、枕)			実技	西野、實松
20	鍼実技(11)		相手の腰に刺鍼、施術野の確保			実技	西野、實松
21	鍼実技(12)		相手の腰に刺鍼、患者の姿勢(胸当て、枕)			実技	西野、實松
22	評価(3)		15～21 回の評価			演習	西野、實松
23	鍼実技(12)		相手の腰に斜刺、横刺			実技	西野、實松
24	鍼実技(13)		相手の頸肩に斜刺、横刺			実技	西野、實松
25	鍼実技(14)		相手の頭に直刺、斜刺、横刺			実技	西野、實松
26	鍼実技(15)		相手の腹部に直刺、斜刺、横刺			実技	西野、實松

27	鍼実技(16)	要穴に刺鍼(原穴)	実技	西野、實松		
28	鍼実技(17)	要穴に刺鍼(絡穴・郄穴)	実技	西野、實松		
29	評価(4)	23～28 回の評価	演習	西野、實松		
30	総括	鍼灸実技Ⅰの総括	実技	西野、實松		
評価方法						
評価指標	定期試験	－	－	－	－	合計
評価割合(%)	100	－	－	－	－	100
教科書	有馬義貴編集 はりきゅう基礎技術学 南江堂 3,700 円＋税					
教材・参考図書	適宜紹介する。					
オフィスアワー	講義時に適宜確認すること。					
履修上の 注意点	鍼灸師(プロフェッショナル)を目指すにあたって、授業時間のみの練習だけでは十分な技術が身に付かない。授業で習った技術を自宅で反復練習する必要がある。ただし、授業で習っていないことを自分の判断で勝手に行うのは危険なので絶対に行わないこと。					
担当教員の 実務経験	西野：東西鍼灸院(平成 21 年 4 月～23 年 2 月)、福岡医療学院鍼灸院(平成 23 年 3 月～現在に至る)にて 16 年間の鍼灸治療の臨床経験を有し、安全な刺鍼、基礎はり実技に精通している。 實松：東西鍼灸院(平成 18 年 4 月～平成 22 年 3 月)、福岡医療学院鍼灸院(平成 24 年 4 月～現在に至る)にて 19 年間の鍼灸治療の臨床経験を有し、安全な刺鍼、基礎はり実技に関する知識・技術を十分に有している。					

科目名	鍼灸実技Ⅱ				鍼灸科Ⅰ部		
学年	1 年	学期	1～2 学期	時間数	60 時間	単位数	2 単位
科目 責任者	古川 理恵			科目 担当者	古川 理恵、西野 達也		
科目 概要	鍼灸師は人体に対して鍼を刺し、皮膚の上で艾に火をつけて燃やす。知識・技術を持たずに行えばただの傷害行為となる。鍼灸治療を行うに当たって安全性は最も重要である。この科目ではクラスメイトを患者役とし、灸の基本的な技術を身に付け、人体に対して安全に灸を行える技術を身に付けていく。						
到達 目標	基本的な灸の技術を身につける。患者役に対して適切なコミュニケーションをとり、安全面に配慮することができる。医療従事者として信頼性の高い態度、容姿を実践することができる。						
回数	単元項目		授業内容			形態	担当教員
1	実技の準備(1)		実技室の使い方、手の洗いか方、灸基本動作			実技	古川、西野
2	実技の準備(2)		灸道具の準備、灸基本動作			実技	古川、西野
3	灸の基本知識(1)		艾(もぐさ)、艾炷(がいしゅ)の大きさ			実技	古川、西野
4	灸の基本知識(2)		施灸の流れ			実技	古川、西野
5	灸の基本知識(3)		練習器に灸の点火、自宅での練習方法			実技	古川、西野
6	灸の基本知識(4)		施灸練習			実技	古川、西野
7	評価(1)		1～6 回の評価			演習	古川、西野
8	灸実技(1)		灸の衛生操作、知熱灸、自分に施灸(脾経)			実技	古川、西野
9	灸実技(2)		自分に施灸(胃経)			実技	古川、西野
10	灸実技(3)		自分に施灸(腎経)			実技	古川、西野
11	灸実技(4)		自分に施灸(肝経)			実技	古川、西野
12	灸実技(5)		自分に施灸(胆経)			実技	古川、西野
13	灸実技(6)		自分に施灸			実技	古川、西野
14	評価(2)		8～13 回の評価			演習	古川、西野
15	感染リスクと予防		血液を介する感染症、感染経路とその予防対策			実技	古川、西野
16	灸実技(6)		自分に施灸、相手の腕に施灸			実技	古川、西野
17	灸実技(7)		相手の腕に施灸、インフォームド・コンセント、接遇			実技	古川、西野
18	灸実技(8)		相手の足に施灸、施術野の確保			実技	古川、西野
19	灸実技(9)		相手の足に施灸、患者の姿勢(胸当て、枕)			実技	古川、西野
20	灸実技(10)		相手の腰に施灸			実技	古川、西野
21	灸実技(11)		相手の背部下部に施灸			実技	古川、西野
22	評価(3)		15～21 回の評価			演習	古川、西野
23	灸実技(12)		相手の背部上部に施灸			実技	古川、西野
24	灸実技(13)		相手の頸肩に施灸			実技	古川、西野
25	灸実技(14)		相手の頭に施灸			実技	古川、西野
26	灸実技(15)		相手の腹部に施灸			実技	古川、西野

27	灸実技(16)	相手への施灸、糸状灸	実技	古川、西野		
28	灸実技(17)	隔物灸、押灸、棒灸、薬物灸	実技	古川、西野		
29	評価(4)	23～28 回の評価	演習	古川、西野		
30	総括	鍼灸実技Ⅱの総括	実技	古川、西野		
評価方法						
評価指標	定期試験	－	－	－	－	合計
評価割合(%)	100	－	－	－	－	100
教科書	有馬義貴編集 はりきゅう基礎技術学 南江堂 3,700 円＋税					
教材・参考図書	適宜紹介する。					
オフィスアワー	講義時に適宜確認すること。					
履修上の 注意点	鍼灸師(プロフェッショナル)を目指すにあたって、授業時間のみの練習だけでは十分な技術が身に付かない。授業で習った技術を自宅で反復練習する必要がある。ただし、授業で習っていないことを自分の判断で勝手に行うのは危険なので絶対に行わないこと。					
担当教員の 実務経験	古川：平成医療学園専門学校附属鍼灸接骨院（令和 2 年 4 月～令和 4 年 3 月）、福岡医療学院鍼灸院(令和 4 年 4 月～現在に至る)にて 5 年間の鍼灸治療の臨床経験を有し、安全な施灸、基礎きゅう実技に関する知識・技術を十分に有している。 西野：東西鍼灸院(平成 21 年 4 月～23 年 2 月)、福岡医療学院鍼灸院(平成 23 年 3 月～現在に至る)にて 16 年間の鍼灸治療の臨床経験を有し、安全な施灸、基礎きゅう実技に精通している。					

科目名	鍼灸実技Ⅲ				鍼灸科Ⅰ部			
学年	1 年	学期	1～2 学期		時間数	30 時間	単位数	1 単位
科目 責任者	梅井 直人			科目 担当者	梅井 直人、古川 理恵			
科目 概要	鍼灸実技を行うには、体表を手で触れてその時の状態を把握しなければならない。ただ、多くの者は体の触り方についてあまり意識したことはないであろう。しかし、触り方ひとつで患者に不快な気持ちを抱かせたり、不安感を与えることがある為、臨床能力向上の為には習得すべき技術であることは間違いない。本講義では、骨指標の触察や取穴をとおして、患者の体の触り方について学習する。							
到達 目標	体表の骨指標に不快感を与えることなく、正確に触ることができる。取穴をとおして、皮膚の状態、筋の状態を正確に把握することができる。							
回数	単元項目		授業内容			形態	担当教員	
1	はじめに、触察訓練		概要、体表の触り方、触察の訓練の仕方			実技	梅井、古川	
2	骨指標の触察(1)		肩甲骨の触察、上腕骨の触察			実技	梅井、古川	
3	骨指標の触察(2)		前腕の触察、手の触察			実技	梅井、古川	
4	評価(1)		1～3 回の評価			演習	梅井、古川	
5	骨指標の触察(3)		骨盤の触察、脊柱の触察			実技	梅井、古川	
6	骨指標の触察(4)		大腿の触察、下腿の触察			実技	梅井、古川	
7	評価(2)		2～6 回の評価			演習	梅井、古川	
8	取穴法(1)		肺経、大腸経			実技	梅井、古川	
9	取穴法(2)		胃経、脾経			実技	梅井、古川	
10	取穴法(3)		心経、小腸経			実技	梅井、古川	
11	評価(3)		8～10 回の評価			演習	梅井、古川	
12	取穴法(4)		膀胱経、腎経、心包経			実技	梅井、古川	
13	取穴法(5)		三焦経、胆経、肝経			実技	梅井、古川	
14	評価(4)		12～13 回の評価			演習	梅井、古川	
15	総括		鍼灸実技Ⅲの総括			実技	梅井、古川	
評価方法								
評価指標		定期試験	-	-	-	-	-	合計
評価割合(%)		100	-	-	-	-	-	100
教科書	公益社団法人東洋療法学校協会編 解剖学第2版 医歯薬出版株式会社 5,900 円＋税 公益社団法人東洋療法学校協会編 新版 経絡経穴概論第2版 医道の日本社 4,500 円＋税							
教材・参考図書		公益社団法人東洋療法学校協会編 新版 経絡経穴概論第2版 医道の日本社 4,500 円＋税						
オフィスアワー		講義時に適宜確認すること。						
履修上の 注意点		正確に触察を行うためには、解剖学の理解が不可欠である。授業で習った内容は必ず解剖学の教科書で復習すること。また、爪が伸びていると他の者の体表に触る際に不快な思いをさせるため、授業の際は必ず爪を切っておくこと。						
担当教員の 実務経験		梅井：東西鍼灸院(平成18年4月～平成23年2月)、福岡医療学院鍼灸院(平成23年3月～現在に至る)にて19年間の鍼灸治療の臨床経験を有し、あん摩マッサージ師資格保持者のため手技						

実技や身体の見方、触察に精通している。

古川：平成医療学園専門学校附属鍼灸接骨院（令和2年4月～令和4年3月）、福岡医療学院鍼灸院（令和4年4月～現在に至る）にて5年間の鍼灸治療の臨床経験を有し、手技実技や身体の見方、触察に関する知識・技術を十分に有している。

科目名	鍼灸実技Ⅳ				鍼灸科Ⅰ部		
学年	1 年	学期	3 学期	時間数	30 時間	単位数	1 単位
科目 責任者	西野 達也			科目 担当者	西野 達也、古川 理恵		
科目 概要	2 学期までに行われた実技を確認し、2 年次に進級する前に正確な取穴、安全な刺鍼と施灸技術を確実に身に付ける。						
到達 目標	指示された経穴を正確に取穴することができる。指示された経穴に、指示された方向と深度で刺鍼することができる。指示された経穴に、指示された方法で施灸することができる。						
回数	単元項目		授業内容			形態	担当教員
1	基礎実技		取穴法、刺鍼法、施灸法			実技	西野、古川
2	取穴(1)		手の太陰肺経、少陰心経、厥陰心包経の経穴取穴			実技	西野、古川
3	取穴(2)		手の陽明大腸経、太陽小腸経、少陽三焦経の経穴取穴			実技	西野、古川
4	取穴(3)		足の陽明胃経、太陽膀胱経、少陽胆経の経穴取穴			実技	西野、古川
5	取穴(4)		足の太陰脾経、少陰腎経、厥陰肝経の経穴取穴			実技	西野、古川
6	要穴の刺鍼と施灸(1)		手の原穴の取穴、刺鍼、施灸			実技	西野、古川
7	要穴の刺鍼と施灸(2)		足の原穴の取穴、刺鍼、施灸			実技	西野、古川
8	要穴の刺鍼と施灸(3)		手の絡穴の取穴、刺鍼、施灸			実技	西野、古川
9	要穴の刺鍼と施灸(4)		足の絡穴の取穴、刺鍼、施灸			実技	西野、古川
10	要穴の刺鍼と施灸(5)		手の郄穴の取穴、刺鍼、施灸			実技	西野、古川
11	要穴の刺鍼と施灸(6)		足の郄穴の取穴、刺鍼、施灸			実技	西野、古川
12	指定練習(1)		互いに指定した原穴・絡穴に対する取穴、刺鍼、施灸			実技	西野、古川
13	指定練習(2)		互いに指定した絡穴・郄穴に対する取穴、刺鍼、施灸			実技	西野、古川
14	評価		1～13 回の評価			演習	西野、古川
15	総括		鍼灸実技Ⅳの総括			実技	西野、古川
評価方法							
評価指標		定期試験		－	－	－	合計
評価割合(%)		100	－	－	－	－	100
教科書	公益社団法人東洋療法学校協会編 新版経絡経穴概論第 2 版 医道の日本社 4,500 円＋税						
教材・参考図書		適宜紹介する。					
オフィスアワー		講義時に適宜確認すること。					
履修上の 注意点		刺鍼と施灸の実技を行っていく前に、正確な取穴ができていなければならない。実技で使用する経穴の取穴を予習してから授業を受けること。					
担当教員の 実務経験		西野：東西鍼灸院(平成 21 年 4 月～23 年 2 月)、福岡医療学院鍼灸院(平成 23 年 3 月～現在に至る)にて 16 年間の鍼灸治療の臨床経験を有し、安全な刺鍼、施灸に精通している。 古川：平成医療学園専門学校附属鍼灸接骨院 (令和 2 年 4 月～令和 4 年 3 月)、福岡医療学院鍼灸院(令和 4 年 4 月～現在に至る)にて 5 年間の鍼灸治療の臨床経験を有し、安全な刺鍼、施灸に関する知識・技術を十分に有している。					

科目名	鍼灸実技Ⅴ				鍼灸科Ⅰ部		
学年	2 年	学期	1～2 学期	時間数	60 時間	単位数	2 単位
科目 責任者	小野 広貴			科目 担当者	小野 広貴、柿木 邦友		
科目 概要	鍼灸臨床で扱う機会の多い疾患として腰痛、腰下肢痛、膝痛、下肢痛、頸肩腕痛、肩関節痛、上肢痛などの整形外科疾患がある。本授業ではこれらの疾患について現代医学的な考え方での診察、鍼灸治療を行うために必要な知識・判断力や技術を学習する。また本授業で行う鍼灸治療では気胸や神経損傷などの重篤な医療過誤につながる可能性があるため、安全に鍼灸治療を行うためのポイントを学習する。併せて鍼灸治療を学び続けていく上で必要なる知識と技術の基礎を構築する。						
到達 目標	本授業で扱う整形外科疾患について徒手検査の方法を理解し正確に行うことができる。各疾患に対して正確かつ安全に鍼灸治療を行うことができる。医療面接及びカルテの作成を正しく行うことができる。						
回数	単元項目		授業内容		形態	担当教員	
1	低周波鍼通電療法		低周波鍼通電療法の概要とやり方		実技	小野、柿木	
2	腰痛 (1)		腰痛の概要		講義	小野、柿木	
3	腰痛 (2)		腰痛患者に対する徒手検査法		実技	小野、柿木	
4	腰痛 (3)		腰痛患者に対する鍼治療		実技	小野、柿木	
5	腰痛 (4)		腰痛患者に対する灸治療		実技	小野、柿木	
6	腰下肢痛 (1)		腰下肢痛の概要		講義	小野、柿木	
7	評価 (1)		1～6 回の評価		演習	小野、柿木	
8	腰下肢痛 (2)		腰下肢痛患者に対する徒手検査法		実技	小野、柿木	
9	腰下肢痛 3)		総腓骨神経と脛骨神経への低周波鍼通電療法		実技	小野、柿木	
10	腰下肢痛 (4)		坐骨神経への低周波鍼通電療法		実技	小野、柿木	
11	膝痛・下肢痛 (1)		膝痛・下肢痛の概要		講義	小野、柿木	
12	膝痛・下肢痛 (2)		膝痛・下肢痛患者に対する徒手検査法		実技	小野、柿木	
13	膝痛・下肢痛 (3)		膝痛・下肢痛患者に対する鍼治療		実技	小野、柿木	
14	評価 (2)		8～13 回の評価		演習	小野、柿木	
15	膝痛・下肢痛 (4)		膝痛・下肢痛患者に対する灸治療		実技	小野、柿木	
16	肩関節痛・上肢痛 (1)		肩関節痛・上肢痛の概要		講義	小野、柿木	
17	肩関節痛・上肢痛 (2)		肩関節痛・上肢痛患者に対する徒手検査法		実技	小野、柿木	
18	肩関節痛・上肢痛 (3)		肩関節痛・上肢痛患者に対する鍼治療		実技	小野、柿木	
19	肩関節痛・上肢痛 (4)		肩関節痛・上肢痛患者に対する灸治療		実技	小野、柿木	
20	頸肩腕痛 (1)		頸肩腕痛の概要		講義	小野、柿木	
21	頸肩腕痛 (2)		頸肩腕痛患者に対する徒手検査法		実技	小野、柿木	
22	評価 (3)		15～21 回の評価		演習	小野、柿木	
23	頸肩腕痛 (3)		頸肩腕痛患者に対する伏臥位での鍼治療		実技	小野、柿木	
24	頸肩腕痛 (4)		頸肩腕痛患者に対する仰臥位での鍼治療		実技	小野、柿木	
25	医療面接 (1)		医療面接の概要とやり方		実技	小野、柿木	

26	医療面接(2)	医療面接のロールプレイ				実技	小野、柿木
27	カルテ作成	カルテ作成の意義と記入上の注意、カルテ作成の実践				実技	小野、柿木
28	総合練習	医療面接から徒手検査、鍼灸治療カルテの作成まで				実技	小野、柿木
29	評価(4)	23～28 回の評価				演習	小野、柿木
30	総括	鍼灸実技Ⅴの総括				実技	小野、柿木
評価方法							
評価指標		定期試験	－	－	－	－	合計
評価割合(%)		100	－	－	－	－	100
教科書	公益社団法人東洋療法学校協会編 新版東洋医学臨床論〈はりきゅう編〉南江堂 6,700 円＋税						
教材・参考図書		有馬義貴編集 はりきゅう検査・治療学 南江堂 3,400 円＋税					
オフィスアワー		講義時に適宜確認すること。					
履修上の 注意点		本授業で学習する腰痛、膝痛などの整形外科疾患を理解するためには人体の基本的な構造の理解が不可欠である。1 年次に解剖学Ⅰで学習した骨格系、筋系、脈管系、神経系の理解が不十分な者はしっかり確認しておくこと。併せて体表解剖学と経穴の相関性についても学習するので経絡経穴概論Ⅰで学んだ取穴法についての確認も行うこと。					
担当教員の 実務経験		小野：新宿鍼灸柔整歯科衛生専門学校附属鍼灸院(平成 29 年 4 月～平成 31 年 3 月)、多賀はりきゅう整骨院(平成 31 年 4 月～令和 1 年 12 月)、テラス鍼灸整骨院院長として勤務(令和 2 年 1 月～令和 3 年 12 月)、あきもと鍼灸整骨院(令和 4 年 1 月～令和 4 年 8 月)、九州医療専門学校附属鍼灸院(令和 5 年 4 月～令和 6 年 3 月)、福岡医療学院鍼灸院(令和 6 年 4 月～現在に至る)にて 8 年間の鍼灸治療の臨床経験を有し、徒手検査法や整形外科的疾患の治療に精通している。 柿木：福岡医療学院鍼灸院(平成 23 年 4 月～現在に至る)にて 14 年間の鍼灸治療の臨床経験を有し、徒手検査法や整形外科的疾患の治療に精通している。					

科目名	鍼灸実技Ⅵ				鍼灸科Ⅰ部		
学年	2 年	学期	1～2 学期	時間数	60 時間	単位数	2 単位
科目 責任者	田畑 里美			科目 担当者	田畑 里美、小野 広貴		
科目 概要	切診(脈診、腹診、背候診など)で身体の診方を学ぶ。また、六十九難の治療法や鍼の補瀉手技を学ぶ。これらの知識から、適応疾患の判断や安全に施術を行う技術を修得し、鍼灸治療を学び続けていく上で必要なる知識と技術の基礎を構築する。						
到達 目標	六部定位脈診比較、祖脈の診方、腹部や背部の診方、触り方ができる。また患者へインフォームド・コンセントが正しくできる。六十九難の配穴が分かり、鍼の補瀉手技を考えながら治療ができる。						
回数	単元項目		授業内容		形態	担当教員	
1	鍼灸実技		刺鍼と施灸の確認、腰部		実技	田畑、小野	
2	脈診(1)、施灸練習(1)		六部定位脈診、指の当て方と按压のかけ方、施灸		実技	田畑、小野	
3	脈診(2)、施灸練習(2)		六部定位脈診、数・遅・浮・沈のイメージ、施灸		実技	田畑、小野	
4	脈診(3)、施灸練習(3)		六部定位脈診、基本四証、施灸		実技	田畑、小野	
5	脈診(4)、施灸練習(4)		六部定位脈診、患者仰臥位での診方、施灸		実技	田畑、小野	
6	脈診(5)、施灸練習(5)		六部定位脈診、脈象の記入、施灸		実技	田畑、小野	
7	評価(1)		1～6 回の評価		演習	田畑、小野	
8	腹診(1)		腹診概要		実技	田畑、小野	
9	腹診(2)		腹部刺鍼(中脘、天枢、関元)		実技	田畑、小野	
10	募穴診(1)		中府、膻中、公孫、内関		実技	田畑、小野	
11	募穴診(2)		腹診、触り方の確認		実技	田畑、小野	
12	脈診から治療まで(1)		脈診の指の当て方の確認		実技	田畑、小野	
13	脈診から治療まで(2)		募穴の取穴と刺鍼		実技	田畑、小野	
14	評価(2)		8～13 回の評価		演習	田畑、小野	
15	募穴診(3)		章門、期門、日月、巨闕、膻中、中府		実技	田畑、小野	
16	募穴診(4)、補瀉法		中脘、天枢、関元の施灸、手技・手法の補瀉		実技	田畑、小野	
17	六十九難と補瀉手技(1)		肝虚証、脾虚証、肺虚証、腎虚証の取穴		実技	田畑、小野	
18	六十九難と補瀉手技(2)		迎随の補法、大都、労宮、少衝、大敦の施灸		実技	田畑、小野	
19	六十九難と補瀉手技(3)		迎随の補法		実技	田畑、小野	
20	六十九難と補瀉手技(4)		迎随の補法、取穴と刺鍼の確認		実技	田畑、小野	
21	六十九難と補瀉手技(5)		脈診、証立て、治療		実技	田畑、小野	
22	評価(3)		14～21 回の評価		演習	田畑、小野	
23	背候診と背部腧穴(1)		陷下、膨隆、硬結、圧痛、寒熱、色、湿潤の診方		実技	田畑、小野	
24	背候診と背部腧穴(2)		膈腧、肝腧、脾腧の取穴と刺鍼(斜刺、横刺)		実技	田畑、小野	
25	背候診と背部腧穴(3)		膈腧、肝腧、脾腧(水平刺)、腎腧、大腸腧(斜刺)		実技	田畑、小野	
26	背候診と背部腧穴(4)		下方斜刺、水平刺の押手と刺手の使い方		実技	田畑、小野	

27	背候診と背部俞穴(5)	大杼～関元俞までの刺鍼	実技	田畑、小野
28	診察から治療まで	刺鍼、施灸のまとめ、診察・治療・カルテの記載	実技	田畑、小野
29	評価(4)	23～28 回の評価	演習	田畑、小野
30	総括	鍼灸実技Ⅵの総括	実技	田畑、小野
評価方法				
評価指標	定期試験	－	－	－
評価割合(%)	100	－	－	－
教科書	公益社団法人東洋療法学校協会編 新版東洋医学概論第 1 版 医道の日本社 5,200 円＋税			
教材・参考図書	経絡治療学会編纂 日本鍼灸医学基礎編増補改訂版 6,000 円＋税			
オフィスアワー	講義時に適宜確認すること。			
履修上の 注意点	東洋医学概論Ⅱで学習する内容の実技なので、概要を理解した上で、鍼灸実技Ⅵの授業を受ける。次年度の臨床実習へ向けて、患者への触れ方や声のかけ方を身につける必要がある。			
担当教員の実務経験	田畑：鍼灸整骨院勤務、日本伝統鍼灸研修センター(平成 12 年 7 月～平成 15 年 3 月)で臨床経験を積む。実業団女子ソフトボール部チームトレーナー(平成 12 年 4 月～平成 14 年 3 月)、鍼灸葉月堂開業(平成 15 年 5 月～現在に至る)にて 24 年間の鍼灸治療の臨床経験を有し、脈診や腹診を含めた経絡治療に精通している。経絡治療学会夏期大学講師、経絡治療福岡部会講師。 小野：新宿鍼灸柔整歯科衛生専門学校附属鍼灸院(平成 29 年 4 月～平成 31 年 3 月)、多賀はりきゅう整骨院(平成 31 年 4 月～令和 1 年 12 月)、テラス鍼灸整骨院院長として勤務(令和 2 年 1 月～令和 3 年 12 月)、あきもと鍼灸整骨院(令和 4 年 1 月～令和 4 年 8 月)、九州医療専門学校附属鍼灸院(令和 5 年 4 月～令和 6 年 3 月)、福岡医療学院鍼灸院(令和 6 年 4 月～現在に至る)にて 8 年間の鍼灸治療の臨床経験を有し、脈診や腹診を含めた経絡治療に精通している。			

科目名	鍼灸実技Ⅶ					鍼灸科Ⅰ部		
学年	2 年	学期	3 学期		時間数	30 時間	単位数	1 単位
科目 責任者	柿木 邦友				科目 担当者	柿木 邦友、小野 広貴		
科目 概要	1 年次及び 2 年次で学んだ実技について総合的に演習を行い、患者への医療面接や身体所見から病態把握を行い、鍼灸施術へとつなげる技術を身につけていく。また、2 年次と 3 年次に行われる患者役に対する鍼灸施術実習において必要とされる能力を培っていくための演習を行う。							
到達 目標	適切に医療面接、整形外科的徒手検査法を行うことができる。現代医学的な病態把握を行い、治療方針を組み立てることができる。症例の生活背景から問題点を見出し適切な指導を行うことができる。							
回数	単元項目		授業内容				形態	担当教員
1	総合演習(1)		鍼灸施術実習に向けた総合演習(1)				実技	柿木、小野
2	総合演習(2)		鍼灸施術実習に向けた総合演習(2)				実技	柿木、小野
3	総合演習(3)		鍼灸施術実習に向けた総合演習(3)				実技	柿木、小野
4	総合演習(4)		鍼灸施術実習に向けた総合演習(4)				実技	柿木、小野
5	総合演習(5)		評価試験に関する概要説明				実技	柿木、小野
6	総合演習(6)		運動器疾患に対する治療穴の取穴				実技	柿木、小野
7	総合演習(7)		整形外科的徒手検査法の総合演習				実技	柿木、小野
8	総合演習(8)		運動器疾患に対する鍼灸施術の総合演習(1)				実技	柿木、小野
9	総合演習(9)		運動器疾患に対する鍼灸施術の総合演習(2)				実技	柿木、小野
10	総合演習(10)		運動器疾患に対する鍼灸施術の総合演習(3)				実技	柿木、小野
11	総合演習(11)		運動器疾患に対する鍼灸施術の総合演習(4)				実技	柿木、小野
12	総合演習(12)		評価試験に向けた総合演習(1)				実技	柿木、小野
13	総合演習(13)		評価試験に向けた総合演習(2)				実技	柿木、小野
14	評価		1～13 回の評価				演習	柿木、小野
15	総合演習(14)		評価の振り返り、及び総合演習				実技	柿木、小野
評価方法								
評価指標		定期試験	－	－	－	－	－	合計
評価割合(%)		100	－	－	－	－	－	100
教科書	公益社団法人東洋療法学校協会編 新版東洋医学臨床論〈はりきゅう編〉南江堂 6,700 円＋税							
教材・参考図書		適宜紹介する。						
オフィスアワー		講義時に適宜確認すること。						
履修上の 注意点		この科目は東洋医学臨床論Ⅰ、鍼灸実技Ⅴの知識を活用して授業が行われるので、予習では関連する内容を見返して理解し直しておくこと。毎時間医療従事者としてふさわしい服装で出席すること。(清潔な白衣、白靴着用、華美な化粧をしない、装飾品は装着しないなど)						
担当教員の 実務経験		柿木：福岡医療学院鍼灸院(平成 23 年 4 月～現在に至る)にて 14 年間の鍼灸治療の臨床経験を有し、各種疾患の基本的な治療について精通している。 小野：新宿鍼灸柔整歯科衛生専門学校附属鍼灸院(平成 29 年 4 月～平成 31 年 3 月)、多賀はりきゅう整骨院(平成 31 年 4 月～令和 1 年 12 月)、テラス鍼灸整骨院院長として勤務(令和 2 年 1 月～令和 3 年 12 月)、あきもと鍼灸整骨院(令和 4 年 1 月～令和 4 年 8 月)、九州医療専門学校附属鍼灸院(令和 5 年 4 月～令和 6 年 3 月)、福岡医療学院鍼灸院(令和 6 年 4 月～現在に至る)にて 8 年間の鍼灸治療の臨床経験を有し、各種疾患の基本的な治療について精通している。						

科目名	鍼灸実技Ⅷ				鍼灸科Ⅰ部		
学年	3 年	学期	1～2 学期	時間数	60 時間	単位数	2 単位
科目 責任者	木下 圭介			科目 担当者	木下 圭介、岩倉 宏典		
科目 概要	2 年次までに学習した技術をもとに、応用力を高め臨床能力を向上させる。また鍼灸師が多く治療する症状に関する技術を獲得するとともに鍼灸師として必要な判断力や知識・技術を高める。加えて鍼灸治療を学び続けていく上で必要なる知識と技術の基礎を構築する。						
到達 目標	卒業実技審査の受験を通し、鍼灸師として必要なコミュニケーション能力や病態把握能力、治療技術能力を高める。						
回数	単元項目		授業内容		形態	担当教員	
1	総合演習(1)		脈診、補瀉手技、要穴への刺鍼施灸まとめ(1)		実技	木下、岩倉	
2	総合演習(2)		脈診、補瀉手技、要穴への刺鍼施灸まとめ(2)		実技	木下、岩倉	
3	総合演習(3)		脈診、補瀉手技、要穴への刺鍼施灸まとめ(3)		実技	木下、岩倉	
4	総合演習(4)		脈診、補瀉手技、要穴への刺鍼施灸まとめ(4)		実技	木下、岩倉	
5	総合演習(5)		脈診、補瀉手技、要穴への刺鍼施灸まとめ(5)		実技	木下、岩倉	
6	総合演習(6)		脈診、補瀉手技、要穴への刺鍼施灸まとめ(6)		実技	木下、岩倉	
7	総合演習(7)		脈診、補瀉手技、要穴への刺鍼施灸まとめ(7)		実技	木下、岩倉	
8	総合演習(8)		脈診、補瀉手技、要穴への刺鍼施灸まとめ(8)		実技	木下、岩倉	
9	総合演習(9)		患者接遇、腰下肢への刺鍼施灸(1)		実技	木下、岩倉	
10	総合演習(10)		患者接遇、腰下肢への刺鍼施灸(2)		実技	木下、岩倉	
11	総合演習(11)		患者接遇、腰下肢への刺鍼施灸(3)		実技	木下、岩倉	
12	総合演習(12)		患者接遇、腰下肢への刺鍼施灸(4)		実技	木下、岩倉	
13	総合演習(13)		患者接遇、腰下肢への刺鍼施灸(5)		実技	木下、岩倉	
14	総合演習(14)		患者接遇、腰下肢への刺鍼施灸(6)		実技	木下、岩倉	
15	総合演習(15)		患者接遇、腰下肢への刺鍼施灸(7)		実技	木下、岩倉	
16	特定部位への刺鍼(1)		大後頭神経・小後頭神経刺鍼		実技	木下、岩倉	
17	特定部位への刺鍼(2)		肩甲上神経・肩甲骨神経刺鍼		実技	木下、岩倉	
18	特定部位への刺鍼(3)		橈骨神経・正中神経・尺骨神経刺鍼		実技	木下、岩倉	
19	特定部位への刺鍼(4)		坐骨神経・陰部神経刺鍼		実技	木下、岩倉	
20	特定部位への刺鍼(5)		後仙骨孔刺鍼		実技	木下、岩倉	
21	特定部位への刺鍼(6)		総腓骨神経・脛骨神経刺鍼		実技	木下、岩倉	
22	特定部位への刺鍼(7)		特定部位への刺鍼(1)～(6) まとめ		実技	木下、岩倉	
23	女性と鍼灸(1)		産前産後の鍼灸治療、月経困難・月経異常の鍼灸治療		実技	木下、岩倉	
24	女性と鍼灸(2)		美容鍼灸、耳つぼ療法		実技	木下、岩倉	
25	各種の鍼灸治療(1)		吸角		実技	木下、岩倉	
26	各種の鍼灸治療(2)		灸頭鍼(1)		実技	木下、岩倉	

27	各種の鍼灸治療(3)	灸頭鍼(2)	実技	木下、岩倉		
28	診察から治療まで(1)	診察から治療まで行う	実技	木下、岩倉		
29	診察から治療まで(2)	刺鍼、施灸のまとめ、診察・治療のまとめ(1)	実技	木下、岩倉		
30	診察から治療まで(3)	刺鍼、施灸のまとめ、診察・治療のまとめ(2)	実技	木下、岩倉		
評価方法						
評価指標	定期試験	-	-	-	-	合計
評価割合(%)	100	-	-	-	-	100
教科書	公益社団法人東洋療法学校協会編 新版東洋医学臨床論〈はりきゅう編〉南江堂 6,700 円＋税					
教材・参考図書	適宜紹介する。					
オフィスアワー	講義時に適宜確認すること。					
履修上の 注意点	毎時間医療従事者としてふさわしい服装で出席すること。(清潔な白衣、白靴着用、華美な化粧をしない、装飾品は装着しないなど) また、正当な理由でない遅刻に関しては欠席とみなす。					
担当教員の 実務経験	木下：福岡医療学院鍼灸院(平成 23 年 4 月～平成 24 年 3 月、平成 26 年 4 月～現在に至る)にて 12 年間の鍼灸治療の臨床経験を有し、患者接遇や医療面接、鍼灸治療に精通している。 岩倉：中国伝統医学教育センター臨床部(平成 20 年 4 月～平成 21 年 5 月)、 かいてきや鍼灸治療院(平成 21 年 10 月～平成 23 年 2 月)、医療法人社団深江医院 (平成 23 年 5 月～平成 25 年 3 月)、国際東洋医療学院附属鍼灸整骨院(平成 27 年 3 月～平成 30 年 3 月)、福岡医療学院鍼灸院(令和 2 年 9 月～現在に至る)にて 17 年間の鍼灸治療の臨床経験を有し、患者接遇や医療面接、鍼灸治療に精通している。					

科目名	鍼灸実技Ⅸ				鍼灸科Ⅰ部		
学年	3 年	学期	1～2 学期	時間数	60 時間	単位数	2 単位
科目 責任者	小早川 静泰			科目 担当者	小早川 静泰、實松 沙織、田畑 里美、 木下 圭介		
科目 概要	臨床では、小児から高齢者まで様々な年齢層の患者が、様々な愁訴を訴える。この科目では、特に痛みの症状や運動器疾患以外の症状を中心に適応疾患の判断、診察のポイント、病態、安全な鍼灸治療について学ぶ。また、遠隔治療のやり方、鍼灸の手技によって症状の変化を確認しその応用を学ぶ。さらに、2 年次に学んだ脈診、腹診をもとに経絡治療を中心とした診察と証立て、治療を行う。これらの知識から治療の幅を広げ、適応疾患の判断や安全に施術する技術を修得する。						
到達 目標	患者が訴える症状や診察から、病態を把握し、適切な鍼灸治療を構築できる。十分なインフォームド・コンセントのもとに、証の確定と安全な治療を行える。						
回数	単元項目		授業内容		形態	担当教員	
1	切経		前腕、下腿の経脈の圧痛反応を確認して証立て、要穴を用いての治療		実技	小早川、實松	
2	腹診と背候診		腹部と背部の刺鍼と施灸		実技	小早川、實松	
3	補瀉手技(1)		捻転提挿補瀉手技（李世珍の補瀉手技）		実技	小早川、實松	
4	補瀉手技(2)		捻転補瀉の応用（陰陽それぞれの働きを促す手技）		実技	小早川、實松	
5	奇経治療(1)		奇経の診察方法と八脈交会穴の使い方		実技	小早川、實松	
6	奇経治療(2)		上下配穴法の応用（正経の要穴の利用）		実技	小早川、實松	
7	遠隔治療(1)		同側上肢下肢の刺鍼による痛みの取り方 腰臀部の痛みを頭頸部の刺鍼で取る方法		実技	小早川、實松	
8	遠隔治療(2)		足の圧痛穴の刺鍼で肩こり腰痛を取る方法		実技	小早川、實松	
9	遠隔治療(3)		内臓の症状に足の反応穴へ陰陽の捻転手技の応用		実技	小早川、實松	
10	遠隔治療(4)		肩関節、股関節周りの痛みを同側の耳周りの刺鍼で取る方法		実技	小早川、實松	
11	温灸療法		温灸により腫れや炎症の取り方		実技	小早川、實松	
12	拔罐療法		拔罐療法の効能、注意事項、吸引法		実技	小早川、實松	
13	脈診		六部定位比較脈診（五臓の陰陽変化の捉え方）		実技	小早川、實松	
14	実践治療（1）		弁証論治		実技	小早川、實松	
15	実践治療（2）		弁証論治		実技	小早川、實松	
16	頭皮鍼		朱氏頭皮鍼		実技	實松、木下	
17	醒腦開竅法		脳卒中に対する鍼灸治療		実技	實松、木下	
18	女性と鍼灸(1)		産前産後の鍼灸治療、月経困難・月経異常の鍼灸治療		実技	實松、木下	
19	女性と鍼灸(2)		美容鍼灸		実技	實松、木下	
20	知熱感度測定法 井穴治療		赤羽(幸兵衛)氏法の紹介、測定結果をもとに背部俞穴に皮内鍼を保定、瀉法鍼		実技	田畑、木下	
21	頭痛(1)		頭痛の本治法、標治法		実技	田畑、木下	
22	頭痛(2)		肝腎陰虚、少陽経の熱と陽明経の熱の症例		実技	田畑、木下	
23	肩背部の刺鍼(1)		標治法、浅刺鍼、本治法の補助穴		実技	田畑、木下	

24	肩背部の刺鍼(2)	触診、押手、刺手、深さ、方向の確認				実技	田畑、木下
25	パニック症	パニック症の鍼灸治療（本治法、標治法）				実技	田畑、木下
26	脈診の確認(1)	比較脈診、祖脈診				実技	田畑、木下
27	脈診の確認(2)	脈診時の注意事項				実技	田畑、木下
28	顔面神経麻痺 手足の要穴	顔面神経麻痺の症例、本治法、標治法 十二経絡経穴の臨床的使い方の実際				実技	田畑、木下
29	実践治療(1)	(望聞問切)診断～証立て～治療～カルテ作成まで				実技	田畑、木下
30	実践治療(2)	(望聞問切)診断～証立て～治療～カルテ作成まで				実技	田畑、木下
評価方法							
評価指標		定期試験	－	－	－	－	合計
評価割合(%)		100	－	－	－	－	100
教科書	公益社団法人東洋療法学校協会編 新版東洋医学臨床論〈はりきゅう編〉南江堂 6,700 円＋税						
教材・参考図書		公益社団法人東洋療法学校協会編 新版経絡経穴概論第 1 版 医道の日本社 4,500 円＋税					
オフィスアワー		講義時に適宜確認すること。					
履修上の 注意点		疾患ごとに問診、観察、治療のポイントが異なるので、事前説明をよく聞いて理解し、覚えておくこと。気胸など重篤な障害を引き起こす可能性があるため、授業の前日は睡眠を充分に取り、当日は朝食も摂った上で、集中して授業に臨むこと。遅刻や白衣忘れなどは入室を認めない。					
担当教員の 実務経験		小早川：平川マッサージ院(平成 5 年 4 月～平成 6 年 5 月)、回生堂戸頭鍼療室院長(平成 9 年 4 月～平成 10 年 3 月)、鍼灸小早川治療院院長(平成 10 年 5 月～現在に至る)、東西鍼灸院(平成 12 年 1 月～平成 23 年 2 月)、福岡医療学院鍼灸院(平成 23 年 3 月～令和 6 年 3 月)にて 27 年間の鍼灸治療の臨床経験を有し、神経系や内科系、婦人科系疾患等の鍼灸治療に精通している。 田畑：健康堂鍼灸整骨院(平成 13 年 4 月～平成 15 年 3 月)、鍼灸葉月堂開業(平成 15 年 5 月～現在に至る)にて 24 年間の鍼灸治療の臨床経験を有し、舌診や脈診等からの弁証法や補瀉法を含めた経絡治療に精通している。 實松：東西鍼灸院(平成 18 年 4 月～平成 22 年 3 月)、福岡医療学院鍼灸院(平成 24 年 4 月～現在に至る)にて 19 年間の鍼灸治療の臨床経験を有し、神経系や内科系、婦人科系疾患等の鍼灸治療に精通している。 小野：新宿鍼灸柔整歯科衛生専門学校附属鍼灸院(平成 29 年 4 月～平成 31 年 3 月)、多賀はりきゅう整骨院(平成 31 年 4 月～令和 1 年 12 月)、テラス鍼灸整骨院院長として勤務(令和 2 年 1 月～令和 3 年 12 月)、あきもと鍼灸整骨院(令和 4 年 1 月～令和 4 年 8 月)、九州医療専門学校附属鍼灸院(令和 5 年 4 月～令和 6 年 3 月)、福岡医療学院鍼灸院（令和 6 年 4 月～現在に至る）にて 8 年間の鍼灸治療の臨床経験を有し、舌診や脈診等からの弁証法や補瀉法を含めた経絡治療に関する知識・技術を十分に有している。					

科目名	臨床実習 I					鍼灸科 I 部	
学年	1 年	学期	2～3 学期	時間数	45 時間	単位数	1 単位
科目 責任者	古川 理恵			科目 担当者	古川 理恵、西野 達也		
科目 概要	患者への施術において、信頼関係を構築できるコミュニケーション能力及び接遇法が重要となる。この科目では医療面接の手法、実際の鍼灸治療の流れについて学習し、模擬患者に対する安全な施術を行うために必要な知識、技術を身につける。また、実際の臨床施設の一連の流れを見学し、各専門職種の役割やチーム医療の重要性について学習する。						
到達 目標	患者に対する医療面接及び接遇法を理解し実践できる。 施設スタッフに対して、適切な挨拶・言葉遣い・気遣いができる。 2 年生の施術実習の患者役、見学を通して適切な施術について理解し説明することができる。 多職種連携の実際ついて理解し説明することができる。						
回数	単元項目		授業内容			形態	担当教員
	臨床実習 I		・オリエンテーション 実習の概要説明 ・ロールプレイ 医療面接実習 ・福岡医療学院整骨院・鍼灸院実習 福岡医療学院整骨院・鍼灸院内での実習 ・学外実習報告会参加 2 年生の学外実習報告会参加 ・施術実習患者役※ 2 年生の施術実習の患者役、見学 ・スポーツトレーナーの役割と実践 鍼灸師・柔道整復師・理学療法士と連携し、それぞれが得意とする分野の違いを知り、鍼灸師も身につけるべき技術を理解する。 ・美容メディカルの役割と実際 鍼灸師・看護師・歯科衛生士と連携し、美容メディカルの実際を知り、それぞれの役割を理解する。鍼灸師としてどのような連携が必要か考える。			実習	古川 西野
評価方法							
評価指標		実習状況	レポート	－	－	－	合計
評価割合 (%)		70	30	－	－	－	100
教科書	公益社団法人東洋療法学校協会編 臨床医学総論第 2 版 医歯薬出版株式会社 4,500 円＋税						
教材・参考図書		適宜紹介する。					
オフィスアワー		講義時に適宜確認すること。					
履修上の 注意点		臨床現場にふさわしい身だしなみ(清潔な髪形、頭髪の着色やひげ・装飾品は不可、学校指定の白衣の着用、靴・靴下は白色無地のものを着用)でない者は欠席扱いとするので注意すること。 上記「※」にある施術実習患者役は正規の時間外に実施される。事前にスケジュールを伝達するので、必ず参加できるように時間の調整をすること。 なお、実習の内容は補習で補足する。					

科目名	臨床実習Ⅱ				鍼灸科Ⅰ部			
学年	2 年	学期	1～2 学期		時間数	45 時間	単位数	1 単位
科目 責任者	柿木 邦友			科目 担当者	柿木 邦友、小野 広貴			
科目 概要	学生は鍼灸接骨院での施術を受けた経験はあるものの、職場としての治療院の現状を知らない状態である。本科目では学校での学びが実際の臨床の場でどのように活かすことができるかを見学する。また、実際に現場のスタッフに接することで、医療従事者として必要となるコミュニケーション能力や適応能力を身に付けさせる。さらに現場の治療家の意見を取り入れることで、今後現場で必要とされる医療従事者像を学生自身がイメージできる能力を身につける。							
到達 目標	有資格者の施術の見学を行い、医療従事者としての職業観について考察することができる。 患者の施術室への誘導・見送りを適切に行うことができる。 実習に係る実習指導者、従業員と適切なコミュニケーションをとることができる。							
回数	単元項目		授業内容				形態	担当教員
	臨床実習Ⅱ		・オリエンテーション 実習の概要説明・事前準備 ・鍼灸接骨院実習(各実習施設)※ 各実習施設にて3日間の実習を行う。 ・報告会 本科目で学んだ内容の発表 ・施術実習※ 1年生に対する施術実習、補助、受付				実習	柿木 小野
評価方法								
評価指標		実習状況	レポート	発表	－	－	－	合計
評価割合(%)		60	20	20	－	－	－	100
教科書	公益社団法人東洋療法学校協会編 臨床医学総論第2版 医歯薬出版株式会社 4,500 円＋税							
教材・参考図書		適宜紹介する。						
オフィスアワー		講義時に適宜確認すること。						
履修上の 注意点		臨床現場にふさわしい身だしなみ(清潔な髪形、頭髪の着色やひげ・装飾品は不可、学校指定の白衣の着用、靴・靴下は白色無地のものを着用)でない者は欠席扱いとするので注意すること。 上記「※」にある鍼灸院実習(各実習施設)は終日、施術実習は午後を実施される。事前にスケジュールを伝達するので、必ず参加できるように時間の調整をつけること。						

科目名	臨床実習Ⅲ					鍼灸科Ⅰ部		
学年	3 年	学期	1 学期	時間数	45 時間	単位数	1 単位	
科目 責任者	木下 圭介			科目 担当者	木下 圭介、岩倉 宏典			
科目 概要	この科目では、今まで学んだ全ての知識・技術を実際の臨床においてどのように安全に活用できるかを実践し習得する。模擬患者に対し、現代医学と東洋医学の双方の観点から病態把握を行い、治療計画を立てる手法と実践を学ぶ。							
到達 目標	患者に対する接遇法を理解し実践できる。鍼灸適応疾患全般において、現代医学と東洋医学の双方の観点から、患者に対する医療面接や検査法を理解し実践できる。鍼灸適応疾患全般において安全かつ効果的な鍼灸治療計画を立て実践できる。							
回数	単元項目		授業内容				形態	担当教員
	臨床実習Ⅲ		・ 学内臨床実習事前演習 概要説明、医療面接、身体所見、鍼灸施術 ・ ロールプレイ 模擬患者に対する鍼灸施術実習の練習 ・ 学内臨床実習※ 実習室での患者に対する鍼灸施術実習 ・ オリエンテーション 学外実習の概要説明				実習	木下 岩倉
評価方法								
評価指標		鍼灸施術	リポート	-	-	-	-	合計
評価割合 (%)		60	40	-	-	-	-	100
教科書	公益社団法人東洋療法学校協会編 新版東洋医学臨床論〈はりきゅう編〉南江堂 6,700 円＋税							
教材・参考図書		有馬義貴編集 はりきゅう検査・治療学 南江堂 3,400 円＋税 鍼灸安全対策マニュアル 医歯薬出版 3,873 円＋税						
オフィスアワー		講義時に適宜確認すること。						
履修上の 注意点		臨床現場にふさわしい身だしなみ(清潔な髪形、頭髪の着色やひげ・装飾品は不可、学校指定の白衣の着用、靴・靴下は白色無地のものを着用)でない者は欠席扱いとするので注意すること。 上記「※」にある鍼灸施術実習は正規の時間外に実施される。事前にスケジュールを伝達するので、必ず参加できるように時間の調整をつけること。						

科目名	臨床実習Ⅳ				鍼灸科Ⅰ部		
学年	3 年	学期	1 学期	時間数	45 時間	単位数	1 単位
科目 責任者	木下 圭介			科目 担当者	木下 圭介、岩倉 宏典		
科目 概要	学生は鍼灸接骨院での治療を受けた経験はあるものの、職場としての治療院の現状を知らない状態である。本科目では学校での学びが実際の臨床の場でどのように活かすことができるかを体験する。また、実際に患者や現場のスタッフに接することで、医療従事者として必要となるコミュニケーション能力や適応能力を身に付けさせる。さらに現場の治療家の意見を取り入れることで、今後現場で必要とされる鍼灸師像を学生自身が明確にイメージできる能力を身につける。						
到達 目標	有資格者の施術の見学・補助を行い、医療従事者としての職業観を確立する。 患者の施術室への誘導・見送りを適切に行うことができる。 実習に係る患者、実習指導者、従業員と適切なコミュニケーションをとることができる。						
回数	単元項目		授業内容			形態	担当教員
	臨床実習Ⅳ		・オリエンテーション 実習の概要説明 ・鍼灸接骨院実習(各実習施設)※ 各実習施設にて6日間の実習を行う。			実習	木下 岩倉
評価方法							
評価指標		実習状況	リポート	-	-	-	合計
評価割合(%)		60	40	-	-	-	100
教科書	公益社団法人東洋療法学校協会編 臨床医学総論第2版 医歯薬出版株式会社 4,500 円＋税						
教材・参考図書		適宜紹介する。					
オフィスアワー		講義時に適宜確認すること。					
履修上の 注意点		臨床現場にふさわしい身だしなみ(清潔な髪形、頭髪の着色やひげ・装飾品は不可、学校指定の白衣の着用、靴・靴下は白色無地のものを着用)でない者は欠席扱いとするので注意すること。 上記「※」にある鍼灸接骨院実習(各実習施設)は終日で実施される。事前にスケジュールを伝達するので、必ず参加できるように時間の調整をつけること。					

科目名	総合領域				鍼灸科Ⅰ部			
学年	3 年	学期	1～3 学期	時間数	300 時間	単位数	10 単位	
科目 責任者	谷口 邦久			科目 担当者	谷口 邦久、長門 俊一、加藤 健一、 梅井 直人、柿木 邦友、木下 圭介、 大塚 和宏、小野 広貴、西野 達也、 實松 沙織、岩倉 宏典、滝沢 哲也			
科目 概要	2 年次までにおいて履修した解剖学、生理学、病理学、臨床医学総論、臨床医学各論、衛生学・公衆衛生学、リハビリテーション医学、鍼灸理論、東洋医学概論、経絡経穴概論、東洋医学臨床論を総合的に学習し、鍼灸師に必要な西洋医学的専門知識と東洋医学的専門知識を習得する。これらの学習により、生涯を通じて地域や広く社会の期待に応えることが出来る能力を養う。 この科目は以下の分野から構成される。 総合領域〈解剖〉：解剖学を中心とした内容 総合領域〈生理〉：生理学を中心とした内容 総合領域〈病理〉：病理学を中心とした内容 総合領域〈臨総〉：臨床医学総論を中心とした内容 総合領域〈臨各〉：臨床医学各論を中心とした内容 総合領域〈衛生〉：衛生学・公衆衛生学を中心とした内容 総合領域〈リハ〉：リハビリテーション医学を中心とした内容 総合領域〈法規〉：関係法規を中心とした内容 総合領域〈はき理〉：鍼灸理論を中心とした内容 総合領域〈東概〉：東洋医学概論を中心とした内容 総合領域〈経穴〉：経絡経穴学を中心とした内容 総合領域〈東臨〉：東洋医学臨床論を中心とした内容 詳細は次頁以降に記載する。							
到達 目標	人体において、解剖と生理、生理と病理と臨床医学各論などは同時に存在する現象である。東洋医学も同様であり、人体に現れた状態を総合的に理解し自分なりに理解し、自分の言葉で説明できる。また、他の医療従事者と連携して、社会に貢献できることを目標とする。							
評価方法								
評価指標	定期試験	－	－	－	－	－	合計	
評価割合 (%)	100	－	－	－	－	－	100	
教科書	次頁以降の各分野の頁に記載する。							
教材・参考図書	各分野においてそれぞれ紹介する。							
オフィスアワー	各分野担当者が設定する。							
履修上の 注意点	各分野において進度が異なるので各自で確認すること。 講義前に 2 年次までに学習した内容を復習しておくこと。							

科目名	総合領域<解剖>				鍼灸科Ⅰ部		
学年	3 年	学期	3 学期	時間数	6 時間 (全 300 時間)	単位数	—
科目 責任者	谷口 邦久			科目 担当者	長門 俊一		
科目 概要	1 年次において履修した解剖学Ⅰ、Ⅱと3年次に履修した解剖学Ⅲをもとに、人体の構造を総括的に学習する。また、学習内容が実際の鍼灸臨床の場面において、安全に刺鍼・施灸ができる臨床能力の向上を図る。						
回数	単元項目		授業内容			形態	担当教員
1	解剖総合(1)		解剖学一般、骨格系、筋系			講義	長門
2	解剖総合(2)		内臓系、脈管系			講義	長門
3	解剖総合(3)		神経系、感覚器系			講義	長門
教科書	公益社団法人東洋療法学校協会編 解剖学第2版 医歯薬出版株式会社 5,900 円＋税						
教材・参考図書		適宜紹介する。					
オフィスアワー		講義時に適宜確認すること。					
履修上の 注意点		解剖学で学ぶ知識は膨大な量がある。よって、確実に身につけていくためには予習・復習が欠かせない。最低限、各1時間の予習・復習を徹底して行っておくこと。また、授業における板書では図を多用するので、色分けができるよう、ノートと蛍光ペン、もしくは色鉛筆を必ず準備すること。本科目は、国家試験を想定し出題基準に沿った総合的学習を行う。					

科目名	総合領域<生理>				鍼灸科Ⅰ部		
学年	3 年	学期	3 学期	時間数	6 時間 (全 300 時間)	単位数	—
科目 責任者	谷口 邦久			科目 担当者	加藤 健一		
科目 概要	学習内容が実際の鍼灸臨床の場面において、病態の変化や疾病の回復促進にどのような影響を及ぼすかを理解し、臨床能力の向上を図る。						
回数	単元項目		授業内容			形態	担当教員
1	生理総合(1)		生理学の基礎、循環、呼吸、消化と吸収			講義	加藤
2	生理総合(2)		代謝、体温、排泄、内分泌			講義	加藤
3	生理総合(3)		生殖と成長、神経、筋肉、感覚			講義	加藤
教科書	公益社団法人東洋療法学校協会編 生理学第 3 版 医歯薬出版株式会社 4,800 円＋税						
教材・参考図書		全国柔道整復学校協会監修 生理学第 3 版 南江堂 6,600 円＋税					
オフィスアワー		講義時に適宜確認すること。					
履修上の 注意点		この講義では 1 年次で学習した内容を回想し、新しい知識を付け加えながら理解していくと効率が良い。また、この講義内容の理解は、他の科目の学習もスムーズになるので、十分に学習すること。					

科目名	総合領域<病理>				鍼灸科Ⅰ部		
学年	3 年	学期	1～3 学期	時間数	36 時間 (全 300 時間)	単位数	—
科目 責任者	谷口 邦久			科目 担当者	谷口 邦久		
科目 概要	2 年次において履修した病理学概論をもとに、総合的なまとめを行い、理解を深める。また、学習内容が実際の鍼灸臨床の場面において、疾病構造の変化や回復促進にどのような影響を及ぼすかを理解し、臨床能力の向上を図る。						
回数	単元項目		授業内容			形態	担当教員
1	病理総合(1)		疾病の基本			講義	谷口
2	病理総合(2)		病因(1)			講義	谷口
3	病理総合(3)		病因(2)			講義	谷口
4	病理総合(4)		病因(3)			講義	谷口
5	病理総合(5)		循環障害(1)			講義	谷口
6	病理総合(6)		循環障害(2)			講義	谷口
7	病理総合(7)		退行性変性(1)			講義	谷口
8	病理総合(8)		退行性変性(2)			講義	谷口
9	病理総合(9)		進行性病変(1)			講義	谷口
10	病理総合(10)		進行性病変(2)			講義	谷口
11	病理総合(11)		炎症(1)			講義	谷口
12	病理総合(12)		炎症(2)			講義	谷口
13	病理総合(13)		炎症(3)			講義	谷口
14	病理総合(14)		腫瘍(1)			講義	谷口
15	病理総合(15)		腫瘍(2)			講義	谷口
16	病理総合(16)		腫瘍(3)			講義	谷口
17	病理総合(17)		免疫異常・アレルギー			講義	谷口
18	病理総合(19)		先天性異常			講義	谷口
教科書	公益社団法人東洋療法学校協会編 病理学第 2 版 医歯薬出版株式会社 3,100 円＋税						
教材・参考図書		適宜紹介する。					
オフィスアワー		講義時に適宜確認すること。					
履修上の 注意点		講義前に病理学概論の内容を学習しておくこと。					

科目名	総合領域<臨総>				鍼灸科Ⅰ部		
学年	3 年	学期	1～3 学期	時間数	36 時間 (全 300 時間)	単位数	—
科目 責任者	谷口 邦久			科目 担当者	梅井 直人		
科目 概要	本講義では 2 年次に学習した臨床医学総論について、学習内容が実際の鍼灸臨床にどのように関わっているか学ぶことで臨床能力の向上を図る。						
回数	単元項目		授業内容			形態	担当教員
1	診察の概要		診察の概要			講義	梅井
2	生命徴候の診察(1)		体温、脈拍			講義	梅井
3	生命徴候の診察(2)		血圧、呼吸			講義	梅井
4	全身の診察(1)		顔貌、体型、姿勢、歩行			講義	梅井
5	全身の診察(2)		意識、言語、皮膚の色調、発疹			講義	梅井
6	局所の診察(1)		頭部、顔面部			講義	梅井
7	局所の診察(2)		体幹、四肢			講義	梅井
8	神経系の診察(1)		感覚検査			講義	梅井
9	神経系の診察(2)		反射検査			講義	梅井
10	神経系の診察(3)		脳神経の検査			講義	梅井
11	運動機能検査(1)		筋の検査			講義	梅井
12	運動機能検査(2)		錐体路障害			講義	梅井
13	運動機能検査(3)		錐体外路障害、徒手検査			講義	梅井
14	その他の診察		救急救命、小児・高齢者の診察			講義	梅井
15	臨床検査法(1)		尿検査、便検査、血液検査、血液生化学検査			講義	梅井
16	おもな症状の診察法(1)		動悸、貧血、浮腫			講義	梅井
17	おもな症状の診察法(2)		ショック、出血傾向、吐血、咯血			講義	梅井
18	治療学		様々な治療法			講義	梅井
教科書	公益社団法人東洋療法学校協会編 臨床医学総論第 2 版 医歯薬出版株式会社 4,500 円＋税						
教材・参考図書		適宜紹介する。					
オフィスアワー		講義時に適宜確認すること。					
履修上の 注意点		臨床医学総論の理解を深めるためには、基礎となる解剖学、生理学、病理学の理解が不可欠である。他の教科とのつながりを意識しながら予習、復習に努める。					

科目名	総合領域<臨各>				鍼灸科Ⅰ部		
学年	3 年	学期	2～3 学期	時間数	30 時間 (全 300 時間)	単位数	—
科目 責任者	谷口 邦久			科目 担当者	柿木 邦友		
科目 概要	2 年次において履修した臨床医学各論Ⅰと 3 年次に履修した臨床医学各論Ⅱをもとに、患者を包括的に観察できる能力を養う。また、学習内容が実際の鍼灸臨床の場面において、疾病の特長や変化・予後にどのような影響を及ぼすかを理解し、臨床能力の向上を図る。						
回数	単元項目		授業内容			形態	担当教員
1	臨各総合(1)		感染症総合			講義	柿木
2	臨各総合(2)		循環器疾患総合			講義	柿木
3	臨各総合(3)		肝・胆・膵疾患総合			講義	柿木
4	臨各総合(4)		呼吸器疾患総合			講義	柿木
5	臨各総合(5)		腎・尿器疾患総合			講義	柿木
6	臨各総合(6)		内分泌疾患総合			講義	柿木
7	臨各総合(7)		代謝・栄養疾患総合			講義	柿木
8	臨各総合(8)		整形外科疾患総合(1)			講義	柿木
9	臨各総合(9)		整形外科疾患総合(2)			講義	柿木
10	臨各総合(10)		循環器疾患総合			講義	柿木
11	臨各総合(11)		血液・造血器疾患総合			講義	柿木
12	臨各総合(12)		神経疾患総合(1)			講義	柿木
13	臨各総合(13)		神経疾患総合(2)			講義	柿木
14	臨各総合(14)		リウマチ性疾患・膠原病総合			講義	柿木
15	臨各総合(15)		その他の領域総合			講義	柿木
教科書	公益社団法人東洋療法学校協会編 臨床医学各論第 2 版 医歯薬出版株式会社 5,500 円＋税						
教材・参考図書		適宜紹介する。					
オフィスアワー		講義時に適宜確認すること。					
履修上の 注意点		講義前に 2 年次に履修した臨床医学各論Ⅰ、3 年次に履修した臨床医学各論Ⅱの内容を復習しておくこと。また、患者の症状は教科書どおりではないことにも注意し、包括的に患者を観察し、疾病を想定する能力が必要となることを理解しておくこと。					

科目名	総合領域<衛生>				鍼灸科Ⅰ部			
学年	3 年	学期	2・3 学期		時間数	21 時間 (全 300 時間)	単位数	—
科目 責任者	谷口 邦久			科目 担当者	木下 圭介			
科目 概要	学習内容が実際の鍼灸臨床の場面において、多職種連携を図るための基礎知識や環境衛生の動向に対する影響を理解し、臨床能力の向上を図る。							
回数	単元項目		授業内容				形態	担当教員
1	健康管理		健康管理、健康増進、衛生行政、医療制度と医療保障				講義	木下
2	食品と栄養、環境と健康 (1)		食中毒、日常生活環境				講義	木下
3	環境と健康(2)、産業保健		環境問題、労働環境と健康、労働災害、業務上疾病				講義	木下
4	精神保健、母子保健		精神障害の現状と分類、母体の健康、乳幼児の健康				講義	木下
5	成人保健		生活習慣の特徴と対策、高齢者の保健福祉対策、介護保険				講義	木下
6	感染症とその対策(1)		感染症の意義、感染症の種類				講義	木下
7	感染症とその対策(2)		感染予防、免疫				講義	木下
8	消毒法		消毒の種類、医療廃棄物				講義	木下
9	疫学、保健統計		疫学の段階と実例、主な保健統計と指標				講義	木下
10	衛生総合(1)		衛生・公衆衛生学の意義、健康の保持増進と疾病予防 ライフスタイルと健康、環境と健康、産業保健、精神保健				講義	木下
11	衛生総合(2)		母子保健、成人・高齢者保健、感染症対策、消毒法 疫学、保健統計				講義	木下
教科書	公益社団法人東洋療法学校協会編 衛生学・公衆衛生学第2版 医歯薬出版株式会社 4,500 円＋税							
教材・参考図書		適宜紹介する。						
オフィスアワー		講義時に適宜確認すること。						
履修上の 注意点		① 講義形式は板書を中心とするので、必ずノートを持参すること。 ② 効果的に知識を修得するために、授業後の学習は欠かさず行うこと。						

科目名	総合領域<リハ>				鍼灸科Ⅰ部		
学年	3 年	学期	1～3 学期	時間数	42 時間 (全 300 時間)	単位数	—
科目 責任者	谷口 邦久			科目 担当者	田中 和範		
科目 概要	学習内容が実際の鍼灸臨床の場面において、多職種連携を図るための基礎知識や回復の促進を理解し、臨床能力の向上を図る。						
回数	単元項目		授業内容			形態	担当教員
1	総説 (1)		リハビリテーション医学と障害			講義	田中
2	総説 (2)		障害の評価 心身機能・身体構造の評価			講義	田中
3	総説 (3)		活動・参加・合併症・運動麻痺・心理の評価			講義	田中
4	総説 (4)		摂食・嚥下障害の評価 医学的リハビリテーション			講義	田中
5	総説 (5)		作業療法 言語療法 装具療法と義肢			講義	田中
6	総説 (6)		リハビリテーション看護 摂食嚥下障害			講義	田中
7	疾患別リハ(1)		脳卒中			講義	田中
8	疾患別リハ(2)		脊髄損傷 切断			講義	田中
9	疾患別リハ(3)		小児			講義	田中
10	疾患別リハ(4)		骨関節疾患(1)			講義	田中
11	疾患別リハ(5)		骨関節疾患(2)			講義	田中
12	疾患別リハ(6)		パーキンソン病 呼吸器疾患 心疾患			講義	田中
13	運動のしくみ(1)		運動学の基礎			講義	田中
14	運動のしくみ(2)		身体各部の機能 体幹 肩 上肢			講義	田中
15	運動のしくみ(3)		身体各部の機能 股関節 下肢 歩行			講義	田中
16	リハ総合(1)		リハビリテーション概論			講義	田中
17	リハ総合(2)		医学的リハビリテーションの概要			講義	田中
18	リハ総合(3)		障害の評価			講義	田中
19	リハ総合(4)		リハビリテーション治療			講義	田中
20	リハ総合(5)		運動学			講義	田中
21	リハ総合(6)		リハビリテーション治療各論			講義	田中
教科書	公益社団法人東洋療法学校協会編 新版リハビリテーション医学 文光堂株式会社 4,900 円＋税						
教材・参考図書		適宜紹介する。					
オフィスアワー		講義時に適宜確認すること。					
履修上の 注意点		① 講義形式は板書を中心とするので、必ずノートを持参すること。 ② 効果的に知識を修得するために、授業後の学習は欠かさず行うこと。					

科目名	総合領域<法規>				鍼灸科Ⅰ部		
学年	3 年	学期	3 学期	時間数	10 時間 (全 300 時間)	単位数	—
科目 責任者	滝沢 哲也			科目 担当者	滝沢 哲也		
科目 概要	1 年次において履修した関係法規Ⅰと3年次に履修した関係法規Ⅱをもとに、医療業界に関する関係法規を総括的に学習する。卒業後、社会で鍼灸施術を適切かつ安全にできる上で、必要な社会規範の習得を図る。						
回数	単元項目		授業内容			形態	担当教員
1	関係法規(1)		あはき法、免許に関する事項、施術に関する事項			講義	滝沢
2	関係法規(2)		医療関係法規			講義	滝沢
3	関係法規(3)		社会保険関係法規、社会福祉関係法規			講義	滝沢
教科書	公益社団法人東洋療法学校協会編 解剖学第2版 医歯薬出版株式会社 5,900 円＋税						
教材・参考図書		適宜紹介する。					
オフィスアワー		講義時に適宜確認すること。					
履修上の 注意点		授業では、指定の教科書を毎回用いるので、必ず持参する必要がある。本科目は、国家試験を想定し出題基準に沿った総合的学習を行う。					

科目名	総合領域<はき理>				鍼灸科Ⅰ部		
学年	3 年	学期	3 学期	時間数	6 時間 (全 300 時間)	単位数	—
科目 責任者	谷口 邦久			科目 担当者	古川 理恵		
科目 概要	3 年次までに履修した鍼灸理論Ⅰ、鍼灸理論Ⅱを基に、鍼灸の科学的治効理論や適応疾患の判断、鍼灸師として学び続ける基礎を構築し、臨床能力の向上を図る。						
回数	単元項目		授業内容			形態	担当教員
1	鍼の基礎知識		用具、古代九鍼			講義	古川
2	灸の基礎知識		灸の材料、線香、灸術の種類			講義	古川
3	鍼灸治効機序		鍼鎮痛、循環系と鍼灸、運動系と鍼灸、消化器系と鍼 泌尿器系と鍼、リラクゼーションと鍼灸、生体防御系と 鍼灸			講義	古川
教科書	公益社団法人東洋療法学校協会編 はりきゅう理論第3 版 医道の日本社 3,200 円＋税						
教材・参考図書		適宜紹介する。					
オフィスアワー		講義時に適宜確認すること。					
履修上の 注意点		講義前に教科書や2 年次に板書したノートを確認すること。					

科目名	総合領域<東概>				鍼灸科Ⅰ部		
学年	3 年	学期	1～3 学期	時間数	66 時間 (全 300 時間)	単位数	—
科目 責任者	谷口 邦久			科目 担当者	實松 沙織		
科目 概要	1 年次、2 年次において履修した東洋医学概論をもとに、総合的に学習し、理解を深める。また、実際の鍼灸臨床の場面において、応用できる東洋医学の概念や診断方法を深く学び、鍼灸師として学び続ける基盤を構築し、臨床能力の向上を図る。						
回数	単元項目		授業内容			形態	担当教員
1	色体表(1)		五気、五能、五味、五官、五志、五主、五華			講義	實松
2	色体表(2)		五神、五役、五液、五臭、五勞			講義	實松
3	色体表(3)		五声、五音、五病、五有余、五不足、五変			講義	實松
4	色体表(4)、五臓六腑		五脈、五行の性質、〇〇の官、〇〇これより出づ			講義	實松
5	経脈の病証(1)		是動病と所生病、手太陰肺経、手陽明大腸経 足陽明胃経、足太陰脾経、手少陰心経			講義	實松
6	経脈の病証(2)		手太陽小腸経、足太陽膀胱経、足少陰腎経、手厥陰心包 経、手少陽三焦経、足少陽胆経、足厥陰肝経			講義	實松
7	経脈の病証(3)		奇経八脈			講義	實松
8	三陰三陽病証(1)		傷寒論の概説、太陽病、少陽病、陽明病			講義	實松
9	三陰三陽病証(2)		太陰病、少陰病、厥陰病、合病から壞病まで			講義	實松
10	六経病証		素問熱論篇の概説、代表的な疾病			講義	實松
11	八綱弁証(1)		表裏寒熱虚実陰陽の各症状			講義	實松
12	八綱病証(2)		表証、裏証、半表半裏証			講義	實松
13	衛気営血弁証		衛分、気分、営分、血分証			講義	實松
14	気血津液弁証(1)		気虚、血虚、陰虚、陽虚、痰湿、湿熱、瘀血、実寒			講義	實松
15	気血津液弁証(2)		気滯、気逆、気脱、気閉、血熱、熱瘀、水湿			講義	實松
16	治療法(1)		古代九鍼、九刺、五刺			講義	實松
17	治療法(2)		十二刺、繆刺			講義	實松
18	治療法(3)		鍼灸の補瀉法、難経六十九難			講義	實松
19	治療法(4)		難経七十五難、その他の選穴法、治療原則			講義	實松
20	東洋医学の医学書		馬王堆医経、脈経、諸病源候論などの書籍紹介			講義	實松
21	陰陽五行論		陰陽学説、五行学説、病理変化の陰陽			講義	實松
22	気血津液		気血津液の機能と病理			講義	實松
23	五臓六腑(1)		肝・胆の生理と病理			講義	實松
24	五臓六腑(2)		心・小腸の生理と病理			講義	實松
25	五臓六腑(3)		脾・胃の生理と病理			講義	實松
26	五臓六腑(4)		肺・大腸の生理と病理			講義	實松
27	五臓六腑(5)		腎・膀胱の生理と病理			講義	實松

28	外邪の性質と症状(1)	六淫と疫癘、外感病	講義	實松
29	外邪の性質と症状(2)	内傷病因、病理産物	講義	實松
30	四診(1)	望聞問切、四診合参、聞診	講義	實松
31	四診(2)	舌診、舌質、舌苔、舌形	講義	實松
32	四診(3)	寸口診法、脈状診	講義	實松
33	四診(4)	比較脈診、六部定位脈診	講義	實松
教科書	公益社団法人東洋療法学校協会編 新版東洋医学概論第1版 医道の日本社 5,200 円＋税			
教材・参考図書	適宜紹介する。			
オフィスアワー	講義時に適宜確認すること。			
履修上の 注意点	覚えていなかった項目はその日のうちに一度覚え、1 週間後にもう一度、3 週間後に二度目の確認をすることを習慣付ける。確認するために自分で問題を作り、自分用の問題集を作る。苦手なところ、解らないところは後回しにせず、できるだけ早く着手すること。			

科目名	総合領域<経穴>				鍼灸科Ⅰ部		
学年	3 年	学期	2～3 学期	時間数	36 時間 (全 300 時間)	単位数	—
科目 責任者	谷口 邦久			科目 担当者	西野 達也		
科目 概要	2 年次までにおいて履修した経絡経穴概論Ⅰ、経絡経穴概論Ⅱを基に、知識を総合的にまとめ、理解を深める。また、学習内容が実際の鍼灸臨床の場面において、経穴学の概念や患者の希望に応じた配穴、安全に施術を実施するための知識と判断、鍼灸師として学び続ける基盤を構築し、臨床能力の向上を図る。						
回数	単元項目		授業内容			形態	担当教員
1	経絡・経穴の基礎(1)		正経十二経の流注、奇経八脈			講義	西野
2	経絡・経穴の基礎(2)		骨度法、五要穴、五行穴、四総穴、八総穴、下合穴			講義	西野
3	前腕の経穴(1)		上腕の五行穴			講義	西野
4	前腕の経穴(2)		上腕の原穴、郄穴、絡穴			講義	西野
5	下腿の経穴(1)		下腿の五行穴			講義	西野
6	下腿の経穴(2)		下腿の原穴、郄穴、絡穴			講義	西野
7	腹部の経穴		腹部の経穴の配置、筋、支配神経			講義	西野
8	背部の経穴		胸部の経穴の配置、支配神経			講義	西野
9	腹部・背部の経穴		腹部・背部の経穴			講義	西野
10	肩部の経穴(1)		肩部後面の経穴と筋、神経			講義	西野
11	肩部の経穴(2)		肩部前面の経穴と筋、神経			講義	西野
12	大腿部の経穴(1)		大腿後面の経穴と筋、神経			講義	西野
13	大腿部の経穴(2)		大腿後面の経穴と筋、神経			講義	西野
14	奇穴		奇穴の取穴と主治			講義	西野
15	頭頸部の経穴		頭頸部の経穴と筋、神経			講義	西野
16	経穴総合(1)		経脈の意義、経穴の意義と概要			講義	西野
17	経穴総合(2)		所属経穴を持つ奇経			講義	西野
18	経穴総合(3)		正経十二経			講義	西野
教科書	公益社団法人東洋療法学校協会編 新版 経絡経穴第 1 版 株式会社 医道の日本社 4,500 円＋税						
教材・参考図書		適宜紹介する。					
オフィスアワー		講義時に適宜確認すること。					
履修上の 注意点		講義前に経絡経穴概論の内容を学習すること。また、参考図書を使用し次授業の範囲について疑問点を挙げておくこと。					

科目名	総合領域〈東臨〉				鍼灸科Ⅰ部		
学年	3 年	学期	3 学期	時間数	12 時間 (全 300 時間)	単位数	—
科目 責任者	谷口 邦久			科目 担当者	木下 圭介、岩倉 宏典		
科目 概要	2 年次に行われた東洋医学臨床論Ⅰ、東洋医学臨床論Ⅱ、3 年次に行われる東洋医学臨床論Ⅲの授業を総合的にまとめ、理解を深めていく。現代医学と東洋医学の双方の観点から患者の病態を把握し、治療方針が組み立てられるよう相互の違いと共通点に着目しながら学習し臨床的な知識を展開する。						
回数	単元項目		授業内容			形態	担当教員
1	東臨総合(1)		診断と治療、診察と記録			講義	木下、岩倉
2	東臨総合(2)		施術の基礎			講義	木下、岩倉
3	東臨総合(3)		症候に対する東西両医学からのアプローチ			講義	木下、岩倉
4	東臨総合(4)		疾患に対する東西両医学からのアプローチ			講義	木下、岩倉
5	東臨総合(5)		高齢者に対する鍼灸施術、スポーツ領域における鍼灸施術			講義	木下、岩倉
6	東臨総合(6)		産業衛生における鍼灸施術、健康と鍼灸施術			講義	木下、岩倉
教科書	公益社団法人東洋療法学校協会編 新版東洋医学臨床論〈はりきゅう編〉南江堂 6,700 円＋税						
教材・参考図書		適宜紹介する。					
オフィスアワー		講義時に適宜確認すること。					
履修上の 注意点		総合的に病態を把握するためには、他の全ての科目の基本的知識が必要となる。特に解剖学、生理学、病理学、臨床医学各論、東洋医学概論、経絡経穴概論は必須である。事前に関連する内容を学習してから授業を受けること。					